

五 事変をめぐる第三国との関係

1 一般問題

1006

昭和12年7月13日

在北平加藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

北寧鉄道の運行確保につき有効措置実施方仏

国側より申入れについて

北平 7月13日後発

本省 7月14日前着

第四二四號(至急)

十三日午前佛國大使館員「ラコスト」書記官館員ヲ來訪事
變突發以來不通ナリシ北寧鐵道ハ十二日一時開通セルモ十
三日朝以來再ヒ不通ノ狀態トナリタル處右狀態カ長引クハ
面白カラサルニ付何トカ北平、山海關間ノ列車運行確保ノ
爲有效ナル手段ヲ執ルコト然ルヘシト思考セラル英國大使
館側モ右ニ付全然同感ナル趣ナルニ付日本側ノ御意見ヲ伺
フ爲參上セリト述ヘタルニ付館員ヨリ御話ノ次第ハ上司ニ
報告スヘキ旨答ヘ置キタル由ナリ
御裁量ニ依リ英、佛、伊ヘ轉電アリタシ

支、在支各總領事へ轉電セリ

1007

昭和12年7月14日

在北平加藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

北寧鉄道復旧のための対応措置につき請訓

北平 7月14日前発

本省 7月14日前着

第四二五號(至急、極秘)

往電⁽¹⁾第四二四號ニ關シ

本件ハ事變當初ヨリ豫想セラレタル問題ナルカ八日館員英
國大使館員ヲ往訪ノ際(往電第三五二號)本件ニ言及セル處
先方ハ不通カ一時的ナル限り英國トシテハ何等措置ヲ執ラ
サルヘシト述ヘ暗ニ事件ニ捲込マルルコトヲ回避セントス
ルヤニ見受ケラレタル趣ノ處十三日ノ申出ハ事態重大化ニ
伴ヒ自由交通確保ノ必要ヲ感シ來リ佛ト相語フテ當方ノ態
度打診ニ來レルモノト認メラル

當地軍側ハ差當リノ意見トシテ列車運行確保ニハ主義上異存ナキモ出來得レハ我方ノミノ手ニ依リ行ヒ度ク左リトテ運轉警戒ノ全責任ヲ

負ハサルルハ面白カラサルニ付尙研究スヘシト述ヘ居レリ當方ニ於テハ列車不通ノ原因カ(一)果シテ支那側ニ在ルモノナリヤ又ハ(二)我方軍事上ノ理由ニ依リ北寧側ノ意思ニ反シテ運行不能ノ狀態ニ置キ居ルモノナリヤ判明セサル處(一)ノ場合ニハ實力ヲ以テ鐵道ヲ管理スル必要ナキヲ以テ列國ト共ニ支那側ニ申出ヲ行フモ差支ナカルヘク(二)ノ場合ニハ列國ノ共同管理ハ面白カラス左リトテ列國ニ對シ我方ニ一任セラレ度キ旨提言スルハ軍側ノ意見ノ通り差控フルコト然ルヘシト認メラルルニ付兎モ角モ北寧ヲシテ列車ヲ運行セシメ列國側ノ口出シノ餘地ヲナクシタル上我方カ自由ニ鐵道ヲ利用スルコト適當ナリト思考セララル

右「ライン」ニテ軍側ト協議ノ上英佛側ニ何分ノ回答ヲ爲ス所存ナルカ御氣付ノ點アラハ折返シ御回示相仰度シ

支、上海、天津へ轉電セリ

1008

昭和12年7月14日

在北平加藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

北寧鐵道運行再開につき報告

北平 7月14日後発

本省 7月14日夜着

第四三四號(部外極祕)

往電第四二五號二關シ

其ノ後確メタル所ニ依レハ不通ノ原因ハ全ク支那側ニアリ(軍隊輸送ノミナラス全面的ニ日本側ニ不便ヲ與ヘントスル底意ニ出テタルモノノ如シ)事實軍トシテモ開通ヲ希望シ居ルコト判明セル一方十四日ニ至リ兎モ角列車運行再開(同日中ハ定期全部ノ外臨時一本發車ノ見込)セラレ居ルヲ以テ往電第四三三號宋ノ保障力事實トセハ當分運行維持セラルル見込アリ或ハ本件ハ此ノ儘立消トナルニアラスヤト思考セラル不取敢

支、上海、天津へ轉電セリ

1009

昭和12年8月5日

在北平森島大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

北平・海浜間における自由交通を阻害しない
よう米仏兩國が書面申入れについて

北平 8月5日後発
本省 8月5日夜着

第六三七號

本官發上海宛電報

第三七號

川越大使へ

五日米國及佛國大使館員相次テ來訪在南京自國大使ノ訓電ニ依ル趣ヲ以テ日本側ニ於テ北平、海濱間ノ自由交通ヲ阻害スヘキ如何ナル行動ヲモ差控フヘキコトニ付閣下ノ御協力ヲ得度キ旨及張自忠ヘモ同様申入ヲ爲シタル旨ノ閣下宛書翰ヲ提出セルニ付右閣下ヘノ轉達ヲ約スルト共ニ北寧鐵路再開ハ我方ニ於テモ極メテ大ナル關心ヲ有シ居ル所ナレハ勿論妨害等行フ筈ナク現ニ昨日ハ滿鐵職員ヲ試運轉列車ニ同乗セシムル等出來得ル限り支那側ニ協力シ居ル次第ナルカ本日ハ天津行旅客列車モ出發セルコトナレハ之以上不通狀態カ繼續スルコトナカルヘク其ノ内正常狀態ニ戻ルコトト思考スル旨述ヘ先日來交通再開ノ爲日本側ニ於テ努力

シ來レル實狀ヲ詳細説明シ置キタリ原文郵送
大臣、支、天津へ轉電セリ

~~~~~

1010  
昭和12年8月26日

中国船舶の沿岸交通遮断に関する外務省声明

付記一 昭和十二年八月三十日、広田外務大臣より関

係公館長宛訓令

右声明に関する対列国応酬方針

二 昭和十二年九月五日

沿岸交通遮断地域の拡大に関する外務省声明

外務省聲明

昭和十二年八月二十六日

帝國ハ我軍隊ニ對スル支那軍ノ不法攻撃竝ニ在支邦人ノ生命財産及我權益ニ對スル支那軍ノ不正ノ侵迫ニ對シ自衛手段ヲ執ルヲ餘儀ナクセラレタルモ當初ヨリ局面ヲ最小範圍ニ限定センコトヲ念トシタリ然ルニ支那軍異次ノ暴戾ナル挑戰的行爲ニ依リ事態ハ益重大ヲ加フルニ至レリ  
(米カ)  
右事態ニ對處シ支那ノ反省ヲ促シ、速ニ事態ヲ安定セシメ

ントスルノ考慮ニ基キ帝國海軍ハ已ムヲ得ス昭和十二年八月二十五日午後六時ヨリ北緯三十二度四分、東經百二十一度四十四分ヨリ北緯二十三度十四分、東經百十六度四十八分ニ至ル支那沿岸ニ對シ支那船舶ノ交通ヲ遮斷スルノ措置ヲ執ルニ決シタリ然レトモ右ノ措置ハ專ラ支那側ノ不法行為ニ對スル自衛的措置ニ外ナラスシテ帝國海軍ハ第三國ノ平和的通商ヲ尊重シ之ニ干渉ヲ加フルノ企圖ヲ有セサルモノナルコトヲ附言ス

編 注 本文書は、東亜局作成「昭和十二年度執務報告 第一

冊（第一課關係）」より抜粋。

### （付記一）

(1) 本件交通遮斷ハ二十五日長谷川第三艦隊長官ノ宣言ニ明記セラルル如ク支那船舶ニ對シテノミ其ノ效力ヲ有スルモノニシテ第三國船舶ニハ及ハス從テ第三國船舶ニ依ル武器彈藥等ノ輸送ハ本件適用外ナリ尤モ今次宣言ノ發出以來支那船舶ニシテ右宣言ノ效力ヲ免カルル爲僞ツテ第三國ノ國旗ヲ掲クルモノアリ、此等ノ懸疑アル船舶ニ對

シテハ帝國トシテモ右カ實際上支那船タルコトヲ確ムル爲臨檢ヲナスノ必要ニ迫ラレ居ル處第三國船舶トノ間ニ無用ノ誤解ヲ起スコトハ固ヨリ我方ノ希望セサル所ナルヲ以テ右宣言地域ニ出入スル外國船ニ關シテハ事前ニ船名、船長ノ氏名、噸數資本ノ關係等ヲ我方ニ通報セラルルコト好都合ナリ

(2) 帝國政府ニ於テ日支間現下ノ事態ニ對應シ支那側ノ反省ヲ求ムルト共ニ速ニ事態ヲ安定セシムルトスルノ考慮ヨリ本件措置ヲ採ルノ已ムナキニ至リシ次第ハ八月二十六日外務省ノ發表ニ依リ御承知ノ通ナリ。日支間目下ノ情勢ニ於テ外國ヨリ多數ノ武器彈藥等カ支那ニ輸入セラルルコトハ精神的及物質的ニ支那側ノ抗日氣勢ヲ助長セシメ今次ノ紛爭ヲ益々擴大セシムルモノナルヲ以テ帝國政府トシテハ關係列國カ此ノ間ノ機微ナル事情ヲ察シ此ノ種支那側ヲ附上ラシムルカ如キ措置ハ出來得ル限り之ヲ差控ヘラレムコトヲ希望スルモノナリ

(3) 今次宣言ノ效力カ第三國船ニ及ハサルコトハ敍上ノ通りニテ目下ノ處帝國政府ニ於テハ外國船ニ依ル武器彈藥等ノ輸入ヲ阻止スル爲特別ノ措置ニ出ツルカ如キコトヲ考

慮シ居ラサルモ是等ノ武器彈藥ノ輸入力支那側ノ抗日の  
態度ヲ増大セシムルコトハ前記ノ通りナルヲ以テ今後ノ  
事態如何ニ依リテハ帝國政府トシテモ支那側ニ對スル武  
器彈藥等ノ輸入ヲ根絶セシムル爲更ニ一層有效適切ナル  
措置ヲ講スルノ已ムナキニ至ルヘシ

編 注 本付記は、東亜局作成「昭和十二年度執務報告 第一

冊(第一課關係)」より抜粋。

(付記二)

外務省聲明

昭和十二年九月五日

帝國政府ハ曩ニ時局ヲ速ニ收拾シ事態ヲ安定スル目的ヲ以  
テ支那船舶ニ對シ中南支沿岸一部ノ交通ヲ遮斷スル措置ヲ  
取レル處今般更ニ右區域ヲ擴張シ昭和十二年九月五日午後  
六時ヨリ北緯四〇度零分東經百十九度五十四分ヨリ北緯二  
十一度三十三分東經百八度三分ニ至ル青島及第三國租借地  
ヲ除ク爾餘ノ中華民國沿岸ニ對シ支那船舶ノ交通ヲ遮斷ス  
ルコトニ決定セリ。然レ共右ノ措置ハ専ラ支那側ノ反省ヲ

促サントスルノ念慮ニ出ツルモノニシテ、帝國政府ハ第三  
國ノ平和的通商ハ尊重スヘク之ニ干渉ヲ加フルノ意圖ヲ有  
セス

編 注 本付記は、東亜局作成「昭和十二年度執務報告 第一

冊(第一課關係)」より抜粋。

~~~~~

1011

昭和12年9月5日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

沿岸封鎖地域の拡大に際し天津方面の事情を
踏まえた応酬振り策定のため政府中央の方針
回示方請訓

天津 9月5日後発

本省 9月5日夜着

第八九〇號(大至急)

貴大臣發上海宛電報第四八一號二關シ

一、五日午後六時ヨリ北緯四十度零分、東經百十九度五十四
分ヨリ北緯三十四度三十分、東經百十九度五十五分ニ至
ル青島ヲ除キタル爾餘ノ支那沿岸ニ對シ支那公私船ノ交

通ヲ遮斷スル旨竝ニ第三國及帝國船舶ハ出入ヲ妨ケサル旨ノ第二艦隊吉田司令長官ノ宣言發セラレタル趣ヲ以テ當地ノ駐在海軍武官ヨリ當地支那官憲ニ通告乃至外國官民ニ通知方ニ付協議アリタルカ冒頭貴電末段ノ宣言乃至公示案モ御通報ナク其ノ處理振ニ付テモ別段ノ御訓令モナカリシニ付(貴電合第一一七八號當方ニ轉電ナキコト往電第八八〇號ノ通りニシテ上海發貴大臣宛電報第一一五二號等モ轉電ナキ爲上海ニ於ケル措置モ判明セス)當方トシテハ單ニ宣言發出ノ事實ヲ外國新聞記者ニ話シ置クニ止メ外國領事塘沽碇泊中ノ外國軍艦海關等ニ對スル通告モ差控ヘ居レリ當方トシテハ何等カ措置ノ必要アラハ大至急御回示ヲ請フ尙通告ノ要アラハ翻譯ノ誤等ヲ避クル爲英譯文モ電報ヲ請フ

二、⁽²⁾尙本件交通遮斷ノ目的ハ軍需品及一般物資ノ出入ヲ阻害シテ戰鬪力ノ減殺ヲ計ルニ在ルモノト存スル處我軍ノ事實上占領シ居ル當地方ノ沿岸ニ交通遮斷ヲ爲スノ理由判明セス(武器ハ從來通りノ監視及臨檢、當地稅關トノ目下ノ關係ハ既ニ既電ノ通り)ニテ阻止シ得ヘク一般物資ノ出入ハ成ルヘク之ヲ助成スル方我軍ノ戰鬪力ヲ増大スル

譯ナリ是等ノ點ニ付天津軍トモ打合ナカリシカ如シ)此ノ邊ハ外部ニ對スル應酬上モ將又現實ノ問題トシテモ本省ノ御方針ヲ心得置キ度キニ付何分ノ儀御回電ヲ請フ(尙支那籍船舶ニ依ル白河水道ノ故意ノ閉塞豫防方ニ付テハ引續キ大沽沖海軍ニ於テ充分監視中特ニ之カ爲交通遮斷ノ要ナシト存ス)

三、右現實ノ問題トハ塘沽沖ニ於テ積取ヲ爲ス「ライター」及「タツグ・ボート」(支那籍ノモノ相當アリ)秦皇島等ヨリ石炭其ノ他物資ヲ輸送スル汽船及民船(支那籍船ニテモ往復スル船成ルヘク多キ方有利ナリ船腹不足ノ爲邦人ニテ支那籍船ヲ臨時「チャーター」シ居ル者アリ又民船ハ全(部)?支那籍ナリ)、塘沽沖等ニ於テ漁業ニ從事スル船舶(邦人所有ノ支那籍船モアル見込)、海關燈臺補給船、海關監視船(目下ノ海關トノ交渉ニモ關聯ス)、治安維持會ノ接收セル水上公安局所有船等ニ付テ相當詳細ニ研究スルヲ要シ結果ハ更ニ電報スヘキモ第二艦隊司令官及幕僚七日中ニ來津ノ筈ナレハ夫レ二間ニ合フ様前記ニ對スル本省ノ御方針ノ御回示ヲ得ハ同司令官ト細目ヲ打合セ度キ所存ナリ

上海、北平へ轉電セリ

1012

昭和12年9月8日

広田外務大臣より
在独国武者小路大使、在満州国植田大
使、在米國齋藤大使他宛(電報)

中ソ不侵略条約や中国沿岸封鎖問題などに関
する広田外相と在本邦独国大使との意見交換
につき通報

本省 9月8日後11時50分発

合第一四三一號(極秘)

七日獨逸大使本大臣ヲ來訪時局諸問題ニ關シ長時間會談セ
ルカ要領左ノ通り

一、先ツ大使ヨリ蘇支不可侵條約成立ノ結果兩國間ニハ緊密
ナル關係生シタル次第ナルヲ以テ獨逸政府トシテハ同條
約ヲ多大ノ關心ヲ以テ注視シ居ル處日支紛爭ノ尖鋭化ハ
支那ヲシテ益々蘇側ニ頼ラシムル結果トナリ日本側ノ避
ケントスル事態ヲ却テ招來セサルヤヲ慮ル在蘇獨逸大使
ヨリ「本件條約ニ密約ヲ伴ハサルヤニ付探査中ナルモ今
日迄右事實ヲ發見スルニ至ラサル處蘇側トシテハ目下内

部的ニ種々弱點ヲ有スル爲此際日本ト開戦ハセサルヘキ
モ紛爭長引キテ日本側ノ疲弊スルコトハ蘇ノ最モ希望ス
ル所ト考ヘラルル」旨ノ報告ニ接セリト述ヘタルニ付本
大臣ヨリ許支那大使ハ本大臣ニ對シ蘇支不可侵條約ハ一
九二四年ノ露支協定ノ有效ナルコトヲ認メ居ルヲ以テ外
蒙古ニ對スル支那ノ主權及支那ニ於ケル赤化宣傳ノ禁止
ニ付テハ渝リナキ旨説明シタルカ蘇支關係ハ極メテ注目
ヲ要スルモノト思考スル旨述ヘ置キタリ

二、次ニ大使ヨリ支那船交通遮斷問題ニ付獨トシテハ直接ニ
ハ關係ナキモ一般的見地ヨリ關心ヲ有スル次第ナルカ第
三國トノ關係力之ニ依テ紛糾スルニ至ラサルヤ、米國ヨ
リ Wichita 號來航ニ關シ面倒起ラサルヘキヤ又第三國カ
續々兵器彈藥等ヲ輸送スル場合之ニ對スル措置如何ト訊
ネタルニ付本大臣ハ帝國政府ハ第三國トノ關係ヲ紛糾セ
シムルコトヲ最モ好マサルヲ以テ大体ニ於テ第三國船ニ
ハ干渉セサルヘシ尤モ兵器彈藥ノ輸送ハ平和の通商ト云
ヒ難ク從テ右第三國ヨリノ大量ノ武器供給ニ依リ支那側
ノ勢力カ著シク増大セラルルカ如キ場合ニハ我方トシテ
モ考慮ノ要アルヘシ尙 Wichita 號ハ上海ニ荷物ヲ陸揚ケ

スルコトハ現地ノ狀況上到底不可能ナルヘキヲ以テ他ノ
地點ヘ陸揚ケノコトトナルヘク面倒起ルヘシトハ考ヘ居
ラスト答ヘタリ

三、大使ヨリ「ヒューゲッセン」大使問題ニ關シ帝國政府ノ
回答ハ如何ナル責任ヲモ執ラストノ趣旨ナルヤノ噂サヲ
聞キタルカ「クレীগー」大使ハ横濱着ニ當リ本問題カ
満足ニ解決セラレサルニ於テハ同大使ハ果シテ永ク日本
ニ止マリ得ルヤ疑問ナルヲ以テ差當リ旅裝ハ解カサル旨
ヲ述ヘタルヤニ聞キ及ヒ居リ本件ハ取扱如何ニ依テハ英
國輿論ニ大ナル刺激ヲ與ヘ日英間ニ紛爭ヲ惹起セサルヘ
キヤト問ヘルニ付本大臣ヨリ今日迄ノ我方調査ニ依レハ
我方飛行機ノ所爲ナリト斷定スヘキ材料ナキモ尙調査ヲ
繼續中ニシテ右情勢ニ基キ中間の回答ヲ發シ且公表スル
コトトナリ居ル次第ナリト説明セリ

四、大使ヨリ近衛首相ノ議會演說ハ從來貴大臣ヨリ承リ居ル
所ニ比シ一般ニ調子強キ様ニ思ハル同首相ハ支那軍隊ニ
a thoroughgoing blow ヲ加フヘキ旨述ヘラレ居ル處然ラ
ハ結局南京政府ヲ打倒スルコトトナラサルヤト問ヘルニ
付我方トシテハ南京側ニ大打撃ヲ與ヘントスルモノニシ

テ必スシモ之ヲ打倒セントスルモノニ非ス帝國政府ノ眞
意ハ本大臣議會演說ノ終ニ述ヘタル通りト御承知アリタ
シト答ヘ置ケリ

五、最後ニ大使ヨリ日本ハ結局上海ノ事態ヲ如何ニ處理セラ
ルル方針ナリヤト訊ネタルニ付本大臣ハ右方針ハ未タ決
定シ居ラサルモ現行ノ如キ停戰地區ノ設定ニ依リ治安ヲ
確保シ得ルコトトナラハ各國ニトリテモ有利ナルヘシト
信スト答ヘタル處大使ハ上海ノ事變カ支那側ノ停戰地區
侵犯ニ依テ惹起セラレタルコトハ日本側ニトリテ強キ
「ケース」ナリト述ヘタリ

本電宛先 獨、蘇、滿、米、上海、北平、天津
獨ヨリ在歐各大使(蘇、土ヲ除ク)ヘ轉電アリタシ

1013

昭和12年9月15日

広田外務大臣より
在天津堀内総領事、在上海岡本総領
事、在香港水沢総領事宛(電報)

沿岸封鎖が中国貿易および海運に与える影響
につき調査方訓令

本省 9月15日前10時発

合第一五一六號

今次事變特ニ我カ海軍ニ依ル沿岸封鎖ノ支那國貿易及海運ニ及ホセル影響ニ付貴地方ニ於ケル左記事項概要ニテ差支ナキニ付御査報アリ度調査困難ナラハ貴官ノ觀測ニテ差支ナシ

(1)外國船(外國籍支那沿岸航路船ヲ含ム)出入狀況

(2)輸出入貿易ノ概要特ニ事變以來ノ著シキ變化

(3)封鎖ニ依ル打撃ノ程度

本電宛先 天津、上海、香港

1014 昭和12年9月21日 広田外務大臣より
在英国吉田大使宛(電報)

事變の任国に対する經濟的影響につき報告方訓令

本省 9月21日後4時40分發

第三八一號

今次事變ニ伴フ貴任國經濟界ノ我方ニ對スル動向ニ付テハ從來モ御報告ニ接シ居ル處今后特ニ左記ノ點ニ御留意ノ上隨時電報アリタシ

一、事變ノ貴任國經濟界(經濟金融市場海運企業及日支兩國

トノ貿易等)ニ及ホセル影響

二、貴任國經濟界ノ日、支兩國ニ對スル態度竝兩國經濟財政等ノ將來ニ付テノ觀測

本大臣ノ訓令トシテ佛、獨、伊、白、米ニ轉電シ米ヨリ紐育ニ轉報セシメラレタシ

1015 昭和12年9月22日 在英国吉田大使より
広田外務大臣宛(電報)

英国に対する事變の經濟的影響につき報告

ロンドン 9月22日後發
本省 9月23日前着

第六八三號

貴電⁽¹⁾第三八一號ニ關シ(日支事變ト各國經濟界ノ動向ニ關スル件)

一、支那ニ於ケル英國ノ權益及貿易ノ將來ニ付テハ當國各方面ニ於テ重大ナル關心ヲ有シ稅關ノ將來、封鎖ノ影響、支那ノ赤化及耕作力ノ回復如何等ヲ憂ヒ若シ日本カ其ノ目的ヲ達成シ支那ノ行政的解体ヲ見ルカ如キコトアラハ一大事ナリトシ又支那ノ經濟的更生ニ多大ノ期待ヲ生セ

シメタル支那幣制改革ニ一頓挫ヲ來スヘキコトヲ危惧シ居ル向少カラス

更ニ今次事變ニ依ル直接被害ノ救済方法等ニ付テハ二十一日倫敦商業會議所ハ英米煙草ノ Archibald Rose ヲ議長トシテ左ノ決定ヲ爲セル趣ナルカ英國產業聯盟モ此ノ種問題審議ノ爲二十九日支那協會トノ合同會議開催ノ筈ナリ

(イ)上海被害賠償問題ニ付テハ在上海英國商業會議所ヲシテ調査ニ當ラシムヘキモ不取敢外務省ニ對シ英人所有財産占據ニ對スル即時賠償交渉方ヲ陳情スルコト

(ロ)前記產業聯盟ノ招請ニ應シ在支權益擁護及賠償要求ニ關スル協同政策ノ審議ニ參加スヘキコト

(ハ)⁽²⁾陸上保險拒絕ハ最近直通ノ漢口香港間鐵道ノ利用ヲ妨ケルニ付右鐵道ノ香港ニ對スル永久的價值ニモ鑑ミ保險業者ヲシテ鐵道積貨物ノ保險ニ應セシムル様交渉スルコト

(ニ)在支堆積貨物ノ處分方法其ノ他ニ付外務省ニ陳情スルコト

二、日本ノ對外貿易ニ付テハ輸出入臨時措置實施ノ報道ト共

ニ新聞ハ悲觀的觀測多ク又其ノ爲替政策ニ付テモ依然危惧ノ念一掃セラレス例ヘハ二十一日「フアイナンシア・タイムス」ハ「ジャパン・タイムス」社説ヲ引用シ一志ニ片維持困難ヲ報シ居レリ他方日英ノ競争關係ニ付テハ既報ノ如ク「マンチエスター」方面ニ於テ種々論議セラレ居ルモ大體ノ傾向トシテハ日本品ノ競争力ハ漸次減退スルモノト目シ居ルカ如シ(特ニ「ガーディアン」ノ如キハ綿業ニ付テ日本現下ノ實情ヲ詳細報道シ居レリ尙濠洲ニ於ケル日本「ステイプル・フアイバー」ノ輸入及「セイロン」ニ於ケル日本綿布割當問題ニ付テハ最近頻リニ懸念シ居ル趣ナルモ日本將來ノ輸出力ヲ考慮シ比較的樂觀シ居ル向モアリ)

三、⁽³⁾日本ノ財政狀態ニ付テハ政府カ非常ニ大規模ナル耐久的戰鬪準備ヲ爲シ居ルコト竝ニ戰鬪カ意外ニ長引キ居ルコト等ニ付當國各方面ハ依然トシテ多大ノ注意ヲ拂ヒ居ル處責任アル方面及有力新聞ニ於テハ日本經濟力ハ到底支那ノ比ニアサルコトヲ既ニ充分了解シ居ルモ何分支那ノ財政ニ付テハ其ノ内容不詳ナルト有力ナル支那關係ノ英人多數アル爲一般新聞雜誌ハ支那ノ狀態ニ付テハ努メ

テ論評ヲ避ケ他面我財政經濟狀態ニ付テハ動モスレハ悲觀的ナル東京通信ヲ掲ケル傾向アリ

然レトモ市場一般ノ對日信用ハ最近北支及上海ニ於ケル我軍事的成功ノ報漸次恢復シ事件以來一時六十磅ヲ割リタル我六分利附公債モ二十一日ニハ七十二磅半迄引戻セリ之ニ對シ支那公債ハ依然慘落狀態ニアリ(支那一九一三年五分利附ハ事件前百磅、八月十一日迄九十磅臺、同二十三日迄八十磅臺、九月二十一日六十磅トナル)

在歐洲各大使、米、壽府ニ暗送セリ
大臣ヨリ上海ニ轉電アリタシ

1016

昭和12年9月28日
在上海岡本總領事より
広田外務大臣宛(電報)

沿岸封鎖による上海方面の貿易海運への影響 につき報告

上海 9月28日後発
本省 9月28日夜着

第一六二六號

貴電合第一五一六號ニ關シ(支那沿岸封鎖ノ支那貿易及海

運ニ及ホセル影響査報方ノ件)

當地ニ付テハ事變ノ影響即チ交戰ニ伴フ破壊混亂力起リタル後沿岸封鎖行ハレ(八月廿五日)然モ今尙交戰ニ伴フ多大ノ危險竝ニ海運貿易上重要ナル楊樹浦、浦東地區ノ未開放等ノ現象繼續シ居ル關係上一般事變關係ト封鎖ニ依ル結果ト二分チテ觀察スルコト至難ナルモ左記各項八月統計ハ上海港ニ關スルモノニ付テハ主トシテ之カ原因ヲ當地交戰竝ニ支那側ノ長江封鎖等換言スレハ事變其ノモノニ求メサルヘカラス而シテ封鎖ノ結果トシテハ九月或ハ十月ノ統計ニ現ハレ來ルモノト判定セラル左記ハ八月全支貿易統計發表ヲ待チ一應纏メタル結果ナリ(委細郵報)

(一)外國船出入狀況

上海港ニ付テハ八月ハ七月ニ比シ外國航路約五割沿岸航路約六割三分ノ激減ヲ示セルカ右ハ當地交戰開始以來數日間ハ我力運送船ヲ除キ外國船ノ出入ハ殆ト全ク杜絶シ其ノ後モ匯山、楊樹浦、浦東地區カ未タ開放ノ域ニ達セサル爲依然多大ノ障害ニ遭遇シ居ルカ爲ナリ
長江流域及浙江省海港ニ付テハ前者ハ江陰封鎖ノ結果モアリ激減シ居レリ

(二)輸出・輸入貿易

全支外國貿易ハ七月ニ入りシモ依然好況ヲ續ケタルモ
(前年同期ニ比シ輸入六五・七「パーセント」、輸出四
六・九「パーセント」ノ増加)八月ノ統計ニ於テハ各地
交戦ニ伴フ商取引ノ危険及船舶出入ノ困難等ノ爲前月ニ
比シ輸入五五・三「パーセント」輸出五四・九「パーセ
ント」ノ激減ヲ見タリ(委細往電第一五九五號御參照)
上海港ニ就キテハ七月ニ於テモ依然輸出入旺盛ナリシカ
同月末以來北支事變ノ影響ヲ受ケ八月初旬ノ狀態ハ當地
ニ於テモ貨物輸入ノ積止ヲ見タルモノアルモ一方取引ヲ
急ク者モアリ輸出ニ於テハ約定品ノ積出急キト或ル種品
目ノ輸出禁止制限等アル等形勢混沌タリシカ上海ニ於ケ
ル日支交戦ノ突發ヲ見各商社トモ對策ヲ講スル暇モ無ク
他方外支金融機關ノ機能停止ノ結果取引全然杜絶シ貨物
ノ積出シ及取引不能トナリタル結果八月中貿易額ハ前月
ニ比シ輸入六三・七「パーセント」、輸出五五・一「パ
ーセント」ノ著減ヲ示セリ(往電第一四五三號御參照)
尙長江沿岸及浙江省海港ノ貿易ニ付テハ八月ニ於ケル輸
入ハ七月ニ比シ一七「パーセント」ニ過キササルモ輸出ニ

於テハ八〇「パーセント」ノ激減ヲ示セルカ右ハ上海地
方不安及長江封鎖ニ伴フ主トシテ奥地積出貨物ノ減退ニ
起因ス

(三)封鎖ニ依ル打撃

前述ノ如ク未タ之ヲ測定スヘキ資料無キト共ニ上海ノ如
キハ平靜復歸ニ伴ヒ封鎖ニ拘ラス若干貿易ノ恢復ヲ見ル
コトアルヘキモ外國及沿岸航路從事ノ支那籍船舶出入統
計ハ本年上半期ニ於テ六千隻二百二十三萬噸(總噸數ノ
一割)ナル處上海ニ付テハ八月ハ七月ノ約三割ニ低下シ
居リ之カ全部機能ヲ停止スル曉ニ於ケル打撃ハ鮮カラサ
ルヘク右ノ外「ジャンク」貿易ニ對スル封鎖ノ效力ハ統
計無キモ相當嚴シキモノト想像セラル

北平、天津へ轉電アリタシ



1017

昭和12年9月28日
在ニューヨーク若杉総領事より
広田外務大臣宛(電報)

米国に対する事變の經濟的影響につき報告

ニューヨーク 9月28日後発
本 省 9月29日前着

商第一七九號

貴大臣發英苑電報第三八一號二關シ⁽¹⁾

日支事變ノ當地經濟界ニ及ホセル影響ヲ概觀スルニ金融市場ハ表面平靜ナルモ底意ハ警戒氣味ニテ對日支輸出取引ニ對シテハ安全第一主義ニ基キ旁本邦爲替管理ノ前途不安モ手傳ヒ信用供與ハ次第第二窮屈トナリツツアリ對日輸出等ノ賣手ハ先週ヨリ從來ノ船積後拂條件ヲ船積前拂ニ變更シ來レルカ右ハ「アナコンダ」社輸出部長「ケネデー」カ輸出商ニ語レル所ニ依レハ米國大藏省當局ノ意嚮ヲ反映スルモノナルカ如キ節アル由ナルモ此ノ間中立法發動ニ對スル運動或ハ合同組合ノ日本向ケ貨物荷役罷業提案等ノ懸念ニ依ルモノト見ラルル次第モアリ未タ之ヲ以テ金融方面ノ壓迫ト見ルハ早計ナランモ今後ノ形勢ハ特ニ注意ヲ要ス

圓爲替ニ對シテハ本邦金現送ノ先行ニ付種々ノ論議アルカ二十六日紐育「タイムス」掲載ノ「バードン・クレーン」所說ニ依レハ日本ノ金保有高ト國際收支關係ヨリ見テ本年十一月半迄ハ金現送ヲ持續シ得ヘク尙戰費カ特ニ此ノ上激増セサル限り日本ノ私有外國公債(約二億弗)等ノ處分ニ依レハ本年三月末迄ハ爲替維持ヲ行ヒ得ヘシトノ觀測アリ

(尙特情第一九六號御參照)

本邦公債ニハ大口取引ナキモ一時反撥後各國ノ對日態度殊ニ日露關係惡化ノ報ニ軟化(支那財政ニ關シテハ正確ナル材料ナキ爲カ餘リ問題トナリ居ラス)

商品界ハ今後ノ戰況如何殊ニ昨今支那各地空爆ニ依ル非戰鬪員及婦女子等被害ノ報道ニ刺戟セラレ輿論惡化ニ依リ排日貨運動擡頭ヲ懸念スル向アルモ今迄ノ處小賣商ニ日本品仕入ヲ手控フルモノ弗々アル位ニテ未タ卸賣輸入方面ノ解約等ナシ但シ英國ニ於ケル「ボイコット」運動ニ誘導セラルル惧ナシトセス今後ノ推移ハ重大視セラル

輸入日本品ハ綿製品其ノ他雜貨等本邦原價高ノ爲商談振ハス、支那ヨリノ輸入杜絶ニ桐油ヲ初メ「ブリツスル」毛皮、獸皮、「カーベツト、ウール」「エッグ、ヨーク」「アルビユーマン」「アンチモニー」「タングステン」及絹刺繡其他雜貨何レモ昂騰

對日輸出品中石油、機械類等活況ナルカ屑鐵、銅、錫、亞鉛、白金等ノ金物ハ上半期ノ輸出激増ニ反シ最近ハ爲替手當難ノ爲停頓ノ商狀ヲ示シ日支事變ノ影響トシテ見ルヘキモノナシ

海運界ハ曩ニ東洋方面船腹不足ノ處米國政府所有船ノ武器運送禁止ノ爲日本船腹需要旺盛トナル筈ナルモ對日輸出一服ニ氣迷ノ體、今後政府ノ中立法ニ對スル態度竝ニ勞働組合罷業提案等懸念材料多々アリ支那方面行ハ戰時保險適用以來不安激化ニ商談ナシ

米、在米各領事へ暗送セリ



1018

昭和12年10月2日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

沿岸封鎖による天津方面の貿易海運への影響 につき報告

天津 10月2日後発
本省 10月2日夜着

第一〇三二號

貴電合第一五一六號ニ關シ(支那沿岸封鎖ノ支那貿易及海運ニ及ホセル影響査報方ノ件)

當地市場ハ天津襲撃事件以來

(一)對奧地交通(水陸共)ノ完全ナル杜絶

(二)支那銀行「モラ」ニ依ル極度ノ金融閉塞

(三)休業セル華街有力支那商人ノ再開躊躇

等々ノ事情ニ依リ食糧及日用雜貨ノ店頭商内ヲ除イテハ一般商品ノ荷動キ殆トナク從テ當地輸出入貿易ハ我海軍力沿岸封鎖ヲ行フニ先立チ既ニ中絶ノ狀態ニ陥リ居レリ御推問ノ三項ニ關シテハ

(一)外國船出入狀況

七月中ノ天津出入船舶數ハ(二)ニ記述セルカ如キ事情ニ依リ統計上ニハ事變ノ影響左シテ現レ居ラサルモ八月ニハ之カ影響ヲ全面的ニ反映シ激減ヲ示シタリ即チ七月中ノ天津入港外國船ハ隻數百三十隻登簿噸數二十萬二千四百九十六噸同シク出港外國船百三十二隻二十萬八千六百一噸ニシテ入港外國船ハ六月ニ比シ八分九厘(登簿噸數以下同シ)ヲ減少セルニ過キス又前年七月ニ比スレハ却テ一割七厘ノ増加ヲ示シ一方出港外國船ハ六月ニ比シ六分九厘ノ減少前年七月ニ比シ一割八分七厘ノ増加ヲ示シタルモ八月ニハ入港外國船五十九隻十一萬五百四十七噸出港外國船六十八隻十一萬八千五百四噸ニシテ入港ハ七月ニ比シ四割五分四厘前年八月ニ比シ四割一分二厘ノ激減トナリ出港モ七月ニ比シ四割三分一厘前年八月ニ比シ

(二)⁽²⁾ 三割八分五厘ノ激減ヲ示シタリ(委細郵報)
輸出入貿易概要

屢報ノ通り當地輸出市場ハ春以來全般的ニ稀有ノ品掠レ
狀態ヲ續ケ來リ蘆溝橋事件發生當時ハ當地、奧地共ニ在
貨極メテ薄ク商況閑散ニ陥リ現ニ天津港ノ關稅收入ニ依
リ明カナル如ク(七月以降ノ當港貿易額ハ發表サレ居ラ
ス)七月中ノ當港輪移出高ハ前月ヨリ約四割近クノ激減
ヲ示シタル模様ナルモ假ニ事變ノ勃發ナシトスルモ相當
ノ減少ハ免レサリシナルヘク一方同月ノ輸入ハ冬物手當
期ナルヲ以テ時局懸念ニ依リ積急キ旁々六月ヨリ却テ増
加ヲ示シタルカ八月ニ入りテハ冒頭諸事情ノ外事變輸送
ノ輻輳ニ伴ヒ船及埠頭人夫ニ著シキ不足ヲ生シ且倉庫ノ
收容餘地皆無トナレル爲輸出入共ニ激減ヲ呈シ此ノ間支
那籍船舶ノ運行ハ七月末全ク停止シ八月中旬ニ至リ日清
汽船英商「ジャードン・マヂソン」及「バタールフィール
ド」ノ沿岸航路モ運行ヲ停止セリ九月ニ至リ戰線ノ進展
ト同時ニ食料品ヲ主トシテ物資稍動キ始メ四日ヨリ「ジ
ヤードン・マヂソン」ハ香港線(週一回)、「バタールフィ
ールド」ハ上海線(四日二一回)、香港線(週一回)ヲ回復

シ歐米航路モ九月中三隻(通常約十隻)ノ入港アリ日本航
路モ阪神線八隻(通常十二乃至三隻)、橫濱線三隻(通常
九隻)ノ入港ヲ見タルモ沿岸航路ハ南支方面ヨリ避難ス
ル船客ノ輸送カ主ニシテ揚荷、積荷共ニ見ルヘキモノナ
ク歐米航路モ揚荷ハ歐洲船舶殆ント皆無米國船ニ僅ニ材木
ノ入荷アリ積荷ハ卵製品、羊毛、皮革等大部分動物產品
ナルモ當地品薄ナル爲數量的ニ極メテ寥々タリ

⁽³⁾ 日本船ノ揚荷ハ麥粉ヲ始メ食料品カ大部分ヲ占メ事變後
積止メサレ居タル建築材料、自轉車部分品、洋紙モ弗々
入荷シ積荷ハ棉花骨粉カ主ナルモ數量ハ微々タリ

天津港ノ七月ニ於ケル關稅收入(附加稅共)ハ輸入稅百四
十一萬六千三百三十三海關金單位ニシテ六月ニ比シ七分一
厘增前年七月ニ比シ十六割四分八厘增、輪移出稅五十萬
五千二百七十一元ニシテ六月ニ比シ三割九分二厘減前年
七月ニ比シ一割四分一厘減、八月ハ輸入稅二十一萬七千
七百八十海關金單位ニシテ前年八月ニ比シ七割減、輪移
出稅四十二萬五千五百十五元ニシテ前年八月ニ比シ一割
九分三厘減

(三) 封鎖ニ依ル打擊ノ程度

上述ニ依リ明カナル如ク事變後現在迄ノ當地財界ノ動キハ沿岸封鎖ヨリモ事變其ノ物ニ直接左右サレ居ル次第ナルカ今後戰線ノ南進ト同時ニ北支財界ノ機能カ常態ニ復セハ封鎖自體ニ依ル影響漸次現ハルヘシ即チ從來當地ハ年々約三千萬元ノ麥粉ヲ上海ヨリ、約五千萬元ノ綿製品ヲ上海、青島ヨリノ移入ニ仰キ來レルカ今後は等ハ主トシテ日本及滿洲品ニ振替ヘラルヘク又當地ヨリ中南支方面ニ移出シ來レル棉花(年約一千萬元)、種物及同製品(年約八百萬元)、石炭(年約四百萬元)等ハ今後上記日本及滿洲ヨリ輸入セラルコトトナルヘキ綿製品及麥粉等ト「バーター」的ニ日本乃至滿洲向輸出ニ振替ヘラルヘシト思料セラル

北平、上海ヘ轉電セリ

香港ヘ轉電アリタシ

1019

昭和12年10月2日

在シンガポール郡司(喜一)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

シンガポールにおける排日貨運動の状況について

第一四〇號

シンガポール 10月2日後発
本 省 10月2日夜着

貴電合第一八〇八號ニ關シ(華僑ノ排日貨運動ニ關スル件)ニ、事變ニ伴フ當方面排貨運動ハ素ヨリ煽動ニ基クモ巧妙且表面上合法的の二行ハレ從來ノ夫レニ比シ多分ニ進歩シ暴行等ヲ避ケ合法的經濟的の二行フヲ以テ一見何人ヲモ首肯セシム且事變ノ性質上英支利害ヲ一ニスル關係上當領政府トシテモ名義ノ立ツ限リ運動ヲ默認スル態度見ヘ自由意思ニ依ル不買運動ハ取締ノ途ナシトシ且煽動等ノ證左ナシト強調スルヲ常トス又他面英本國其ノ他ニ於テモ運動擡頭ノ氣配アル今日原因ノ如何ヲ問ハス半ハ支那ノ觀ヲ有スル當地トシテ此ノ舉ニ出ツルハ已ムヲ得サルモノニシテ且右ノ事情ニ依リ政府ニ更メテ申入ルルモ取締ハ不可能ナルヘシト存セラル

二、當方面トシテハ貿易ノ外鐵工業護謄園等重要ナル本邦人事業アリ若シ此ノ種事業ニ對シ「ストライキ」等發生スルコトハ頗ル重大ナルニ付努メテ官憲ノ感情ヲ刺戟セス此ノ方面ノ保護ヲ依頼シ居リ實ハ排貨位ニテ事濟メハ寧

ロ幸ナリト思考シ居ル次第ナリ、排貨運動ノ内情ヲ見ルニ「ストツク」ノ品切ト同時ニ内密取引ヲ始ムルノ例ニシテ現ニ輸入實狀ヲ見ルモ七、八月ハ影響ナク九月カ約半額位今後モ半額位ニテ見積リ得ヘシ尙在留邦商ハ何レモ喜ンテ國策ノ犠牲トナルノ決心ヲ有シ不平ヲ言フ者ナシ

三、從來英、支人共ニ日本ハ早晚經濟の二崩壞スヘシト看做シ居ルニ付此ノ際排貨取締方等ヲ執拗ニ申入ルルコトハ前記ノ如ク何等ノ效果ナキノミナラス却テ我方ノ弱點ヲ暴露シ彼ニ乘セラルルノ惧ナシトセス依テ本件申入方ニ付テハ既ニ試ミ居ルコトナルモ出先ニ一任セラレ機會ヲ見テ適當ニ善處スル方得策カト存ス

尙御申越ノ各種事情等詳細郵報極祕公第四一五號)セリ

~~~~~

1020

昭和12年10月7日

在シドニー若松(虎雄)総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

オーストラリアにおける対日ボイコット激化  
の状況につき報告

第一〇三號

シドニー 10月7日後発  
本省 10月8日前着

對日「ボイコット」論モ漸次下火トナリ對日感情モ幾分好轉ノ兆アリシ處倫敦ニ於ケル「カンタベリー」大僧正司會ノ抗日集會、市俄古ニ於ケル米大統領ノ演說及之ニ引續ク聯盟ノ態度硬化等ニ依リ又復當領反日感情激化ノ傾向アルヤニ認メラレ六日夜N・S・W「レーバー・カウンスル」特別委員會ハ日本商品禁制品目作成配布、日本向商品積荷及日本品荷揚拒否ヲ決議シ其ノ他勞働、社會、宗教團體ノ抗日決議續出セリ

「ル」ノ演說ハ日本ニ對スル聯合抗議ノ實行ヲ確保スルモノトシテ一般ニ期待サレ右ニ對スル新聞紙ノ論調ハ「ル」ノ眞意ハ明確ナラサルモ米國カ其ノ孤立政策ヲ棄テ英國ト共同シ日本ノ對支活動ヲ牽制スル目的ヲ有スルモノト解シ其ノ成行ハ待望スヘク(「ヘラルド」)右演說ハ戰爭ニ依ラス威勢ヲ示スコトニ依リ國際の無政府狀態ヲ撲滅スル第一歩タラン(「テレグラフ」)ト爲シ居ル處勞働黨ハ一般勞働組合ノ對日「ボイコット」論ニ反對シ七日「レーバーデイリ

「ハ「ボイコット」ハ戦争ナリト題シ法例ニ依ル輸出入禁止タルト政府支持ノ下ニ於ケル民衆ノ「ボイコット」タルヲ問ハス右ハ聯盟規約ニ戦争ト認メラルル戦争ナリトシ組織的對日「ボイコット」ハ單ニ敵對行爲ナルノミナラス聯盟規約十六條相互援助ニ依リ或ル制裁國カ日本ノ報復ニ遇ヘハ濠洲モ之ニ捲込マレ對日戦争ヲ爲サルヲ得スト述ヘ勞働黨ハ單ニ海外戦争ニ加入スルコトニ反對ナルノミナラス右ノ如キ「コミットメント」ヲ有スル總ヘテノ協定、條約ニ反對ナリト論シ居リ更ニ勞働黨首「カーチン」ハ「ル」ノ演說ニ關シ吾人ノ主ナル仕事ハ國內ノ平和維持ニアリ他國ト共同シテ戦争ニ引込マルルカ如キ計畫ニ加ハルヘカラス今日國家間ノ共同動作ハ甚タ困難ナルコト明カナリ濠洲人ノ爲スヘキ最善ノコトハ濠洲ヲ國際紛争ニ介入セシメサルコトナリト述ヘ居レリ

當領及「ニュージラランド」ノ新聞紙ノ論調ハ大體英國新聞殊ニ「タイムズ」ニ引摺ラレ居ル次第ナレハ在英大使ニ於カレテ同紙ノ啓發ニ特ニ御配慮願度シ

英ヘ轉電セリ

1021

昭和12年10月7日 在独國武者小路大使より  
広田外務大臣宛(電報)

事変に關してヒトラー総統は日本に徹底的の同情的立場をとるとのリッベントロップ大使の言明について

ベルリン 10月7日後発  
本省 10月8日後着

#### 第四二〇號

六日「リッペン」大使ト會談ノ際同大使ハ昨五日自分「ヒ」總統ニ謁見ノ際總統ハ支那事變ニ關シ獨逸ハ日本ニ對シ徹底的同情的立場ヲ取ルヘキモノナリト言明セルニ付此ノ點特ニ貴大使ヨリモ東京政府ヘ御報告アリ度ク尙「ヒ」總統ハ在支獨逸軍事教官ノ如キモ如何ナル方法タルト又如何ナル場所タルトヲ問ハス支那ノ軍事行動ニ關與方嚴禁スヘキ旨及目下英國等ニテハ排日言論橫行シ甚シキハ對日「ボイコット」問題サヘ持上レル模様ナル所萬一英國側ヨリ獨逸ニ對シ此ノ種問題ニ關シ申出アルカ如キ場合ニハ獨逸ハ斷乎トシテ右ヲ拒否スル用意アル旨語リタリト内話セリ

英、蘇へ轉電シ在歐各大使(土ヲ除ク)へ暗送セリ  
上海へ轉電アリタシ

1022

昭和12年10月8日

在シドニー若松総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

対日ボイコットへのわが方注意喚起に対する  
オーストラリア側回答について

シドニー 10月8日後発

本省 10月8日夜着

第一〇五號

往電第一〇三號ニ關シ

濠洲輿論惡化シ各種團體ノ日本「ボイコット」決議セルニ鑑ミ一日附ヲ以テ往電第九四號新西蘭「サベヂ」首相宛電報ト同一趣旨ヲ濠洲聯邦「ピアス」外相宛ニモ申入レ置キタル處五日附ヲ以テ外相不在ナルニ依リトノ建前ニテ「ライオンズ」首相ヨリ日支紛争ハ目下委員會ニテ討議中ナルカ濠洲ハ聯盟國トシテ且太平洋ニ重大關心ヲ有スルニ付右委員會出席招請ヲ受諾セリ余ハ紛争國ノ一方ニ對シ經濟的「ボイコット」ヲ示唆シ事態ヲ速斷セシムルカ如キ如何ナ

ル行動モ反對ナルコトヲ聯邦政府ヲ代表シ公言シ來レリ聯邦政府ハ紛争解決手段ハ共同ノ同意及行動ノ結果タルヘク一國ノ一方的行爲タルヘカラストノ見解ヲ有シ爾來此ノ點ヲ強調シ來レリ余ハ「アンツワード・デベロツプメント」カ兩國ノ友好關係ヲ阻害セス且不祥事ノ速ニ圓滿解決スルコトヲ切望スル旨回答セル處七日「ライオンズ」ハ閣員ト協議ノ上濠洲ハ日支紛争解決ノ爲聯盟ノ執ル手段ヲ支持スト聲明セリ  
尙問題ノ地方的ナルニ鑑ミ各州首相宛外相宛書簡ト同一趣旨ノ申入ヲ爲シ置キタリ

1023

昭和12年11月1日

在ラングーン金子(豊治)領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

ビルマにおける排日貨運動の状況について

ラングーン 11月1日後発

本省 11月2日前着

第三九號

往電第三七號ニ關シ

一、支那側ノ運動ニ依リ十月二十日緬甸聯合日貨排斥委員會

組織サレタルモ殆ント名目ニ止マリ一般ヨリ相手ニサレス又印度人及緬甸人ノ各商業會議所ニモ話ヲ持掛ケタルカ體好ク斷ハラレタリ

一、目下「ボイコット」ノ影響殆ント見ラレス唯十月中旬邦船四隻一時二入港多量荷揚サレ先注文ト後注文ノ値開キ大ナリシ爲幾分市場ヲ迷惑シ殊ニ罽羅詰ハ一部支那人ヨリ「ボイコット」ヲ口實ニ引取ヲ拒マレタリ

一、九月末惡化ノ新聞論調ハ十月中旬平調ニ復シ下旬來我方領布ノ資料ヲ掲載スルモノ多シ

英、甲谷陀、孟買へ暗送セリ

1024

昭和12年11月8日 在タイ村井(倉松)公使より  
広田外務大臣宛(電報)

タイにおける華僑の日貨取扱い商人に対する  
暴行事件について

バンコク 11月8日後発  
本省 11月8日夜着

第二三九號

往電第一八二號ニ關シ

其ノ後當地華僑ノ排日運動ハ益々猖獗<sup>(猖獗)</sup>トナリ獨リ日貨取扱華商ニ對シ脅迫乃至傷害ヲ加フルニ止マラス米及鹽ノ如キ日常必需品ノ對日輸出商ニ對シテモ暴行ヲ加フルニ至リ數日前ノ如キハ一夜二十數名ノ對日取引華商傷害ヲ受クルニ至リタルヲ以テ當地邦商ニモ大ナル衝動ヲ與ヘ之ヲ此ノ儘打棄テ置クニ於テハ興奮セル日華兩國商ノ間ニ如何ナル不慮ノ椿事勃發スルヤモ圖ラレサルカ如キ形勢トナリタルニ付當國政府當局ニ對シ右排日行爲ノ嚴重取締ヲ要求スルト共ニ在留民一般ニ對シテハ此ノ際一層自重スヘキ旨申聞ケ居レリ

1025

昭和12年11月8日 在ムンバイ石川領事より  
広田外務大臣宛(電報)

インドにおける華僑の排日貨運動は憂慮すべ  
き状況ではない旨報告

ムンバイ 11月8日後発  
本省 11月8日夜着

第一七一號

貴電合第二二六二號及合第二三〇一號ニ關シ(對日經濟壓

迫及日貨排斥運動ニ關スル件)

一、印度政府若クハ民間團體等カ今次支那事變ニ關聯シ自己ノ發意ニ依リ日貨排斥(金融、財政、海運等ニ關スル壓迫ニ付テハ實現ノ可能性乏シキヲ以テ暫ク別問題トス)ヲ組織の二且相當長期ニ亘リ實施スルコトハ印度カ對日關係上有スル左記特別ノ事情ニ依リ甚タ困難視セラルル次第ナリ

(イ)印度ノ日貨排斥實施ハ對日輸出品ノ大部分ヲ占メ而モ日本以外殆ト輸出困難ナル印棉ノ不買ヲ誘發スヘキコトヲ豫メ覺悟セサルヘカラサル處我方ノ右報復手段ノ結果トシテ既ニ慘落シ居ル印棉ハ更ニ値下リヲ示シ現在極度ノ疲弊ニ直面スル農村ハ益々窮乏スヘク從テ農村救済ニ大童トナリ居ル政府乃至「ランゲンス」等カ斯ノ如キ危險ヲ孕ム日貨排斥ヲ敢行スヘシトハ想定シ難キコト

(ロ)良質安貨ナル本邦品ハ生活程度低ク極度ニ疲弊シ購買力ナキ印度民衆ニ取リ絶對的必需品ナルコトハ印度官民ニ依リ充分認識セラレ居ルコト

(ハ)日貨排斥ハ直ニ政府財政上ノ困難ヲ招來スヘキコト即

チ關稅收入ハ印度歲入上最モ重要ナル財源タル處(例ヘハ三六年度歲入十一億一千九百萬留比中關稅收入ハ五億一千二百留比ニ達ス)日貨排斥ハ必然的ニ關稅收入ノ激減ヲ惹起スルニ至ルヘク(三六年度ニ於ケル本邦品ヨリノ關稅收入ハ大体九千三百萬留比ト推算セラル)政府ハ其ノ補填ニ關シ非常ナル困難ニ逢着スヘシ

二、現在當國ニ存スル唯一ノ日貨排斥運動(實際上ノ反響皆無)ハ「コングレス」運動ナルカ(往電第一五三號竝二甲谷陀發閣下宛電報第三八五號及第三八六號參照)右ニ對シテハ「コングレス」カ印度十一州中ノ七州ニ於テ內閣ヲ組織シ(西北國境州ハ他派トノ聯立內閣)少クトモ地方的ニハ往年ト異ル權力ヲ有シ居ルコト竝ニ同黨カ一九三一年英國品「ボイコット」ヲ敢行シタル前例アルコト等ニ關聯シ該運動今後ノ進展ニ對シ憂慮シ居ル向アルヤモ測リ難キ處

(3)「コングレス」カ今日前記各州ニ於テ民衆ノ福利増進ニ專念セサルヘカラサル責任アル地位ニ在ルコトハ却テ同黨ヲシテ前記ノ諸事情ヲ無視シテ日貨排斥ヲ實行スルコトヲ困難ナラシムル所以ナリト認メララルノミナラス現

ニ「コンGRES」ノ本件運動ハ今日迄聲明書ノ發表、決議ノ採擇等ニ限ラレ其ノ實行方法ニ付協議申合ヲ爲シタルコトスラ聞カサル次第ナルヲ以テ同運動ハ帝國主義ニ反對シ被壓迫民族ニ同情スル「コンGRES」ノ根本政策ニ基キ實行ヲ度外シテ單ナル「ゼスチャ―」トシテ試ミ居ルモノト見ルノ外ナク旁去ル三十日甲谷陀ニ開催ノ全印度「コンGRES」委員會カ本邦品不使用ニ關スル實行委員會決議(特ニ「ボイコット」ナル文句ヲ避ケ居レリ)ヲ採擇セルカ如キモ畢竟感情論ニ多少ノ色ヲ着ケタル申譯程度ノモノニ過キスト解シ得ラルヘキニ付「コンGRES」ノ本件運動ニ付テハ右カ本邦品ニ對シ多少ノ人氣的影響ヲ與フルコトハアルヘキモ今後共左迄憂慮スヘキ程ノモノニアラスト思考セラル

英、甲谷陀へ轉電シ蘭貢へ暗送セリ

昭和12年12月6日

在伊国堀田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中国からの軍事教官引揚げなどに関する伊国  
外相の内話報告

第三六〇號(極秘)

ローマ 12月6日後発  
本省 12月7日前着

五日<sup>(1)</sup>「チアノ」外相ト會談其ノ内容左ノ通り

一、日支關係

貴方ニ於テハ對支宣戰ノ御意嚮アルヤニ仄聞スル處右ハ第三國ノ權利義務ヲ一層明確ナラシムルモノトシテ伊ニモ甚大ナル影響アルヘキモ日伊關係ノ今日ニ鑑ミ右ノ如キハ伊ノ甘ンシテ受ケ忍フヘキコトニ「ム」首相ト最近話濟ナルニ付御含ミ置キヲ請フ又伊ノ對支軍事教官ハ初メ貴方ニ供給スヘキ情報蒐集ノ爲ニモ何かト便宜ト存シ殘シ置キタルモ日伊關係緊密化ニ件ヒ右教官ノ任務遂行モ次第二困難ヲ加フルノミナラス現地ニ在ル關係上伊政府ノ命令ニモ拘ラス時ニ支那ニ對シ同情的トナルコトアルハ蓋シ人情ノ免レサル所ナルニ依リ對日支持ヲ徹底セシムル爲伊教官全部ニ引揚命令ヲ發セリ

二、<sup>(2)</sup>「ハリファックス」訪獨

日本ハ阿弗利加舊獨植民地ノ運命ニ付直接ノ利害關係ヲ有セサルモ其ノ委任統治地域ヲ有スルコト及日獨關係ノ

現在ニ鑑ミ全ク無關心タルヲ得ストノ本使ノ言ニ對シ外相ハ「ハ」「ヒトラー」會見ニ於テハ獨ハ原則的主張ヲ爲スニ止マリ何等具體案ヲ示サス從テ具體的結果ニ達セサリシト承知ス又數日前「イーデン」ハ「グランデイ」ニ對シ最近佛首相及外相ノ訪英アリ英佛間ニ植民地問題ハ勿論軍備及中歐等各種政治問題ヲ含ム一般的國交調整案ノ對獨揭示方ニ關シ交渉中ナル旨ヲ傳ヘタルカ元來獨ハ植民地問題ハ夫レ自體トシテ解決シ之ヲ「バーゲン」ノ具タラシムヘカラストノ建前ヲ堅持シ居リ旁右ノ如キ調整案モ先ツ獨伊間ノ話合ヲ要スル次第ニテ未タ其ノ端緒ニモ成リ居ラスト述フ

三、英伊關係<sup>(3)</sup>

去ル十月在英國大使ハ埃及、地中海及紅海海軍其ノ他諸般ノ問題ニ及ヘル覺書ヲ提示シタルカ前項「イ」「グ」會談ノ際英國側ハ右覺書ニ對スル伊國側ノ回答ヲ得次第夫レヲ基礎トシテ英伊會商ヲ行ヒ度シト德憑シタルモ未タ右回答ヲ與フヘキヤ否ヤ考慮中ナリ尙「イーデン」ハ「エチオピア」併合承認ハ今暫ク後廻シトシ度シト申出テタルカ伊政府トシテハ總括的解決ヲ欲シ問題毎ノ個々

的解決方法ニ反對ナルニ依リ英ニシテ右承認ヲ會商事項中ニ含メシムルニアラサレハ英伊會商ヲ行ハサル方針ナリ云々

1027

昭和12年12月18日

在シンガポール郡司總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

パネー号およびレディバード号事件の影響によるシンガポール方面の対日空氣惡化の傾向につき報告

シンガポール 12月18日後発

本省 12月18日夜着

第二四四號

當方面對日空氣ハ漸次好轉ノ途ニアリタル處外國軍艦砲撃事件ニ依リ著シク逆轉シ蔣政權ノ没落ト自國ノ不安ニ對シ知識階級華僑ハ多分ニ共通シ時局ノ終熄ヲ希望シ居ルモ大部分ハ根強キ反感ヲ有シ鋤奸團監察隊ノ活動再ヒ幾分活潑トナレリ又當地漢字紙ヲ通觀スルニ英國既ニ頼ムニ足ラス唯一ノ味方ハ露國ナリ領土ヲ日本ニ與ヘルヨリハ露國ニ提供スルニ如カストナシ人民戰線、自由解放、容共主義、自

由救國等ノ文字頓ニ紙上ヲ賑ハスニ至リ又海南島、福州等ニ於ケル共產黨彈壓等ノ「ニュース」ハ直ニ當地ニ反映シ共產黨ヲ擁護スヘシトナス論調強ク是等ニ對スル官憲ノ取締モ幾分逆轉シタル模様ナリ、英國商社等ノ態度モ相當惡化シ特ニ是等商社ハ下級社員カ多ク支那人ナル爲兎角其ノ影響ヲ受ケ勝ナリ、獨逸品ニ對シテハ華僑「ボイコット」ハ左シタルコトナキモ伊國品ニ對シテハ相當強ク「フィアット」自動車賣行ハ十月ハ普通ノ三分ノ一、十一月ハ四分ノ一雜貨ハ殆ト商賣ナキ趣ナリ

臺灣外事課長ヘ轉電シ暹、「バタビヤ」ヘ暗送セリ

1028 昭和12年12月18日 在ニューヨーク若杉總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

パネー号事件の影響による対日ボイコット  
運拡大に関する米国紙報道について

ニューヨーク 12月18日後発  
本省 12月19日前着

商第二八四號

往電第二八二號ニ關シ

一、「パネー」事件ニ刺戟サレA・F・L會長「グリーン」ハ十六日管下各組合ニ對スル書面ヲ以テ米國勞働側ノ平和擁護竝ニ支那事變ノ迅速終結ヲ強調スル爲勞働者ニ日本品「ボイコット」ノ勵行ヲ命シ且各地方組合ニ「ボイコット」實行委員會ヲ組織シ以テ各商店ヲ歴訪シテ日本品ヲ取扱ハサルコトヲ要求セシムヘシト指令セル由(十七日「ニューヨーク・タイムス」)

二、「パネー」事件ノ爲今週百貨店及連鎖店方面ニ於テ一般消費者ノ日本品「ボイコット」氣分執拗ニ擴大シツツアリ特ニ米國製品ヲ指定スル需要著シク増加シ來リ少クトモ事變ノ見透シ付ク迄日本雜貨ノ仕入ヲ差控ヘントスル向多シ(十七日「ニューヨーク・ヘラルド」)

米ヘ轉電セリ

1029 昭和12年12月27日 在ムンバイ石川領事より  
広田外務大臣宛(電報)

事変をめぐる英国およびソ連の動向に関する  
アフガニスタン総理大臣の内話について

第一九七號

阿富汗發貴大臣宛電報

第一四七號

二十三日總理大臣ノ内話左ノ通り

英國及印度政府ハ海洋竝ニ大陸ヨリスル日本ノ進出ヲ頗ル  
 惧レ新疆モ寧口蘇聯邦ノ占領ニ歸スルヲ希望シ居レリ日本  
 將來ノ眞ノ大敵ハ同國ナルヘク自分ノ情報ニ依レハ同國ハ  
 米國カ動ケハ或程度武力干涉ノ底意アリ今後日本カ經濟軍  
 事上疲弊スルヲ窺ヒ其ノ間ニ日本關係激化ヲ策動中ト認メ  
 ラルル一方同國ハ將來ノ政策トシテ獨逸ト妥協、日本ヨリ  
 引離スニ努ムヘク右ハ現ニ自分ノ滯英中ニモ「ハリファク  
 ス」卿ハ之ヲ洩ラシ獨逸ノ亞細亞政策ノ眞意ニ付熱心尋ネ  
 居タルカ當時蘇聯邦ハ自分カ伯林ニテ獨阿祕密協定ヲ締結  
 シタリトテ公然抗議シタル時ニテモアリ自分カ獨逸ノ底意  
 ヲ知り居ルト認メタルカ爲ナルヘシ(依テ先日「イラク」  
 外務大臣ハ本使ニ對シ英國ハ最近頻リニ土耳其ヲ通シ支那  
 問題ニ付同敎四國ヲ動カサント焦慮中ナルカ他三國ハ表面

ムンバイ 12月27日後発  
 本省 12月28日前着

利害關係ナキヲ理由ニ中立ヲ主張スト語リタルニ付之ニ關  
 スル其ノ後ノ當國側狀況ヲ尋ネタル處)

同總理ハ目下英蘇ハ當國カ日本ニ操縦サレツツアリト疑ヒ  
 居ル際ニ付此ノ問題ニ付テハ一言モ言ヒ來ラス却テ先般來  
 種々政治經濟的困難(現ニ一時倫敦ニテ「アストラカン」  
 ノ契約ヲ阻止セシメタリ)ヲ釀シ居レルモ英國ハ今後支那  
 事件ノ切迫ニ連レ或ハ好意ヲ示シ來ルカト思ハルル節モア  
 リ若シ英國カ當國援助ヲ申出ツル場合アラハ大勢ハ日本ニ  
 有利ニ向フモノト承知アリ度ク當國ノ發展ハ日本ノ爲トナ  
 ルヘク決シテ英國ヲ利スルモノニハアラス當國ハ日本ノ勢  
 力新疆ニ及フヲ歡迎シ益々提携ノ上當方面國際關係ヲ利用  
 シ情勢ヲ日本ノ爲好轉セシムルニ助力致スヘシ日本ハ此ノ  
 際内面方法ヲ以テ亞細亞諸邦ト提携ニ一層御努力アルヲ可  
 トス

蘇領「トルケスタン」内ノ各領事ノ報告ニ依レハ同地一帯  
 ノ狀態ノ惡化ハ言語ニ絶シ住民ハ食料物資ヲ他ニ引揚ケラ  
 レ行政、交通、經濟等ノ萬般恐慌ニ瀕シ蘇聯ハ地方要路者、  
 官吏、軍人、商人、知識階級ヲ日々百人乃至五十人位宛銃  
 殺中ニテ人民ノ不安極度ニ達ス此ノ儘進メハ土着人中少シ

ニテモ知識教育アル者ハ恐ラク全滅スヘシ其ノ後蘇阿國境  
ニテハ西部ノ放牧民ハ射殺ニ遇ヒ條約ノ權利ハ蹂躪サレ且  
隨所ニ小衝突絶エス各地領事ノ職務執行ハ事實上停止サレ  
在「タシユケント」總領事ハ當局ニ面會スルモ一切返事ヲ  
得ス公文ヲ送ルモ悉ク無回答ノ有様ニ付自分ハ二、三日前  
蘇側ニ對シ此ノ儘ニテハ外交官ヲ派遣シ置クモ無益ニ付引  
揚ノ外ナカルヘシト强硬ニ申入レタリ

自分ノ情報ニ依レハ先般ノ新疆戰爭ニハ蘇聯飛行機三十右  
ニ使用サル軍隊モ駐屯ストノコトナルカ當地英國公使ハ此  
ノ點ハ絕對ニ否定シタリ尙新疆國境ニハ最モ精銳ナル蘇軍  
十二個師團集中ストノコトナルカ餘リ多過キルト思ハルル  
ニ付目下在「パミール」官憲ニ取調ヲ命シ居レリ日支事件  
モ初ハ當國モ列國側ノ強壓ヲ惧レ居タルモ今日ニテハ安心  
セリ萬一日本カ蹉跌スルカ如キコトアラハ當國モ必ス英蘇  
ニ二分セラルヘシ蘇聯本國今日ノ混沌狀態モ永續スルモノ  
トハ見ルヘカラス「スターリン」カ目的ヲ固ムルカ或ハ  
「ウオロシローフ」等極東ニ派遣サルトノ巴里新聞報アリ  
事實トスレハ「スターリン」ノ目的ハ左遷ト日本牽制ノ爲  
ナルヘシカ代リテ新ニ國民的政權ヲ樹立スルカト思ハレ

成行ハ極メテ注目ヲ要ス若シ此ノ儘戰爭等ニ依ル全面的崩  
壊作用ヲ受ケスニ後者カ國內ヲ再組織スレハ我等ニ對スル  
危險ハ頗ル増大スヘシ云々

~~~~~

1030

昭和12年12月30日

在ベルギー來栖大使より
広田外務大臣宛(電報)

独国は日本に東亞の防共を期待しつつも中国
にも多大の經濟利益を有するため事變には仲
介程度で深入りせずとの独国参事官内話報告

ブリュッセル 12月30日後発

本省 12月31日前着

第四三七號

駐佛獨逸大使館参事官Braun(前當地参事官)三十日好富
來訪大要左ノ内話ヲ爲セリ

一獨逸ハ東亞ニ於ケル赤化防止ハ日本ヲ措キテ之ヲ爲ス者
ナキヲ知ルト共ニ獨ハ又支那ニモ多大ノ經濟的利益ヲ有
スルニ付日支何レニモ好キ様取計ハント努メツツアル次
第ナルカ餘リ之ニ深入リセハ却テ日支何レカノ感情ヲ害
スルニ至ルヘキニモ鑑ミ仲介ノ程度以上ニ出ツルヲ好マ

1031

昭和13年1月7日

在コルカタ吉田(丹一郎)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

ス獨ノ希望スル所ハ右獨ノ仲介ニ依リ東亞ニ平和招來セ
ラルコトトナラハ聯盟モ九國會議モ爲シ得サリシ所ヲ
獨一國ノ手ニテ成就スルコトトナリ獨ノ面目ヲ施スハ素
ヨリ獨ノ排撃スル集團機構ノ無力ヲ如實ニ示スコトトモ
ナルノ點ナリ(以上ハ最近伯林ニ歸還各方面ト意見交換
ノ結果ナリト附言セリ)

二、過般「ハリファックス」「フランダン」等ノ訪獨等ヲ楔
機トシ目下獨ト英佛トノ間ニ内々話合中ナルカ佛ハ波蘭
致惠古、埃太利問題、獨ノ軍備問題、新「ロカルノ」等
全般的解決ヲ一時ニ爲サントスルニ對シ獨ハ各種問題ヲ
個別的ニ解決シ行クノ建前ヲ執リ居レリ但右英佛獨間話
合ノ結果歐洲ノ空氣ハ一時ニ比シ緩和セラレタリト思料
ス

三、獨ノ植民地返還要求ニ對シ佛ハ比較的好意ヲ示シ或種條
件ノ下ニ原則上ノ同意ヲ與ヘタルモ英ハ未タ夫迄ニ至ラ
ス

~~~~~

## インドにおける対日反感空氣につき報告

コルカタ 1月7日後發

本省 1月7日夜着

### 第四號

本官着任以來二週間當地方各方面ニ於ケル對日感情ヲ觀察  
スルニ

一、新聞論調ハ政府機關「ステイツマン」ハ素ヨリ「ヒンヅ  
ー」回教徒兩方面ノ新聞何レモ本邦ニ好シカラス日本ハ  
支那ヲ侵略壓迫スルモノナリトテ我方ノ行動ヲ強ク非難  
ス

二、又印度人一般ハ帝國ノ毅然タル態度ニ依リ極東ニ於ケル  
英國ノ「ボイス」次第ニ弱マリ來レリトテ是ヲ痛快ニ感  
シ居レル一方被壓迫國民トシテ痛ク支那人ニ同情シ勢ヒ  
我方ニ反感ヲ抱キ居レリ此ノ點ハ日頃特ニ本邦ニ憧憬ノ  
念ヲ寄せ居ル印度人ト雖感情ヲ等シウセルモノノ如ク本  
官ニ之ヲ言明セル者モアリタリ

三、<sup>(2)</sup>「コングレス」等カ支那ニ同情ノ意味ヲ以テ日貨非買ヲ  
公然決議セル次第ハ既ニ御承知ノ通りナル處今般更ニ第  
八路軍指揮朱德ヨリノ要請ニ基キ醫藥材料送付ノ爲來ル

九日ヲ期シ全國のニ「チャイナデー」ヲ催シ寄附金募集ヲ爲ス旨聲明シ（同黨ニハ共產分子介在ノ疑アリ調査方考慮中）回教徒側モ之ニ合流セントスル狀況ニ在リ

要スルニ英本國ノ對日感情ノ支配ヲ受ケ且感情的ナル印度人カ弱者ニ同情シ加之「コングレス」ノ大衆運動ノ對象トナリタル爲我方ニ對スル一般ノ空氣甚タ宜シカラス右ハ本官事務引繼ニ際シ當館ト交際アルモノトシテ示サレタルハ僅ニ四五人ノ著名ナラサル印度人ノミニシテ英人ハ一人モナク何等有力ナル印度人モナカリシ事實ニ徴シ其ノ一半ヲ知ルヲ得ヘシ

英ニ轉電シ孟買、蘭貢ニ暗送セリ

1032 昭和13年2月7日 広田外務大臣より  
在米國齋藤大使宛（電報）

米國における排日貨運動の深刻化と国内世論への  
悪影響に鑑み事態改善のため一層対処方訓令

本省 2月7日後6時発

第四二號（極秘）

米國ニ於ケル排日貨運動ハ深刻化シ一部輸出工業ニ於テハ

新規註文ノ減少ニ加ヘ既約品ノ解約積止等ノ問題モ起リ居ル處右ノ如キ排日貨運動ハ此儘放置スルニ於テハ國內ノ人心ヲ刺戟シテ對米輿論ヲ惡化セシムルニ至ル可ク殊ニ目下開會中ノ議會ニテ論議セラルルコトモナラバ單ニ日米通商關係ニ止ラズ日米友好關係ニモ惡影響ヲ及ボス處アルニ付テハ既ニ貴官ニ於テ種々御努力ノ次第ハアルモ今後一層之ガ推移ヲ注視セラレ適宜當局ノ考慮ヲ促シ或ハ業者ノ指導利用ヲ圖ル等事態改善ノ爲萬般ノ措置ヲ講セラレ度ク尙貴管内ノ排日貨ニ對スル具體的對策隨時電報アリタシ本大臣ノ訓令トシテ紐育、桑港、「ロスアンゼルス」、「ポートランド」、「シアトル」、「シカゴ」、「ニューヨークレアンス」ニ轉電アリタシ

1033 昭和13年2月8日 在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛（電報）

独國の政変が中国に不利な影響を及ぼすとの  
中国紙の悲観的論調について

上海 2月8日後発

本省 2月8日夜着

第四二三號

六日漢口發路透電ハ獨逸政變ニ關シ官邊ハ沈黙ヲ守リ居ルモ支那新聞ノ調子ハ悲觀ニ傾キ即チ支那ニ同情ヲ有シ日支和平公約ニ努力シタル「ノイラート」ニ代リ三國防共協定ノ立役者「リツペントロツプ」カ外相トナリタルコト又在支軍事教官ヲ通シ蔣介石ト密接ナル聯絡アリタル「ブロンベルグ」カ去リタルコトノ爲日支時局ニ關スル限り今次ノ獨逸政變ハ支那ニ不利ナル影響アルヘシト觀測セル旨報セリ

1034

昭和13年2月15日  
在シンガポール岡本(一策)総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

シンガポール華僑による排日貨運動深刻化の  
状況について

第六一號

當地華僑最近ノ排日狀況ニ關シ當館諜報者ヨリ得タル情報  
御參考迄左ノ通り

シンガポール 2月15日後発  
本省 2月15日夜着

一、排日貨ニ依リ邦人ノ打撃甚大ナルハ勿論ナルモ華商亦甚  
タシキ苦境ニアリ最近各地ニ倒産者發生シ居リ半島方面  
ハ新嘉坡ニ比シ其ノ數多キ模様ナルカ特ニ海產物商雜貨  
商綿布商中ニ多シ

二、邦人經營護謨園鑛山等ノ苦力ニシテ監察隊ノ脅迫ニ依リ  
已ムナク退職セル者鮮カラス(石原飯塚鑛山等)此ノ方面  
ノ失業者ハ護謨生産制限ニ依リ失業者金融難ニアル華僑  
經營「パイナツプル」「ビスケット」及護謨工場等ノ失  
業者ト合スレハ相當多數ニ達シ當地經濟界ノ前途ニ暗影  
ヲ投シツツアリ

三、邦人漁獲魚類ニ對シテハ抗日團ニ於テ極力其ノ販賣停止  
ニ努メタルモ當市民需要ノ大半ハ邦人漁夫ニ依リ捕獲セ  
ラレ居ルヲ以テ結局供給不足ヲ來シ民衆ノ反感ヲ買フ惧  
アリテ所期ノ目的ヲ達セス遂ニ總商會及抗日團本部ニ於  
テハ支那人漁業規模ヲ擴張スヘク其ノ融資方ヲ中國銀行  
ニ依頼スルト共ニ漁船「ライセンス」獲得ニ關シ英國官  
憲ニ折衝スル趣ナリ

四、當地總商會ニ於テ募集中ノ救國公債ハ募集成績芳シカラ  
ス其ノ對策トシテ總商會ニ於テハ手持日本品ニ對シ商品

毎ニ手數料徴收ノ上販賣ヲ許可シ右手數料ヲ公債購入資金ニ充當シ居レリ

五、最近抗日團ノ活動振リ稍々衰ヘタル感アルハ活動資金難ニ依ル模様ニシテ此ノ爲監察隊員ハ減少シ今後ハ漢奸ニ對シテハ暴力制裁ヨリハ寧口資金獲得ノ手段ニ出ツル趣ナリ

暹ヘ轉電セリ

1035

昭和13年5月19日

在シンガポール岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

シンガポールにおける抗日派の凋落傾向および徐州作戰を転機とする対日空氣好転に関する観測について

シンガポール 5月19日後発

本省 5月19日夜着

第一〇九號

當方其ノ後ノ排日狀況左ノ通り

一、排日巨頭陳嘉庚(福建人ニシテ數種排日團體ヲ牛耳リ居レリ)等ノ計畫セル救國公債強制月賦賣付モ成績學ラス

又抗日團内部ノ軋轢、一般華僑ノ氣乘薄等ノ爲抗日團體ハ漸次資金難ヲ告クルニ至リ一方當領官憲ノ取締ト相俟チテ同團ノ活動ハ著シク氣勢ヲ殺カレタル感アリ(警視總監ハ特ニ陳ニ對シ排日團ノ暴行ニ付警告爾後耳切り其ノ他ノ暴行アリタル節ハ陳ノ責任ト爲ス旨告ケタル由)豫テヨリ邦人醫師又ハ邦商店舗ニ張番シ出入支那人ヲ監視セシメ居タル糾察隊ノ如キモ其ノ配置ヲ止メ弗々支那人患者及取引者姿ヲ現スニ至リ特ニ半島方面ニ於テハ馬來人、印度人ヲ通シ取引行ハレ「セメント」ノ如キ相當大量ヲ輸入シツツアリト言フ

二、支那側ノ徐州戰勝ノ一方の宣傳ニ迷ハサレ反日活動一時其ノ勢ヲ盛返シタル感アリシモ(往電第一〇一號)華僑有力者ハ素ヨリ和平ヲ希望シ(當地在住二十數年ノ一有力支那人ヨリ突然本官宛書翰ヲ寄セ且親シク來訪國民黨ノ秕政ヲ訴ヘ來レルカ如キハ其ノ例證ナリ委細公信)又大多數支那人モ各種義捐金其ノ他強制寄附金ニ惱マサレ且邦品取扱不能ノ爲支那商中ニ倒産者頻出スル等ノ關係ニテ困憊甚タシク抗日團ノ笛ニ踊ラサルニ至レリ

三、以上ノ如ク抗日團ノ氣勢日ニ不利ニ赴クヤ前顯陳ハ母國

政情視察ヲ名義トシ當地逃出ニ決定シ居リタル處偶々日本海軍ノ厦門占領ニ依リ(厦門大學ハ同人ノ出資ニカカル由)當地在住同方面出身者ノ危懼増大シ旁暫ク當地ニ止マリテ抗日繼續方各方面ノ懇請アリタル趣ニテ其ノ歸國ヲ取消セリ

四、<sup>(2)</sup>南支方面我軍攻略ノ報道ハ逸早く當地漢字紙ニ歪曲シテ掲載セラレ本官ハ之力は正ニ努メタルモ累次報告ノ通り「フリー、プレス」亦支那人讀者ヲ慮リ之カ掲載ヲ遠慮シ(尤モ同紙ハ聯盟總會ニ於テ顧維鈞ノ毒瓦斯使用ニ關スル誹謗ヲ反駁スル記事ヲ大見出ニテ掲載セリ)一般華僑ハ漢字紙所報ヲ盲信シ居タル處偶々郷里ヨリノ通信ニ依リ我軍ノ公正ナル態度判明シ其ノ對日態度緩和セル事例モアリ當地方出身者地元ニ於テ是等通信ノ根據トナル惡材料ヲ提供スルコトナキ様此ノ上トモ軍側ト聯絡サルルノミナラス相成ルヘクハ進テ皇軍ノ規律正シク毫モ良民ヲ虐ゲサルコト及平和裡ニ生活シ居ルコトヲ通信セシメラレナハ效果甚大ナルヘシ

五、要之現在當地華僑ハ抗日ノ爲奔命ニ疲レタルノ感アリ陳ノ歸國決心ノ如キハ抗日派ノ凋落ヲ有力ニ物語ルモノニ

シテ徐州會戰ヲ一轉機トシテ抗日運動ハ好轉シ來ルヘク豫想セラル

六、陳嘉庚發案ノ月賦獻金乃至公債買入策ハ前記ノ如ク強制的ナリトノ反對ニ依リ殆ト失敗ニ歸シタルカ右ハ華僑間資力ノ缺乏ヲ語ルモノニシテ客年事變當初ヨリ本年四月ニ至ル義捐金ハ約四百五十萬、公債應募額ハ七百二十萬海峽弗ニ達セリト言フ

英、暹、「バタビヤ」へ暗送セリ



1036

昭和13年6月1日

在独国東郷大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

華北での日独經濟提携に関する協定の交渉状

況につき報告

付記 昭和十三年七月十日、參謀本部第六課作成

「北支ニ於ケル日獨經濟提携ニ關スル協定案」

ベルリン 6月1日後発

本省 6月2日前着

第二九五號(極秘、至急)

貴電第一八二號ニ關シ(北支ニ獨資誘致ノ件)

累次貴電ノ趣旨ニ從ヒ別電第二九六號ノ如キ文書ヲ作成シ過日「リ」外相ニ内示シタル上獨逸側ニ於テ右案ニ同意ナラハ改メテ東京ニ請訓ノ上確定スルコトト致度キ旨述ヘ置キタル處客月二十八日會見ノ際「リ」ハ近日改メテ回答致スヘキ處右案ハ基礎案トシテハ満足ナルモ二、三ノ修正ヲ希望スル點アリト言ヘルヲ以テ本使ヨリ重要ナル修正ハ不可能ナルヘキ旨答ヘ置キタルカ其ノ際形式ノ問題モ出タルカ結局「リ」ハ右文書ニ同外相及本使ニ於テ「イニシア」スルコトト致度キ旨ノ希望ヲ洩ラシ居タル經緯モアルニ付今少シク先方ノ出方ヲ見テ對處スルコトト致度シ

尙別電案ノ貴方御訓令ト異ル點ハ唯貴電第一二六號申入案ノ冒頭ニアル獨逸ノ好意的態度云々ヲ除キタル點ノミナルカ右ニ付テハ本使ニ於テモ從來トモ獨逸側ニ對シ感謝ノ意ヲ表シ來レル一方日本ノ行動ニ基ク極東ニ於ケル形勢カ獨逸ノ地歩竝ニ活動ニ有利ナル影響ヲ與ヘ居ルコトヲ指摘シ帝國ノ地歩及利益ヲ擁護スルニ努メ來リタル次第ニシテ徒ニ一方のニ謝意ヲ表スルコトハ日獨通商協定ノ例ニ見ル如ク獨逸側殊ニ其ノ事務當局ヲシテ不當ノ要求ヲ爲サシムルコトトナル惧アルヲ以テ別電第二九六號ノ文書中ニ此ノ項

態ト省略セル次第ナルニ付左様御了知相成度シ

（付記）

北支ニ於ケル日獨經濟提携ニ關スル協定案

七月十日 第六課

日獨兩國ハ防共協定ノ精神ニ即シ政治上經濟上兩國協力ノ一層緊密化セラル可キヲ深く希望シタルニ因リ獨逸政府ハ支那ニ於ケル日本ノ特殊地位ヲ承認シ北支那ニ於ケル日本トノ經濟的技術的協力ニ對シ最善ヲ盡ス可キコトヲ約シ

日本政府ハ左記方針ニ依リ北支那ニ於ケル獨逸ノ經濟活動並外國貿易ニ關シ特別ノ好意的考慮ヲ拂フ可キコトヲ約ス、日本政府ハ將來北支ニ於ケル獨逸ノ經濟活動ニ對シ原則トシテ第三國ヨリ優レタル地位ヲ與ヘ更ニ今後獨逸側ヨリ提起セラルヘキ個々ノ場合ニ付獨逸側ノ利益ヲナルヘク獨逸ニ有利ニ考慮スヘシ

尤モカカル好意的取扱ハ第三國トノ協力ヲ排除スルコトアルヘキ性質ヲ有スルヲ得サルコト勿論ナリ

三、日本政府ハ支那ニ於ケル日獨ノ貿易ハ原則トシテ平等ノ

基礎ニ立ツヘキモノトシ居リ從テ兩國ハ支那ニ於ケル關稅政策上平等待遇ヲ享ク可ク且何ラカ輸出入特殊措置ノ設定セラルル場合ニハ獨逸ノ利益カ十分ニ尊重セラレ少クトモ第三國ノ利益ニ比シ優先的ニ之ヲ取扱フヘキモノト思考ス

註 本協定ノ型式ハ兩政府間ニ於ケル交換公文トス

~~~~~

1037

昭和13年7月5日

在張家口森岡總領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

蒙疆連合委員會の石油販売統制実施に当たり
スタンダード石油など英米資本に出資を求め
る交渉は長期化する見込みについて

張家口 7月5日後発

本省 7月5日夜着

第二四八號

蒙疆聯合委員會ニ於テハ石油販賣統制ヲ企圖シ居リタル處諸般ノ準備整ヒタルヲ以テ愈蒙疆石油股分有限公司(公司法ニ依ル普通法人資本金八十萬圓)ヲ設立スルニ決シ株式引受滿洲石油會社四十五萬圓、蒙疆銀行二十萬圓、蒙疆汽

車公司十萬圓、出水商會五萬圓トシテ明五日創立總會ヲ開クコトナリタルカ右蒙疆銀行引受ノ二十萬圓ハ「スタンダード」、「テキサス」及亞細亞ノ三社ニ肩替リセシムル方針ニテ目下交渉中ナルモ右回答ハ相當手間取ル見込ナリ尙同委員會ニ於テハ鐵道輸送貨物ノ取扱ヲ統制スル爲國際運輸其ノ他ノ各運輸會社ヲ一括シテ近ク蒙疆運輸公司(公司法ニ依ル一般法人)ヲ組織セシムルニ決シ右設立ノ上ハ同社以外ノモノニハ貨物ノ取扱ヲ許ササル方針ナリ
北京、天津、滿ハ轉電セリ

~~~~~

1038

昭和13年7月6日

在仏国杉村大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

西沙群島の仏国兵占拠に対する仏国側説明振  
り報告

パリ 7月6日後発  
本省 7月7日前着

第四四一號(極秘)

五日「レゼー」ノ求ニ依リ往訪シタルニ「レ」ハ Paracel 群島カ一八一六年以來安南ニ屬シ近年佛領印度支那政府ニ

於テ燈火氣象無電等ノ設備ヲ爲シタルコト一、二年前支那カ同群島ノ領土主權ヲ主張シ佛トノ間ニ種々交渉アリタルコト同群島カ佛領ナル旨ハ曩ニ帝國政府ニモ通告セルコト等ヲ長々ト説明セル後過日同群島ヲ訪ヘル帝國軍艦ノ士官カ佛ノ管理ニ對シ同群島ハ佛領ニアラサルヲ以テ次回訪問ノ際ニハ退去ヲ命スルヤモ計ラレスト言ヘル由ナルカ佛トシテハ飽迄其ノ領土主權ヲ固執スル方針ナレハ萬一不祥事件ニテモ突發シ新聞等ニ依リ大袈裟ニ傳ヘラレ遂ニ日佛兩國ノ關係ヲ危殆ナラシムルカ如キコトアリテハ遺憾ナレハ本件ハ既ニ「アンリー」大使ト堀内次官トノ間ニ話合カ始メラレタル次第ニモアリ日佛兩國政府間ノ外交上ノ交渉ニ依リ穩便ニ解決シ度ク(印支政府トノ現地解決ニ依ラス)尙佛政府ニ於テハ新聞ニ對シ必要ナル警告ヲ與ヘ置クヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ本件ニ付テハ未タ何等帝國政府ノ訓令又ハ通報ニ接セサルモ本使カ我方ノ記錄ニ依リ確知シタル所ニ依レハ同群島カ佛領ニアラサルコト丈ケハ明瞭ナレハ前記我海軍士官ノ言ハ我方ノ建前上ハ寧ロ當然ト認メラルト答ヘ尤モ徒ニ兩國間ノ國交ヲ惡化セシムルカ如キハ才互ニ慎ムヘキコトナレハ誠意ヲ以テ本件ヲ處理セントス

ル佛國政府ノ希望ハ東京ニ取次クヘシト答ヘ置ケリ  
在歐各大使、壽府へ暗送セリ

~~~~~

1039

昭和13年7月6日

在仏国杉村大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

西沙群島占拠の背後に見られる仏国の対日態度
度に関し対応振り意見具申

パリ 7月6日後発

本省 7月7日前着

第四四二號(極秘)

往電第四四一號ニ關シ

「レ」ハ日本側ニ於テハ曩ニ英ヲ槍玉ニ擧ケ盛ニ攻撃シタルカ今ヤ攻撃ヲ佛ニ集中シ中ニハ計畫的トサヘ思ハルル排佛宣傳カ行ハルルハ心外ナリト訴ヘ印度支那經由武器問題等ニ關スル佛側調査ノ結果及貴大臣ト佛大使トノ談話竝ニ我新聞論調ニ付縷々陳辯シ日佛間ノ傳統的友好關係ニモ顧ミ切ニ日本側ノ考慮ヲ求メ度シト述ヘタルニ依リ本使ハ我方ニ對シ不都合ト認メラレシ佛ノ遣口ヲ一々指摘シタル後右ニ對シ日本ノ朝野カ反感ヲ懷クハ當然ナラスヤト應酬シ

タル處「レ」ハ人民戦線下ノ國情ニテハ種々日本側ノ意ニ
 滿タサル所アリシナランモ佛蘭西人ノ大多數カ日本トノ友
 好關係ヲ維持セント希望スルハ疑フヘカラサル事實ナルノ
 ミナラス佛政府ニ於テモ更ニ一層右友好關係ノ促進ニ努ム
 ヘケレハ何卒右佛ノ眞意ヲ東京ニ傳ヘラレ度シト切望シタ
 ルニ付佛ノ公正ナル態度カ事實上立證セラルルニ至ラハ我
 方ニ於ケル攻撃ノ火ノ手モ自ラ和ラクヘク尙御希望ノ次第
 ハ東京ニ傳達スヘシト答ヘ置ケリ

貴大臣カ佛大使ニ對シ執ラレタル儼然タル態度カ鮮カラス
 佛ノ當局ヲ驚カシ且反省セシメタルハ明瞭ナル事實ニテ日
 支事變ニ際シ漁夫ノ利ヲ占メントセル佛政府ノ態度モ最近
 餘程改マリ「パラセル」群島問題ノ如キモ進ンテ利ヲ漁ラ
 ントスルヨリモ我南進ノ氣勢ニ恐レ印度支那ノ安全ニ資セ
 ンカ爲姑息ノ手段ヲ執レルモノト推察セラレサルニモアラ
 サルニ付本邦ノ新聞論調ノ如キモ今後ハ特ニ佛全体ト佛ニ
 於ケル不良分子トヲ判然區別シ攻撃ノ重點ヲ我ニ對シ不都
 合ト認メラルル言動ヲ爲ス徒輩ニ集メ斯クシテ佛ノ政府及
 國論ヲシテ次第第二支那ヲ見棄テ我ニ靡カシムル様工作スル
 コト然ルヘシト存セラル

在歐各大使、壽府へ暗送セリ

1040

昭和13年7月7日

堀内外務次官
 在本邦アンリ仏國大使 會談

仏國の西沙群島占拠に対しわが方抗議申入れ
 について

「パラセル」群島問題ニ關スル堀内次官

在京佛國大使會談要旨

(昭和三、七、七、歐、二、)

七月七日在京佛國大使ノ來訪ヲ求メ堀内次官ヨリ別紙覺書
 ヲ手交シタル處大使ハ右ヲ通讀シタル後右覺書第三項ニ依
 レハ佛國側カ今回突如「パラセル」群島ヲ占有シタルコト
 ハ不可解ナリト述ヘラレ居ル處右ハ事實ニ相違ス佛國ハ夙
 ニ新嘉坡ヨリ南支那海方面ニ於ケル航行ノ安全ヲ確保スル
 爲諸般ノ施設ヲナシ居ルモノニシテ右ノ趣旨ヨリ「パラセ
 ル」群島ニモ航路標識其ノ他航行安全確保ニ必要ナル施設
 ヲナスコトトナリ客年十月大使館付海軍武官「ロザッテ
 イ」大佐ヨリ海軍省ニ通報シ十月頃ヨリ工事ヲ始メ右ハ其
 ノ後臺灣總督府ヨリ同群島ニ派遣セラレタル照南丸乗組員

モ目撃シタル處ニシテ今回佛國側ノ採リタル措置ハ決シテ不意打ニ非スト述ヘタルニ付次官ヨリ日本側トシテハ客年九月貴大使ヨリ覺書ヲ以テ佛國トシテハ領土權ニ關スル佛支兩國間ノ紛爭解決前ニ同群島ノ有效ナル占有ヲナスカ如キコトナカルヘシト通告セラレ居ルニモ拘ラス今回同群島ノ決定的且完全ナル占有ヲ行ハレタルコトヲ不可解ニ感シ居ルモノナリト述ヘタリ

大使ハ右ニ對シ右次官ノ指摘セラレタル覺書ハ佛支間ノ關係ヲ述ヘタルモノニシテ日本ハ右ニ對シ何等ノ關係ヲ有セサルモノナリ佛國トシテハ一八一六年安南政府ニ依ル併合以來同群島ニ對スル領土主權ヲ有ストノ主張ヲ持シ來リ居ルモノナリト繰返シ同群島カ佛國ノ領土ナルコトヲ説明スル處アリタリ仍テ次官ヨリ佛國側ノ主張ハ兎モ角日本側トシテハ從來同群島ハ支那領ト思ヒ居リ過去ニ於テ日本國民カ同群島ニ於ケル事業上ノ權利ヲ讓受ケタル際モ支那側ヨリ承認ヲ取付ケタルヤニモ承知シ居リ佛國側ノ領土主權ニ對スル一方の主張ハ承認シ難シト述ヘタル處大使ハ佛國側ノ主張ノ新シキモノニ非サルコトヲ諄々ト繰返シ述ヘタリ次テ次官ヨリ同群島ニ安南人武裝巡警ノ駐屯スルコトハ我

方從業員トノ間ニ不測ノ過誤ヲ生スル惧アルニ付佛國側ニ於テ至急右巡警ヲ撤退セシメラレ度キ旨日本側ノ希望トシテ申入レ右ハ既ニ現地ニ於テ帝國海軍指揮官ヨリ佛國側官憲ニ申入レ居ル旨ヲ附言セル處大使ハ安南人ノ巡警ヲ駐屯セシメタルハ同島ニ於テ佛國側ノナシ居ル諸設備ヲ海賊ニ依リ破壊セラルルコトヲ防ク爲ニシテ別段ノ他意アル次第ニ非サル旨ヲ述ヘタルニ付次官ヨリ兎モ角斯ノ如キ武裝巡警ノ駐屯ハ日佛間ニ誤解ヲ起ス種トナルヘキニ付至急撤退セシメラレ度キ旨重ネテ要望セル處大使ハ本件ハ余程困難ナリト思考スルモ自分限りニテハ何トモ御答ヘシ難キニ付御希望ハ本國政府ニ傳達スヘシト述ヘタリ

次テ佛國大使ハ覺書第四項末段「適當ナル措置」ニ關シ右ハ軍事行動ヲモ意味スルモノナリヤ若シ然リトセハ右ハ佛國領土ニ對シ日本側ニ於テ軍事行動ヲ取ラルルコトトナリ重大ナル問題ヲ惹起スヘシト述ヘタルニ付次官ヨリ日本側トシテハ既ニ述ヘタル如ク同群島ニ對スル佛國側ノ主張ヲ承認シ居ラサルモノナルニ付將來南支沿岸ニ對スル航行遮斷實施上必要ナルニ於テハ之ニ對シ軍事行動ヲ取ルコトモアリ得ヘク要スルニ「適當ナル措置」トハ日本側ニ依ル行

動ノ自由ノ留保ヲ意味スルモノナリト述ヘ置キタリ

最後ニ次官ヨリ四日ノ貴大使ノ通告ニ關シテハ外務省ニ於テハ何等ノ發表ヲナス所ナカリシモ巴里、倫敦等ヨリ不正確ナル報道ヲ電報セラレ種々誤解ヲ生シ居ルヤニモ思考セラルルニ付此ノ際日本側覺書ノ要旨ヲ發表スルコトト致シ度シト述ヘタル處大使ハ初メ外交文書ヲ公表スルモ一般公衆ニ充分理解セラレサルヘシトテ右ニ同意シ難キ旨述ヘタルモ次官ヨリ覺書ノ「テキスト」其ノママニ非スシテ其ノ要旨ナレハ可ナルニ非スヤト説キ結局大使モ佛國側ノ領土權ニ對スル主張ヲ含ムモノナルニ於テハ差支ナシトテ右ニ同意セリ

尙佛國カ今回斯ル舉ニ出テタルハ佛支間ニ何等カ諒解成立セル爲ナリヤトノ次官ノ問ニ對シ同大使ハ斯ル事實ナシト思考スル旨答ヘタリ

(別紙)

歐二普通第四八號

覺書

今般佛國政府ガ西沙群島(「バラセル」群島)ノ決定的且完

全ナル占有ヲ行ヒタル旨ノ在本邦佛國大使通告ニ關シ帝國外務省ハ在本邦佛國大使館ニ對シ左ノ通帝國政府ノ見解ヲ披瀝スルノ光榮ヲ有ス

西沙群島ニ關シテハ客年九月十八日附在京佛國大使覺書ニ依リ佛國ハ同群島ノ領土權ヲ主張セルモ右ニ關シテハ佛支兩國間ニ係争中ニシテ右紛争ノ解決前ニ同群島ノ有效ナル占有ヲ行フガ如キコトナカルベキ旨ヲ通告セラレ居ル處右ハ從來同群島ニ關シ支那側ヲ交渉相手トナシ來リタル日本側ノ建前ヲ變更スルニ足ルモノニ非ズ

次ニ帝國政府ハ冒頭記載佛國政府ノ今次ノ通告ハ右覺書ト矛盾スルノミナラズ日支間ノ事變最中突如佛國政府カ斯ノ如キ矛盾スル措置ヲ執リ西沙群島ノ決定的且完全ナル占有ヲ通告セラレタルハ其ノ眞意那邊ニアリヤヲ了解スルコト能ハザルコトヲ特ニ指摘セントス

最後ニ帝國政府ハ客年八月以來帝國軍ノ南支沿岸ニ對スル交通遮斷ヲ實施シ來リ居ル處帝國ハ將來右實施ノ必要ニ應ジ又ハ帝國臣民ノ同島ニ於テ有スル事業上ノ權利保護ノ爲之ヲ必要トスル場合適當ナル措置ヲ執ルコトアルベキコトヲ茲ニ附言セント欲ス

昭和拾參年七月七日

1041

昭和13年 7月18日

在香港中村總領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

西沙群島の仏国占拠は中国の懇請に基づくも
のとの伊国總領事内話報告

香港 7月18日後発
本省 7月18日夜着

第九一六號(極秘)

十八日當地伊國總領事ノ内話ニ依レハ最近英國政府ハ香港
總督ニ對シ「パラセル」島ノ占領ハ孫科及顧維鈞ヨリ滇越
鐵道ノ交通確保ヲ目的トシテ佛國政府ニ懇請セルニ基ク旨
極秘トシテ通報越セル趣ナリ尙同總領事ハ右通報中ニハ英
國政府カ事前ニ相談ヲ受ケタルヤ否ヤハ殊更ニ曖昧ニシ居
ルモ「カー」「ナジャール」兩大使ハ事前ニ意見ヲ交換セ
ルヤニ思ハルル節アリト觀測シ居レリ

上海へ轉電アリタシ

英へ轉電セリ

英ヨリ佛へ轉電アリタシ

1042

昭和13年 8月17日

在シンガポール岡本總領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

シンガポールにおける排日貨の風潮は漸次鎮
静化の状況につき報告

シンガポール 8月17日後発
本省 8月17日夜着

第一六二號

當地其ノ後ノ排日狀況左ノ通り

一、往電第一〇九號後當地排日風潮ハ漸次沈靜ニ赴キ邦貨ノ
荷動モ漸増ノ傾向ニ在リシ處職業排日團ハ其ノ頽勢ヲ挽
回セントシ時恰モ我廣東爆撃ニ刺戟サレ且英本國ノ同情
等ニ力ヲ得タル爲遂ニ六月二十六日ノ大示威運動トナリ
又「ピナン」事件ノ發生ヲ見ルニ至レルカ當地政廳モ之
ヲ放任スルハ治安維持上重大事ニ至ルヘキヲ憂慮セル爲
カ民政長官ノ支那居留民ニ對スル警告(往電第一四四號)
トナリ直接運動者ニ對シテハ嚴罰ヲ以テ臨ムニ至レリ
(「ピナン」事件主動者二名ハ追放處分ヲ受ケタリ)
二、「ピナン」事件發生前當地總商會内ニ於テハ日支兩國ニ
對シ和平勸告ノ通電發出方主張スル者アリタリトノ諜報

アリ又廣東方面有力者ヨリ多數ノ反蔣宣傳「ビラ」ヲ送付越ス(配布前陳嘉庚一派ノ爲發見押收サル)等種々排日緩和材料アリ又排日暴力團ノ内訌ニテ鮮魚取扱業者二派二分レ各暴力團ヲ使用シ暗闘ヲ續ケ居レリ(最近頻發スル耳切事件等ハ多クハ暴力團ノ内輪割ニ基ク如シ)籌賑會内部ノ軋轢(林慶年一派カ六月二十六日事件逮捕者二對シ籌賑會ヨリ保釋金ヲ支出セルニ對シ侯西反一派反對ス)等何レモ抗日戰線上ノ破綻ヲ示シ居レリ

孔祥熙ヨリ七月三十一日附發ヲ以テ陳嘉庚宛當地ニ華僑領導機關設置方ニ關シ意見ヲ徵シ來レル趣ナルカ右ハ救國資金ノ募集成績惡化ト前記抗日戰線ノ頽勢挽回ニ對スル對策樹立ノ必要ニ迫ラレ居ルカ爲ト認メラル

三、又一方我軍ノ占領地帶カ漸次南支一帯ニ及フヤ右地域ヨリノ輸入品ヲ日貨ト看做スヘキヤ否ヤカ排日團ト取扱華商間ノ問題トナリ最近モ吉林產人參カ日貨ナリヤ否ヤニ關シ醫藥聯合會ト排日團間ニ論爭アリ結局日貨ト認定サレタル趣ナルカ日貨排斥ニ依リ著シク不況ニ陥レル華商カ今又日本軍占領地域ヨリノ輸入迄禁止サルルニ於テハ殆ト輸入ノ途絶エ商賣出來サル爲死活ノ問題トシテ強硬

ニ反對シ居リ中華總商會長陳振賢モ本件ニ關シ記者ノ質問ニ對シ七、七事件以後日本軍ノ占領セル地帶ヨリ輸入セル品ト雖國貨タルコト判明セハ制限ヲ加フヘキニアラサル旨説明セル趣ナリ右ハ日貨排斥カ却テ自繩自縛トナレルヲ示スモノニシテ當方トシテハ「ボイコット」カ何等支那側ヲ利スル所ナキノミナラス畢竟自滅ヲ招ク所以ナル旨ヲ華商ニ徹底セシメ其ノ日貨取引ノ要望ヲ表面化セシムル様工作シ來リタル次第ニテ華商有力者間ニ於テモ漸次此ノ點ヲ了解シ來レルモノノ如ク個々ノ日貨取引妨害事件アルニ拘ラス大勢ハ排日緩和ノ方向ニ向ヒ來レル様認メラル最近三菱三井等ニ於テモ荷動キ漸増シツツアル趣ナリ

他方鋤奸團等ノ活動ニ對シテハ前記内訌ヲ利用シ勢力分散ノ工作ヲ進メ居リ日貨取扱業者ノ自覺ト相俟テ抗日分子ニ對シ聯合戰線結成ノ機運ヲ醸成セシメツツアリ尙當地政廳側ニ於テモ總督其ノ他ノ關係官憲ノ態度變化シ我方ニ對シ好意ヲ示スニ至リ特ニ總督カ本官着任當時ノ不躉ナル態度ヲ一變セルハ寧ロ奇異ニ感スル程ナリ民政長官亦本官ニ對シ支那側暴漢ハ徹底のニ取締ルヘキヲ

告ケ他方支那避難民ノ當方面移動ヲ支那側及英人同情者ノ懇願ニ拘ラス拒絶セルニ反シ本官ヨリ申入レタル日産工業使役ノ臺灣人人夫十人ノ入國ヲ許可セルカ如キ便宜ヲ計リ居レリ

1043

昭和13年8月26日
在上海後藤總領事代理より
宇垣外務大臣宛(電報)

蒙疆における石油販売統制の新会社設立に對し
独占会社は容認できないとのアジア石油など英米資本の態度について

上海 8月26日後發
本省 8月26日夜着

第二五九五號

本官發張家口宛電報

第二號

貴電第一號ニ關シ

森島參事官廿四日亞細亞石油「ボーエル」、廿五日「テキサス」「ウイリアス」ト會見シ貴電ニ基キ新會社ニ參加方懇談シタル處「ボ」ハ獨占會社ノ存立ヲ承認シ得サル點ニ

付テハ先般來再度ニ亘リ東京ニ於テ抗議提出セラレタリトテ東京ニ於ケル話合ニ多大ノ期待ヲ懸ケ居ル口吻ヲ洩シ北上ノ際確メ得タル所ニ依レハ蒙疆石油公司設立ノ眼目ハ販賣ノ統制竝ニ國防上ノ見地ニ基ク一定量ノ石油貯藏ニアルカ如シ右ノ目的ノ爲ナラハ必スシモ獨占會社設立ノ要ナカルヘク從前通り外國會社ノ商賣ヲ許シツツ右目的ヲ達スル途アルヘク夫レナラハ外國商社トシテモ相談ニ應シ得ヘシ投資額ノ多少ニ付テハ關心ヲ有セスト述ヘ又「ウイ」ハ「テキサス」ノ立場ハ亞細亞及「スタンダード」ト異リ滿石設立後ニ於テモ滿洲ニ對シ石油ノ供給ヲ續ケ來レルモ蒙疆ニ於テ從前通り販賣ヲ續ケ得レハ外國商社トシテハ新ニ三十五萬元ヲ持出ス必要モナキ次第ナルモ御申出ノ次第ハ紐育本店ニ電照スヘシト約セリ

尙「ウイ」ハ新會社ニ外國側カ參加シタル後ニハ「ブランド」(商標)ハ如何ニ取扱ハルルヤ質問シ居タルニ付右ノ點爲念御回電ヲ請フ

大臣、北京、天津、滿ヘ轉電セリ

1044

昭和13年8月28日

在張家口森岡總領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

蒙疆での石油販売統制に英米資本の協力を求

める交渉は成功の見込みなく上海など現地交

渉は当分中止の方針について

張家口 8月28日後発

本省 8月28日夜着

第三三一號(部外極秘)

上海發本官宛電報第二號ニ關シ

蒙疆石油會社ハ豫テ天津「スタンダード」及亞細亞兩支配
人ニ對シ書面及重役ヲ派シ參加ヲ勸誘シ居タル處本月二十
四日附書面ヲ以テ兩社共參加ヲ希望セサル旨同一文面ノ回
答ヲ發送シ來リタルカ上海ニ於ケル森岡參事官對「ボーエ
ル」ノ會談ト對照シ兩社共政府筋ノ抗議ニ期待ヲ持ツカ或
ハ政府ノ方針ニ反スル個人的參加ヲ欲セサルカ(「テキサ
ス」ハ多少立場ヲ異ニスルカ如シ)何レニセヨ現地竝ニ上
海ニ於テ此ノ上交渉スルモ成功ノ見込立タサルヤニ考ヘラ
ルルヲ以テ本日金井顧問ト打合セタルニ同氏ハ蒙疆石油管
理令ノ立案及實行上ノ立役者ナル關係上飽迄強腰ニシテ滿

洲國ヨリノ輸入ニ依リ尙不足スル時ハ獨逸ヲ介シ該油ヲ輸
入スルコトモ可能ナリトノ主張ナリシヲ以テ更ニ石本參謀
長ヲ訪問シ懇談ヲ遂ケタルカ同參謀長ハ國際關係ニ徹底セ
ル理解ヲ有シ結局本件ハ英米側カ條約ニ基キ主義上反對ノ
抗議ヲ爲シ居ルニ對シ蒙疆側トシテハ問題ノ實際的解決ヲ
目標トシテ實益論乃至便宜論ニ依リ英米筋ノ抗議ヲ受流シ
ツツ横道ヨリ外國籍會社ヲ口説キ落サント努メ居ル次第ナ
ルカ外國會社側カ其ノ手ニ乗ラサルニ於テハ結局問題ハ蒙
疆側カ石油統制ヲ強行スルコトニ依リ(一)對英米外交ニ重大
ナル惡影響ヲ及ホスヘキヤ(二)英米側ハ報復手段トシテ日滿
蒙等ニ對スル石油ノ輸入ヲ停止スルカ如キ事態ニ至ル惧ア
リヤ(三)英米政府ノ抗議ハ滿洲國石油專賣實施以來ノ一貫セ
ル方針ナル外北支及中支ニ於ケル各般ノ自國權益擁護ノ爲
將來ノ伏線トシテ形式的ニ主義上ノ主張ヲ爲スニ止マリ實
際問題トシテ滿洲國ニ對スル「テキサス」ノ石油供給ト同
様或ル時期ヲ經過セハ商人對會社間ニ適宜妥協ノ途ヲ發見
セラルヘキヤ等ノ見透シヲ定メ慎重考慮ノ上事情ニ依リテ
ハ再檢討ノ必要モ起ルヘク要スルニ今後東京ニ於ケル外交
交渉ノ經過竝ニ中央部ニ於ケル方針ノ決定ヲ俟テ措置スル

コトトシ地方的交渉ハ當分中止スルノ外無カルヘシト言フニ意見ノ一致ヲ見タリ就テハ今後陸軍ヨリ當地司令部ヘ何分ノ訓令アル場合ハ本官ニ對シテモ其ノ都度御電報相成度ク尙本電ハ機微ノ事情アルニ付部外極秘扱ヲ請フ
北京、上海、天津、滿ヘ轉電セリ

1045

昭和13年9月2日
在張家口森岡總領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

蒙疆での石油販売統制に関する軍司令部の陸
軍省宛説明振りについて

張家口 9月2日午後
本省 9月2日夜着

第三四二號

蒙疆石油統制ニ關スル關係國政府ノ抗議竝ニ上海ニ於ケル交渉經過ニ關スル電報ハ其ノ都度當地軍部ヘ通報シ來リタル處當地軍司令部ニ於テハ蒙疆側ノ實情、石油管理令ノ性質及現地トシテノ方針等ニ關シ中央ニ對シ一應充分説明ヲ爲ス爲本二日陸軍省宛左記ノ通り電報セルニ付御承知ヲ請フ

蒙疆石油統制ニ關シ關係外國側ヨリ抗議アル趣ナルモ從來當地域内石油需要ハ其ノ量地域面積ニ比シ極メテ少ニシテ之ヲ採算ニ重點ヲ置ク各商社ノ自由販賣ニ委スル時ハ到底奧地僻陬ノ地ニ至ル迄其ノ配給ノ圓滑ヲ期シ得サル狀態ナリ加フルニ今次事變ノ實績ニ徴スレハ外油側ハ給油等ノ設備ヲ有シ居ルニ拘ラス全ク送油ヲ絶チ爲ニ官民ノ不便甚大ナルモノアリ茲ニ於テ當方トシテハ之カ緊急の措置トシテ普通法人タル蒙疆公司ヲ設立シ之ニ外油側ノ加入ヲモ懲憑シ實質的ニ特殊法人ト同一ノ資格ヲ附與シ以テ給與ヲ潤澤ナラシムルト共ニ配給ノ圓滑ヲ企圖セルモノニシテ右ハ當地方ノ特殊事情ニ鑑ミ當然且必須ノ措置ナリ然ルニ本件ニ對スル外國側ノ抗議ハ貴方ニ於テ承知セラルル如ク或ハ當方ノ眞意ノ誤解ニ基キ實情ヲ無視シテ徒ニ法理論ヲ翳シテ權益確保ニ狂奔シアルモノト認メラルルニ依リ現下ノ情勢ニ於テハ關係外油商モ蒙疆公司ニ參加スルコトヲ以テ彼等ノ當地域ニ於ケル商權確保上最モ安全且有利ナル措置ト自覺セシムルノ要アリト思料シアリ尤モ蒙疆石油配給管理令ハ資源ノ確保ヲ主眼トスルモノナルヲ以テ販賣ニ對シテハ何等ノ制限ヲ加ヘ居ラス單ニ搬出入ニ對シテノミ許可制ヲ

執リアルニ過キス依テ法制上ハ何人ト雖許可ヲ受クルニ於テハ石油類ヲ搬出入シ得ルモノナリトス

以上ノ次第ナルト本件ハ外交上其ノ他ノ懸案ト相關聯スル所多カルヘキヲ以テ早急ニ之ヲ解決ヲ所期スルハ却テ不得策ナリト思料シアルニ付爲念

北京、上海、天津、滿ヘ轉電セリ



1046

昭和13年9月20日

在張家口森岡總領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

關係国の抗議を避け蒙疆石油販売統制の方針を
轉換するに当たつてのわが方措置振りについて

張家口 9月20日後発

本省 9月20日夜着

第三六六號

本官發上海宛電報

第六號

貴電第六號ニ關シ

關係筋ト打合セタル處蒙疆側ニ於テ石油統制ノ方針ニ變更ヲ加フルハ事英米外交ノ重大性ニ鑑ミ關係國政府ノ抗議ヲ

回避スル爲轉向ヲ決心シタルモノニシテ事此處ニ至リタル以上今更英米石油會社ニ對シ一定量ノ石油貯藏其ノ他ノ條件ヲ持出スカ如キハ考ヘ物ナルト共ニ石油業ヲ自由企業トスルコトニ方針ヲ改ムルモ蒙疆石油公司ノ設立ニ關シテハ當初石油專賣ノ特權ヲ與フル約束ノ下ニ滿石ヲ大株主トシテ引張り出シタル關係上今後同公司カ法制上特權ヲ失フコトナルニ付テハ將來實際的ニ鐵道輸送其ノ他特別ノ便宜ヲ同公司ニ供與シ其ノ面目ヲ尊重セサルヘカラサル事情アルヲ以テ一定量ノ石油貯藏等ハ寧口同公司ニ命令スルコトナルヘキ見込ナル他外國石油會社ニ一定ノ義務ヲ負ハシムルコトヲ協定スルモ果シテ關係國政府ニ於テ之ヲ承認スルヤ否ヤ問題ニモアリ旁外國石油會社トノ交渉ハ一切之ヲ差控ヘ同方針變更ノ事實ヲ發表スルコト得策ナラントノ意見ナリ尙蒙疆石油配給管理令ノ改正ハ手續極メテ簡單ナルモ事前ニ滿石ヲ納得セシムルコトカ最モ難問題ニテ滿石代表者ヲ張家口ニ呼寄セ説得スルコトナリ居ル由ナルカ何ノ途本件ハ急キ解決發表スルコト必要ナリトノ軍部側ノ意見ニ付御含ヲ請フ

大臣、北京、天津、滿ヘ轉電セリ



1047

昭和13年9月26日
在青島大鷹総領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

華北經濟提携に関する日独政府間交渉を受け
て独国よりボイドが天津へ派遣される旨同国
領事通報について

青島 9月26日後発
本省 9月26日夜着

第七四六號

閣下發天津宛電報第五四五號ニ關シ(獨逸ノ北支貿易組合
設立計畫ノ件)

當地獨逸領事ハ七月中旬伯林發ノ公信ニ依リ北支獨逸間
「バーター」制ニ關スル日獨政府間ノ交渉ニ鑑^(Vorl.)ニ「Dr. Voigt
ハ天津ヘ派遣セラルルコトナレル旨竝ニ同領事ハ「ボイ
ド」ノ計畫ヲ承知シ度キ爲目下香港宛書面聯絡ヲ求メ居ル
旨更ニ「ボ」カ來月中旬當地着ノ筈ナル旨ヲ述ヘ居タリ尙
在北支獨逸商人ヲ網羅スル統制組織設立ノ模様ニテ天津又
ハ青島ヲ其ノ中心トスル計畫ナルヤニ内話セリ御參考迄
香港ヘ轉電アリタシ
北京、天津、濟南、上海ヘ轉電セリ

1048

昭和13年10月15日
在香港中村総領事より
近衛外務大臣宛(電報)

英国ヤソ連の蔣政権との關係に関する諸情報
について

香港 10月15日後発
本省 10月16日前着

第一三〇〇號(極秘)

香港、廣東、漢口間ヲ往來シ外交折衝ニ當リ居リタル某要
人力對外關係ニ付十四日夜本官ニ長時間内話セル所豫テ電
報ノ各情報ト一致シ大體正確ナリト思考セラルルニ付御參
考迄ニ電報ス

一、過般孫科ハ英、佛、蘇諸國ヲ歴遊シ外交折衝ニ當レルカ
對英交渉ハ借款ノ申出其ノ他モ斷ハラレ全然失敗ニ終リ
タリ

又六月頃蔣介石ヲ漢口ニ往訪セル「カー」大使ノ質問ニ
對シ蔣ハ漢口ハ六箇月以上ノ支持ハ困難ナル旨答ヘタル
處「カー」ハ英國ノ軍備狀況及歐洲ノ政局等ヨリ見テ少
クモ一箇年ヲ保持シ得サルニ於テハ有力ナル支援ヲ與ヘ
得サル旨ヲ述ヘ蔣ハ困難ナルヘキモ全力ヲ盡スヘシト答

へ又右漢口ノ長期保衛ニハ香港トノ交通線保持ヲ絶対必要トスル處日本軍南進ノ場合英側ハ右交通確保ニ何等支援セラルルヤト反問セルニ「カー」ハ前述ノ事情ニ依リ特ニ措置ヲ約スルヲ得サルモ佛國側ト聯絡シ緬甸、佛印、暹羅方面ヨリノ公路ニ依ル交通ヲ保持スル外ナシト應酬セル趣ナリ

尙廣東、香港ニ於ケル英國トノ交渉ハ何等目星キモノ出來上ラス廣東英國總領事ハ愚物ナル上英國側モ曾養甫ヲ信賴セス關係良好ト言フヲ得サル由ナリ同人ノ觀測ニ依レハ英國ハ日本ニ氣兼シ實質的ニ援助ヲ爲サス武器供給モ相當苛酷ナル條件ヲ求メ只管抗戰ニ依ル日支兩國ノ疲弊ヲ待チ居ル模様ニテ支那側モ之ヲ知ラサルニハアラサルモ引摺ラレ居ル有様ナリ

二、「カー」ト前後シ赴漢セル「ナジャール」大使ハ對支援助ノ代償トシテ西沙島占領ノ内諾ヲ得タル由

三、孫科カ最初莫斯科ニ「スターリン」ヲ往訪セル際武器、彈藥、飛行機（飛行士及技術者ノ派遣ヲ含ム）約一千七百萬留程度ノ援助ヲ申込ミタル處「ス」ハ斯ル少額ノ援助ニテ事足ルヘキヤト反問セルニ拘ラス孫ハ自分ノ受ケ居

レル訓令ハ夫レ丈ケナリト答へ「ス」ハ即座ニ償還ハ支那茶ヲ以テスルコトニ話合成立セリ

其ノ後戰局甚タ支那ニ不利トナリタル爲ニ孫ハ第二回ニ莫斯科ヲ往訪セル際一千八百萬留程度ノ援助ヲ要請セルニ對シ「ス」ハ曩ニモ申セル如ク前記ノ如キ少額ノ援助ニテハ事足ラサルハ必然ナリト詰リ約束ノ茶ハ未タ一枚モ輸入サレ居ラスト皮肉レルモ即座ニ承認シタル趣ナリ右ト前後シ新大使楊杰ヨリ別ニ軍事顧問、飛行士及技術者約三千名竝ニ右輸送仕度金其ノ他ニ要スル經費ヲ含ミ約二千萬留ノ援助ヲ申込ミ承認ヲ得タリ

「ス」ノ對支態度ハ唯支那ノ抗戰繼續ノ結果日本ノ對露迫力ヲ減殺シ支那ニ於ケル共產黨ノ勢力増大ノ必然性ヲ確信シ將來ノ政治的效果ヲ狙ヒ居リ少事ニハ拘泥セサル模様ナルカ有力ナル代償トシテハ蘇聯ノ外蒙ニ於ケル自由行動ヲ支那側ヲシテ再ヒ承認セシメ又支那側ハ前記借款ハ支那茶其ノ他ヲ以テ相當償還シツツアル模様ナリ

英、米へ轉電セリ

上海へ轉電アリタシ

昭和13年10月24日 在上海日高総領事より
近衛外務大臣宛(電報)

米国汽船クーリッジ号への現銀積込みの情報

を得て税関長をして出港許可の取消し措置実
施について

上海 10月24日前発
本省 10月24日前着

第三一四九號(極秘)

二十四日朝當地發「プレジテント、クーリッジ」號(オスメニア)乗船(二本二十三日夕刻米國「マリン」保護ノ下ニ現銀約八百萬元(中央銀行又ハ要人筋ヨリ「シチー」及「チエーズ」銀行ニ賣渡又ハ委託ノ形式ヲ執レルモノノ如シ)ヲ積込ミタルコト判明セルカ右ハ税關内日本人モ知ラス又維新政府海關監督モ承知シ居ラス全ク「メーズ」及「ローフオード」間ニテ取計ヒタルモノナルヲ以テ李海關監督ヨリ不取敢「ロ」ニ同船ニ「クリアランス」ヲ與ヘサル様命令セシメ(維新政府ヨリ曩ニ金銀及貨幣類ノ當地ニ於ケル出入ニハ財政部ノ許可ヲ要スル旨ノ命令ヲ發出シ海關側ニ通達セル経緯アリ尤モ右ハ海關告示トシテ發表ノ手

續ヲ執リ居ラス李ハ右命令ニ基キ積出ヲ差止メタル次第ナリ)尙岸本ヲシテ「メ」及「ロ」ニ折衝セシメタル結果「ロ」ハ李ノ命ニ服シ既ニ發セル「クリアランス」ヲ取消ス旨ヲ米國側ニ書面通達スルコトナレリ(依テ同船力税關規則ニ違反シ強行出港セサル限り本件現銀ハ當地ニ止メ得ヘキ譯ナルカ積卸ノ上米國銀行等ニ保管セシムルコトトナルヘシ)同船力米國領事館ヨリ船舶書類ヲ貰ヒ「クリアランス」ナシニテ出港スル場合ハ税關側ニテ實力阻止スルコトハ殆ト不可能ナリ
本件ニ付テハ未タ日本側ハ抗議ヲ出シ居ラサルモ何レ日米間ノ問題トナルヘシト認メラルルヲ以テ以上不取敢(オスメニア)本邦到着モ延引スルコトアルヘシ)
北京、天津へ轉電セリ



昭和13年10月24日 在上海日高総領事より
近衛外務大臣宛(電報)

米国汽船への出港差止め措置に対し米国総領
事が日本軍憲の不法圧迫を抗議について

第三一五二號(大至急、極秘)

往電第三一四九號ニ關シ

上海 10月24日後発
本省 10月24日後着

二、二十三日夜赤谷ヨリ「ローフォード」ノ命令ニ基キ「クリアランス」ハ誤ナルニ付延期ス本件載貨ヲ荷卸シタル上ハ出港ヲ許可スヘキ旨ノ書面ヲ米國總領事宛通達シ右寫ヲ「ク」號船長ニ交付セリ

三、「ク」號ハ二十四日朝八時半出港豫定ナリシカ二十四時間延期セル由公示シ一方「ゴウス」ハ同日朝「ロ」ヲ往訪嚴重抗議セルカ「ロ」ハ維新政府ノ命令ヲ説明シ自己ノ立場ヲ辯解セルモ「クリアランス」ヲ與ヘス

三、次テ「ゴ」本官ヲ來訪シ(「ダラー」代表者同伴)本件ハ維新政府ノ命令ト言フモ實ハ日本軍憲カ米國船舶ニ對スル不法壓迫ノ事例ニシテ(先般大統領ノ近衛首相ニ對スル「メツセーヂ」ヲ援用セリ)「ゴ」トシテハ本官ニ嚴重抗議シ且出港遅延ニ關スル賠償請求權ヲ留保スル旨述ヘタルヲ以テ本官ヨリ本件維新政府ノ命令ハ妥當ニシテ日本側トシテモ本件ノ如キ當地ノ幣制攪亂行爲ヲ默過ス

ルヲ得ス又日本軍ノ上海占領當時既ニ稅關長ニ對シ蔣介石政權ノ援助トナル如キ武器彈藥及貨幣類ノ當港ニ於ケル出入ヲ禁止スル旨命令シアリ右日本側ノ立場ハ米國會社ノ「ゴムタイヤー」香港向輸出問題(三月八日附機密第六一一號往信)ニ際シ貴官モ承知濟ナラスヤ恐ラク日本政府トシテモ今次米國側ノ措置ハ非友誼的トシテ抗議スル立場ニ在リト思考セラルル旨應酬セル處「ゴ」ハ米國側トシテハ維新政府命令ナルモノハ全然知ラス合法的ニ稅關手續ヲ了シタルモノニシテ又銀ハ相當以前ヨリ米國銀行ノ保有シ居タルモノナリ(本官ハ銀國有令以後外國銀行モ銀ヲ引渡シタルヲ以テ所有權ハ中央銀行又ハ日本政府ニ在リト思考スル旨答ヘタリ)トテ本件ノ重大性ニ付繰返シ述ヘ居タリ

冒頭往電米ヘ轉電アリタシ

北京、天津、米ヘ轉電セリ

~~~~~

1051

昭和13年10月24日

在上海日高總領事より  
近衛外務大臣宛(電報)

クーリッジ号に積込まれた現銀の出所に関し報告

上海 10月24日後発  
本省 10月24日夜着

第三一五三號(大至急、極祕)

往電第三一五二號二關シ<sup>(1)</sup>

一、吉田ヲシテ「チエース」銀行側ニ就キ確メシメタル所ニ依レハ(出所極祕)本件現銀二百五十萬金三十萬(何レモ米弗)ハ「チエース」及「チャーター」ニ折半保管シ在リタルカ十月十三日附ヲ以テ中央銀行ヨリ「チエース」宛財政部ノ命令ニ依リ全部(「チャーター」ノ分モ)桑港宛積出ヲ依賴シ且著後ノ處分權モ「チエース」ニ委スル旨ノ書翰ヲ送付セリ(吉田ハ右書翰ヲ見タリ)依テ最近「チャーター」ヨリ「チエース」ニ移管セルモノナリ

右ニ依レハ本件現銀ハ恐ラク保護預ノモノラシク右ハ事變前銀渡問題解決當時ヨリ保護預ナリシカ或ハ日本側銀行ノ引渡シタル銀ヲ中銀ヨリ「チエース」等ニ預ケタルモノト想像セラル

二、税關ニ就キ取調ヘタル所ニ依レハ總稅務司ヨリ數日前ニ上海税關ニ對シ本件無稅輸出許可方命令シ來リ十一日「チエース」銀行ヨリ輸出申告書提出セラレ支那人副稅

務司カ赤谷ノ知ラヌ間ニ許可セルモノナリ

若シ米國人財産ナリトセハ無稅輸出ハ極メテ異例ナルカ少クトモ當地ニ付テハ維新政府ノ同意ヲ必要トスヘシ

三、以上各方面ヨリ見ルニ本件現銀カ本來中央銀行ノ物ナルコトハ殆ト疑ノ餘地ナク唯輸出ニ當リ處分權又ハ擔保權ヲ米國銀行ニ與ヘタルモノニシテ右取引ハ我方トシテハ之ヲ認ムルヲ得サル譯ナリ

尙「クーリツジ」號ハ客年「フーバー」號事件以來初メテノ「ダラー」P級船舶ノ當地寄港ニシテ他ノ載貨殆トナク專ラ本件積込ノ爲ニ寄港セルモノト想像セラル

米ヘ轉電アリタシ

北京、天津ヘ轉電セリ

~~~~~

1052

昭和13年10月24日 在上海日高總領事より
近衛外務大臣宛(電報)

クーリツジ号による現銀輸出は蔣政權を利用する行為と思われる旨を指摘し米國總領事へ抗議申入れについて

第三一六五號(極秘)

往電第三一五二號二關シ

上海 10月24日後発
本省 10月24日夜着

本二十四日午後本官米國總領事ヲ往訪シ本件金銀塊輸出阻止方ニ關スル日本側ノ立場ハ今朝説明ノ通りナルカ本件金銀塊ノ所有權乃至出所ニ付我方ハ重大ナル疑惑ヲ抱キ居レリトテ往電第三一四九號及第三一五三號ノ次第ヲ説明シ輸出税免除及漢口財政部ノ命ニ依ル輸出ノ事實ハ漢口政府ノ所有ニアラサルヤ然ラサルトスルモ本件輸出力漢口政府ノ利益ノ爲ニ行ハレタリトノ強キ感ヲ與フルモノナリト述ヘタルニ付「ゴース」ハ何レモ初耳ナリ實ハ昨年秋「チエース」銀行ノ金庫移轉ノ際貯藏銀塊輸送護衛ノ問題起リタル際銀行側ノ説明ニ依レハ本件銀塊ハ一九三六年支那政府ニ對スル「アドバンス」ニ對スル擔保トシテ寄託サレタルモノナリトノ説明ナリシト答ヘタルヲ以テ本官ヨリ「ゴース」限りノ極秘ノ含トシテ今回銀行側ノ維新政府側ニ對スル説明ニ依レハ當地ニテ掻集メタルモノナリトノコトニテ右ノ説明ト相違ス何レニスルモ是等ノ點ニ關シ充分ナル説

明ナキ限り我方ノ疑惑ハ解ケスト強ク述ヘ置キタルカ「ゴース」ハ一先ツ荷物ヲ積卸スヨリ外ナカルヘシトノ口吻ヲ洩ラシ居タリ

北京、天津へ轉電セリ

米へ轉電アリタシ

~~~~~

1053

昭和13年10月24日 近衛外務大臣より  
在米國齋藤大使宛(電報)

クーリッジ号による現銀輸出の企圖は非友誼的であり本件輸出の中止を米國國務省へ申入れ方訓令

付記 昭和十三年十月二十四日付、外務省より在本

邦米國大使館宛口上書

クーリッジ号による現銀輸出の企圖は非友誼的であり本件輸出中止方要請

本省 10月24日後11時45分発

第三二一號(大至急)

上海發本大臣宛電報第三一五四號二關シ

二十四日夜在京米國大使館員ノ來省ヲ求メ亞米利加局長ヨ

リ上海來電ノ趣旨ニヨリ取不敢口頭ニテ本件現銀積出ノ企圖ハ非友誼のト認メザルヲ得ザル旨ヲ以テ抗議シ現銀ノ積卸シヲ要望シ尙國務省ニ對シテ抗議方華府ニ訓令スヘキ旨ヲ述ヘ置キタリ就テハ貴大使ニ於テモ至急國務省ニ對シ右主旨ニヨリ可然申入レラレ度シ

上海、北京、天津ニ轉電セリ

### (付記)

十月二十四日上海ヨリ接到セル報告ニ依ルニ二十三日米國汽船「プレジデント・クーリッジ」號カ米國「マリーーン」保護ノ下ニ價額約八百萬元ノ現銀ヲ積込ミツツアルコト判明シタルヲ以テ維新政府海關監督ハ事情ヲ取調ヘタル處右積込ニ對シテハ稅關長ニ於テ誤テ「クリヤランス」ヲ發給シタル事ヲ知リタルニ依リ豫テ維新政府ヨリ金銀及貨幣類ノ上海輸出入ニハ財政部ノ許可ヲ要ス可キ旨ノ命令ヲ發出シアリシニ基キ右稅關長ノ發セル「クリヤランス」ノ取消ヲ命令シ稅關長ハ右ノ趣ヲ在上海米國總領事ニ通告スルト共ニ其ノ寫ヲ「クーリッジ」號船長ニ交付シタリ

右ニ基キ「クーリッジ」號ハ其ノ出帆ヲ二十四時間延期シ

タルカ在上海米國總領事ハ右「クリヤランス」取消ニ關シ稅關長ニ抗議シタル後日高帝國總領事ヲ來訪シテ右ハ維新政府ノ命令ト言フモ實ハ日本軍憲カ米國船舶ニ不法壓迫ヲ加フルモノナリトシテ抗議セルニ對シ日高總領事ハ本件維新政府ノ命令ノ妥當ナルヲ述フルト共ニ日本側トシテモ日本軍ノ上海占領當時稅關長ニ對シ蔣介石政權ノ援助トナルカ如キ武器彈藥及ヒ貨幣類ノ上海港ニ於ケル出入ヲ禁止スル旨命令セル次第モアリ今次ノ米國側ノ措置ハ非友誼の措置ト認メサルヲ得サル旨ヲ述ヘタル趣ナリ

本件ニ關シ當方ノ有スル情報ニ依レハ本件現銀二百五十萬米弗及ヒ金塊三十萬米弗ハ中央銀行ノ要求ニヨリ在上海「チエース」銀行カ積出スモノニ繫ル趣ナルカ右ノ事實ハ本件現金銀ノ米國財產ナリヤ否ヤニ付キ多大ノ疑念ヲ誘起セシムルモノニシテ暫ク法理論ヲ別トスルモ目下日本軍カ蔣政權ノ交戦力ノ壞滅ヲ期シテ戰鬪行爲ニ從事中支那側ノ現金銀カ米國ニ輸出セラルル事ハ結局ニ於テ蔣政權ノ抵抗カヲ増スモノト豫想セサルヲ得ス依テ米國船ニ依ル本件現金銀ノ積出シハ帝國政府トシテハ之ヲ非友誼の行爲ト認メサルヲ得サル次第ナルニ付テハ此ノ點ニ付米國政府ノ注意

ヲ喚起スルト共ニ米國政府ニ於テ本件積出シヲ阻止セシムル様適當ナル措置ヲ構<sup>講</sup>セラレン事ヲ要請セサルヲ得ス尙華府ニ於テモ國務省ニ對シ右趣旨ノ申入レヲ爲ス様在米帝國大使ニ訓令スル事トナリ居レリ

(昭和十三年十月二十四日)

編 注 本口上書は、昭和十三年十月二十四日、吉沢清次郎並

米利加局長より在本邦コヴィル米國大使館書記官へ口頭で通告された。

~~~~~

1054

昭和13年10月25日 在上海日高総領事より
近衛外務大臣宛(電報)

現銀を降ろしてクーリッジ号出港について

上海 10月25日前発
本省 10月25日前着

第三一六八號(大至急)

往電第三一四九號ニ關シ

二十四日夜中ニ積卸ヲ了シ「ク」號ハ二十五日朝九時出帆セリ之ト前後シテ現銀類ハ「バンド」ニ廻送セルカ「チェ

ース」銀行金庫ニ收容セラルルモノト認メラル米、北京、天津へ轉電セリ

~~~~~

1055

昭和13年11月1日 有田外務大臣より  
在上海日高総領事宛(電報)

クーリッジ号の現銀輸出事件に關して在本邦米國大使がわが方軍憲の措置およびわが抗議の不当を抗議について

本省 11月1日後8時30分発

第一七七三號

三十一日在京米國大使ハ澤田次官ヲ來訪シ先般ノ「クーリッジ」號ノ金銀塊積出事件ニ關シテ東京及ヒ華府ニテ爲シタル我方ノ申入レニ言及シ本件ハ一米國船カ上海ニ寄港シ同地ノ米國銀行カ支那稅關ヨリ正常ノ手續ヲ以テ本件積出ノ許可ヲ得タル上同船ハ右積荷ヲ了シ(其ノ際在上海米國「マリーン」司令官ハ揚子江河口ニ頻發スル海賊行爲ニ鑑ミ積荷人側ヨリノ要求ニヨリ「マリーン」ノ警護ヲ附セリ)且稅關ヨリ出港許可證ヲ發給セラレ右ニ基キテ米國總領事館ニ於テ出港手續ヲ了シタルモノナル處右出港許可ハ

日本軍憲ノ命令乃至「インフルエンス」ニ依リテ停止セラレタルモノナルカ右事實竝ニ日米兩國ノ共ニ當事者ナル諸條約ノ規定ニ鑑ミ本件ニ關シテ日本側カ「非友誼的行爲」トシテ爲シタル抗議ハ米國トシテハ諒解ニ苦シム所ニシテ若シ本件ニ關シテ「非友誼的行爲」アリトスレハ其レハ日本側ニコソ存ス可シトナシ最後ニ貴電第三一五二號所報ノ米國總領事ノ貴官ニ爲シタル抗議竝ニ留保ハ米國政府ニ於テ承認スル所ナル旨申入レタリ

右ニ對シ次官ハ貴電ノ趣旨ニヨリテ應酬シ日本側トシテハコノ際金銀塊ヲ米國ニ積出スコトソレ自体ヲ「非友誼的行爲」ト見做サザルヲ得スト述ヘタリ

米ニ轉電セリ

1056

昭和13年11月4日 在本邦アウリチ伊國大使より  
沢田外務次官宛

### 中国での航空事業に関する伊國のわが方への

#### 協力要請について

在支航空事業ニ於ケル伊國ノ對日協力ニ關スル件

昭和十三年十一月四日澤田次官宛在京伊國大使

#### 書翰要譯

(昭和三、二、七、亞一)

拜啓陳者別紙口上書ニ對シ特ニ閣下ノ好意アル御考慮ヲ仰キ度ク候右ニ關シテハ既ニ過日有田大臣ニ申上クル所有之候 敬具

#### (別紙)

在支航空事業ニ於ケル伊國ノ對日協力ニ關スル件

昭和十三年十一月三日附在京伊國大使館口上書

#### 要譯

(昭和三、二、七、亞一)

#### 口上書

伊國大使館ハ左記ニ關シ帝國外務省ノ好意的考慮ヲ喚起スルノ光榮ヲ有ス

一、伊國航空運輸業者ハ伊國政府ニ對シ支那ニ於ケル航空路ノ設定及經營ニ參加シ度キ熱誠ナル希望ヲ表明シタリ

二、右航空運輸業者ハ充分ニ航空材料竝ニ技術員ヲ提供シ得ルヲ以テ最短期間即チ數ヶ月内ニ一若クハ多數ノ航空路ヲ開設及經營スルノ能力ヲ有ス

三、伊國政府ハ日本政府トノ間ニ既ニ存在セル了解ニ基ク支那ニ於ケル伊太利ノ經濟的協力ヲ開始スル一方法トシテ本問題ヲ最上ノ好意ト最モ熱心ナル興味トヲ以テ考慮シ居レリ

四、本件計劃ハ差當リ左ニ依リ實行スルヲ得ヘシ

イ、當初ハ歐洲及亞米利加ヨリ日々香港ニ到着スル郵便物及貨物ノ急速輸送ニ限定セラルヘキ香港―上海―北京間ニ於ケル郵便航空路ノ特許本航空路ハ出來得ル限リ速ニ旅客運輸ヲ開始シ之ヲ完備セシム

ロ、支那ニ於ケル航空路ノ經營ニ任スヘキ一又ハ多數ノ日本側企業ニ對スル商業航空機供給ノ形式ニヨル伊太利資本ノ參加

ハ、イ、及ロ、ニ於テ豫想セラレタル航空事業ニ對スル適當ナル人數ノ伊太利民間航空技術者(操縦士、無電技師、機關士、地上勤務員)ノ提供

五、本件ニ關シ日本側當該官憲ト話合ヲ爲サシムル爲伊太利「アラ、リットリア」會社ハ伊國政府ノ同意ノ下ニ前特命全權公使「ビエロ・バリニ」ヲ日本ニ派遣セリ「バリニ」ハ本件交渉ニ關スル全權ヲ附與セラレ居レリ同氏ハ

帝國官憲ト接觸スル爲既ニ日本ニ到着シ居レリ

六、右通報旁々伊太利大使館ハ帝國外務省ニ對シ「バリニ」ノ使命ヲ援助スル爲關係當局ニ對シ斡旋アランコトヲ依頼ス伊國大使館ハ日伊兩國間ニ存在セル良好ナル關係及日伊協力ノ趣旨ニ鑑ミ本件計劃力急速且良好ナル成果ヲ見ルヘキヲ疑ハス

一九三八年十一月三日 於東京

編 注 本文書冒頭に「一應拒絕セリ」との書き込みあり。

1057

昭和13年12月3日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

独国と蔣政権との關係は疎隔しつつあるので速やかに中国に新中央政府を樹立し独国に承認せしむるよう工作方意見具申

ベルリン 12月3日夜発

本省 12月4日前着

第七五六號(極秘、館長符號)

廣東、漢口攻略後尙蔣介石カ下野セザル現況ニ於テ一切ノ

手段ヲ盡シ我カ目的ヲ貫徹スルコト必要ニシテ之カ爲速ニ鞏固ナル新支那ノ中央政府ヲ樹立シ帝國ノ新政府承認ニ伴ヒ獨伊兩國ヲシテ成ルベク速ニ之ヲ承認セシムルヲ有利トス獨ニ於テ蔣介石側トノ關係漸次疎隔シツツアルハ御承知ノ通ニシテ今ヨリ獨國ニ對シ準備工作ヲ爲スコト可然ヤニ存スルニ付右ニ關スル御方針及新中央政府樹立ニ關スル狀況等御回示相成度

1058

昭和13年12月10日

有田外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

独国政府に対し「日支新關係調整方針」等の  
わが方方針を説明し蔣政権との關係疎隔促進  
方訓令

本省 12月10日後0時15分發

第四九七號(極祕、館長符號)

貴電第七五六號ニ關シ

新中央政府樹立方、國民政府切崩等ニ付テハ各種ノ手段ニ依リ目下折角工作進捗中ナル處獨逸政府ニ對シテハ十一月三日ノ帝國政府聲明及近衛總理ノ放送竝ニ過日決定ノ日支

新關係調整方針ノ主旨ヲ体シ我方不動ノ決意及態度ヲ説明セラレ蔣介石側トノ關係疎隔促進方此上トモ工作相成先方ノ反響逐次電報相成度

1059

昭和13年12月23日 五相會議決定

「支那ニ於ケル對外問題處理ニ關スル訓令」

支那ニ於ケル對外問題處理ニ關スル訓令

昭和十三年十二月二十三日

五 相 會 議 決 定

一、現地ニ於ケル從來ノ對英米等ノ懸案ヲ可成速ニ解決スルコトニ就テハ五相會議ニ於テ再度ニ互リ決定セル所ナルカ未タ大ナル進捗ヲ見ルニ至ラス今後本問題ハ興亞院ニ於テ右方針ノ下ニ可成速ニ處理セラルル様致度

二、支那ニ於ケル第三國ノ經濟活動ニ就テハ日支國交調整要領附則ニ基キ處理セラレ度

右訓令ス

總裁ヨリ

總務長官宛

1060

昭和13年12月30日

新中央政府成立への期待を表明した在上海伊

國總領事の日高興亜院經濟部長に対する内話

概要について

十二月三十日上海駐在伊國總領事日高部長ヲ來訪シ語レル所大要左ノ通り

一、日本ハ着々トシテ軍事上ノ勝利ヲ收メツツアル處現在最も重要ナルハ蔣政權ノ壊滅ヨリモ寧ロ廣般ナル占領地區ノ經營乃至新政府ノ確立ニアリ最近在上海伊國大使ノ來電ニ依ルモ同大使ノ地位ハ甚タ機微ナルモノアリ支那ニ新中央政府成立シ日伊之ヲ承認スルコトモナラハ大使ノ立場モ頗ル明確トナル譯ナルカ現狀ニ於テ同大使トシテハ各般ノ理由ニ依リ重慶ニ赴キ信任狀ヲ奉呈スル運ニ至ラス其ノ以前ニ於テハ正式ニ駐支大使トシテノ職務ヲ執行スルモノニアラス所在地ニ於ケル賓客トシテ上海ニ生活シ居レリトノ建前ニテ先般傳市長ノ非公式ノ招宴ニモ應シタル次第ナルカ斯ル狀態ノ長ヒクコトハ都合悪キ故中央政府ノ出現ヲ待望スルモノナリ(右ニ對シ日高ヨ

リ各新政權ハ相提携シテ着々其ノ地歩ヲ固メツツアルカ此ノヤリ方ハ廣東漢口其ノ他ニ於テ有力ナル政客ノ出現ヲ容易ナラシムルモノナル所以ヲ然ルヘク説明シ置ケリ)若シ現在ノ狀態永引ク様ナラハ大使ハ北京ニ住ムカ或ハ上海ニ居ルコトトシ在重慶ノ參事官ヲ引揚クルコト可然ヤニモ思ハルトノ私見ヲ洩シタリ

三、上海市政府殊ニ傳市長ヲ各國ニ於テ認メ之ト接觸スヘシトノ意見ヲ以テ自分ハ各國總領事等ヲ説得シ居ル處何レモ趣旨ニハ敢ヘテ反對セサルモ日本側ニ於テ彼等支那人ニ何等實權ヲ與ヘス傀儡政府ニ止マル現狀ニ於テハ進ンテ之ヲ認ムヘキ時期ニ到達セスト言フモノ多シ日本ノ友人トシテ最も率直ニ申サハ彼等ノ言分ニモ一理アリ日本側ニ於テ(實權ハ全部日本人カ握ルコトハ當然ナルモ)今少シ傳其ノ他支那人ノ顔ヲ建テ何カ仕事ヲヤラセ同時ニ今少シ思ヒ切ツテ宣傳其ノ他ニ努メラルル要アルヘシ上海ニ於ケル日本及新政府側ノ活動ハ聊カダレ氣味ナリトノ感想ヲ抱ク者少カラス先頃傳市長開催ノ「アスターハウス」ニ於ケル招待ニ自分等ハ出席セルモ各國總領事ハ出席セス(獨逸總領事カ出席セサリシハ不都合ナリ)佛國

ハ次席領事ノ「オージエ」ヲ遣ハシ居タリ工部局ハ全員  
出席スヘカラストノ内密指令ヲ發シタル趣ニテ是亦不都  
合ナリ

1061

昭和14年1月19日  
在本邦アンリ仏国大使より  
有田外務大臣宛

日本政府の極東政策に関する声明は九国条約  
に抵触するとの仏国政府見解通報

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ茲ニ閣下  
ニ對シ極東ニ於テ遂行セラルヘキ政策ニ關スル日本政府ノ  
最近ノ公式聲明ハ佛國政府ノ特別ノ注意ヲ惹キタルコトヲ  
通報スル次第ニ候佛國政府トシテハ斯ク闡明セラレタル政  
策ハ九國條約ノ條項ト牴觸セサルコト困難ト認ムル次第ニ  
候佛國政府ハ現行諸條約ニ基キ支那ニ設定セラレタル狀態  
ヲ關係列國ノ事前ノ協議無ク且關係列國ニ依リ承認無クシ  
テ如何ナル變更ヲ爲スコトモ了承シ又ハ承認スルコト能ハ  
サルヲ強調スル次第ニ候佛國政府ハ一九二二年二月六日華  
府ニ於テ締結セラレタル條約ノ規定スル諸原則ハ絕對ニ效  
力ヲ失ヒ居ラス且右原則ノ尊重ニ依リテノミ日本國カ支那

ニ於テ執リツツアル行動ニ依リ惹起セラレタル種々ノ問題  
ヲ第三國ニ對シ満足ナル解決ヲ爲シ得ルモノト思考スルモ  
ノニ候

佛國政府ハ日本政府カ自ラノ自由意思ニ基キ加入シタル條  
約規定ヲ一方的ニ廢棄シ又ハ右諸規定ニ關聯スル事態ヲ變  
更スルコトニ依リ條約當事者タル第三國ヲ其ノ權益ニ重大  
ナル不利益ヲ及スヘキ性質ヲ有スル既定事實ノ前ニ立タシ  
ムルカ如キ意思ヲ有セラレルトハ信スル能ハサルモノニ候  
日本政府ニ於テ極東ニ於ケル事件ノ展開ニ依リ華府條約ノ  
條項ニ關シ修正ヲ要スト認定セラルルニ於テハ日本政府ハ  
先ツ右條約ノ締約國ニ適當ト認メララルル提議ヲ通報セラル  
ヘキモノト信スルモノニ候

右ノ場合ニハ佛國政府ハ日本政府ノ御見解ニ對シ最モ注意  
深キ研究ヲ爲スコトニ吝ナラサルヘク候  
本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候 敬具

編注一 本文書は情報部が公表した要訳文のため、日付や宛先

人・差出人名は省略されている。なお、本文書の原文

(仏文)は省略。

二 本文書は、昭和十四年十二月、情報部作成「支那事變關係公表集(第四號)」から抜粋。

1062

昭和十四年2月13日

わが方の海南島占領をめぐる有田・アンリ会談につき外務省発表

海南島占領ニ付有田大臣佛國大使會談ニ關スル

外務省發表(二月十三日)

二月十三日午前十一時「アンリ」佛國大使有田大臣ヲ來訪海南島占領ニ關シ日本政府ノ説明ヲ求ムル所カアツタ。即チ海南島占領ノ目的、期間及性質如何トノ質問ニ對シ大臣ハ今回ノ海南島占領ハ南支封鎖ヲ嚴重ナラシメ蔣政權ノ壞滅ヲ速カナラシメントスル軍事上ノ目的ニ出テタモノテ性質ニ於テモ期間ニ於テモ軍事的必要以上ニ出ツルモノテナイ旨竝ニ領土的目的ノナイ事ヲ明カニシタ。佛國大使ニ於テハ右説明ヲ諒承シ會談約四十分ノ後辭去シタ。

編 注 本文書は、昭和十四年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第四號)」から抜粋。

1063

昭和十四年2月28日

在青島加藤總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

華北での日独經濟提携に關する交渉を再開する  
ためボイドに至急青島に帰還するよう通報  
方在香港田尻總領事へ依頼について

青 島 2月28日前發

本 省 2月28日前着

第一四八號

本官發香港宛電報

第一號

「支那ニ對スル獨逸商社ノ活動ヲ統制スル目的ヲ以テ現在「ロワック」會社(Rowak Handelsgesellschaft M. B. H.)ナルモノ設立セラレ居リ右ハ一種ノ「トラスト」會社ニテ「メンバー」ハ支那ニ關スル獨逸商社ヨリ成リ政府ノ強キ支持ヲ受ケ居レル趣ニテ當地及北京ニ於テハ右會社代表 Dr. H. H. Woidt(本官發大臣宛客年往電第七四六號參照)トノ間ニ客年十一月以來北支獨逸間ノ貿易關係調

整ノ交渉ヲ進メ來レル處客年末未タ成案ヲ得サルニ獨逸側ノ事情ニテ「ボイド」ハ急遽香港ヘ赴クコトナリ現在モ貴地滯在中(宿舍不明ニテ當地獨逸側モ貴地獨逸領事館氣付ニテ通信シ居レル由)ナリ當地ニ於テハ先般「ボイド」ノ殘シ置キタル提案ニ關シ(イ)原則上異議ナク(ロ)不取敢青島限リノ案トシテ之ヲ纏メ(ハ)且差當リ獨逸ヨリ製鐵所鑛山關係ノ機械電氣器具等六百萬圓購入ノ手筈サヘ進メ居レルモ最近當地獨逸側ニ於テハ本官發北京宛電報第七六號ノ通り本件交渉ノ責任ヲ取り切ラス寧ロ「ボイド」自ラ右交渉ニ當ルコトヲ希望シ居レルヲ以テ「ボイド」ニ於テモ至急當地ニ歸還シ本件處理ニ當ルコト双方ニ好都合ナルニ付テハ當地獨逸側ヨリモ右趣旨ニテ「ボイド」ニ聯絡ノ筈ナルモ貴方ニ於テモ本電ニノ點ヲ御含ミノ上「ボイド」ニ對シ前記三點及當地獨逸側ノ態度竝ニ更ニ北京ニ於テハ一層包括的ナル貿易取極ノ用意アルコト等然ルヘク御傳達ノ上「ボイド」ニ於テ現在至急北支ヘ歸還スル意思アリヤ否ヤ御確メ相成結果同電相煩度シ

二、「ボイド」ハ客年北支ニ在リタル以前ニ貴地ニ立寄り河

内雲南迄モ足ヲ延シタルコト事實ニテ又先般急遽貴地ニ赴キタルモ私用ニアラサルコト確カニテ或ハ右從來獨逸カ關心ヲ有シ居リタル南支ノ「タングステン」「アンチモニ」等ノ獲得ト何等關係アルニアラスヤトモ察セラレ其ノ對價トシテ武器ノ對支輸出モ考ヘラレサルニアラサルニ付「ボイド」ノ貴地ニ於ケル活動ニ關シテハ御注目アリ度シ尙當方交渉上承知シ置キ度キニ付何等具體的情報上リタル際ハ電報相煩度シ

大臣、北京、天津、上海へ轉電セリ



1064

昭和14年3月31日  
有田外務大臣より  
在仏国宮崎(勝太郎)臨時代理大使宛  
(電報)

新南群島のが領土への編入を在本邦仏国大使に通告について

付記一 昭和十三年十二月九日、五相會議決定

「新南群島ノ所屬確定ニ關スル件」

二 昭和十四年三月三十一日

新南群島の行政管轄權決定に關する外務省發

表

本省 3月31日後8時30分發

第八六號

往電第八二號ニ關シ

三十一日午前十一時「アンリー」大使ノ來訪ヲ求メ澤田次官ヨリ我方回答ヲ手交スルト共ニ帝國政府ハ新南群島ニ關シ爾今兩國政府間ニ無用ノ論爭ヲ繰リ返スコトヲ避ケ問題ヲ最終的ニ決定スルノ必要ヲ認メ同群島ヲ三月三十日附ヲ以テ臺灣總督府ノ管轄ニ編入スルノ手續ヲ終了セルヲ以テ右ノ次第ヲ佛國政府ニ通報アリ度旨附言セリ

右ニ對シ大使ハ前記編入ハ法律上ノ手續ヲ執ラレタルモノト思考スルガ日本ハ實效的占有ニ必要ナル措置ヲモ同時ニ執ラルル意向ナリヤト問ヘルヲ以テ次官ハ我方ハ早クヨリ實效的占有ヲ行ヒ居ルモノニシテ今更スル措置ヲ問題トスル必要ナク今回ハ唯法律上ノ手續未了ナリシヲ以テ之ヲ完了セル迄ナリト答ヘタル趣ナリ

(付記一)

新南群島ノ所屬確定ニ關スル件

昭和十三年十二月九日

五 相 會 議 決 定

南支那海中佛領印度支那ト比律賓群島トノ中間ニ存スル所謂新南群島ニ付其ノ帝國ノ所屬タルヘキ旨ヲ確定シ爾今之ヲ臺灣總督府ノ所管トス

(付記二)

新南群島ノ行政管轄決定ニ關スル外務省發表

(三月三十一日)

新南群島ハ佛領印度支那ノ東南支那海中ニ存在スル小珊瑚礁島群テアツテ、永年無主ノ珊瑚礁島嶼トシテ知ラレテニモ先立ツテ巨額ノ資本ヲ投下シ恆久的ノ諸施設ヲ設ケテ同島嶼ノ經濟的開發ニ從事シ來ツタ。

帝國政府ハ是等邦人ノ活動ヲ承認シ數次同島嶼ヘ軍艦ヲ派遣シ且必要ニ應シ各般ノ援助ヲ與ヘ來ツタノテアルカ、從來其ノ行政管轄力確定セス爲ニ邦人ノ生命、財産及其ノ事業ノ保護並ニ取締ニ不便カアリ又佛國トノ間ニ無用ノ紛爭ヲ生スル虞カアツタノテ、斯カル不便及不利ヲ除ク爲今般

同群島ヲ臺灣總督府ノ管轄ニ屬セシムルコトトシ三月三十日附ヲ以テ公示スルト共ニ右ノ次第ヲ三十一日澤田外務次官ヨリ在京佛國大使ニ通告シタ。

編注 本付記は、昭和十四年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第四號)」から抜粋。

1065

昭和14年4月1日

在上海三浦総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

独国と重慶政権との間に新たなバーター貿易

協定が成立したとの報道報告

上海 4月1日後発

本省 4月1日夜着

第八五八號

三十日及三十一日重慶電トシテ當地英漢字紙ノ報スル所ニ依レハ今般獨支間ニ新「バーター」協定ノ締結成立シ金額ハ一千萬麻克ニシテ支那側ノ土產品輸出ニ對シ獨側ヨリハ製造品ヲ提供スルモノナル處獨逸品ノ詳細ハ不明ナリ國民政府交通部技術顧問「フォンローホー」ハ本協定交渉者ノ

一人ニシテ右交渉中ハ屢々伯林ニ飛行セルカ三月上旬重慶ニ歸來セリ本協定ハ獨逸ノ對支鐵道器材輸出ノ目的ニ出テタルモノト信セラレ居ル趣ナリ  
北京、天津、青島ニ轉電セリ  
香港ニ轉電アリタシ

1066

昭和14年4月7日

有田外務大臣より  
在仏国宮崎臨時代理大使宛(電報)

新南群島のわが領土への編入を在本邦仏国大使を通じて仏国政府抗議について

本省 4月7日後10時40分発

第九六號

「五日「アンリー」大使澤田次官ヲ來訪シ新南群島編入ニ關シ佛國政府ノ訓令ニヨル趣ヲ以テ抗議シ越セル處右ニ對シ次官ハ本件ハ帝國政府ノ確定方針ニ基キ措置セラレタルモノナルヲ以テ今更抗議セラルルモ考慮ノ余地ナシ但シ抗議文ハ佛側見解トシテ大臣ニ供覽スベシト答ヘ置タル趣ナリ  
三、右公文内容大略左ノ通り

1067

昭和14年4月9日

在仏国宮崎臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

## 海南島占領および新南群島のわが領土への編

(英、米二轉電セリ)

佛國政府ハ亞細亞大陸ニ於ケル最近ノ日本ノ政策ニ依リテ生ジタル困難ニ拘ラズ日佛友好關係ヲ維持スベク常ニ努力ヲ繼續シ來リ又法律上ノ義務ナキニ拘ラズ一九〇七年ノ日佛協約ノ精神ニ基キ兩國間ノ相互利益ニ牴觸スル如キ行動ヲ回避シ來レリ茲ニ於テ新南群島ニ關スル佛國ノ主張ヲ充分承知シ居ルベキ日本政府ガ日佛傳統關係及公正ノ觀念ヲ無視シタル態度ニ出デタルハ佛國政府ノ最モ意外且遺憾トスル所ナリ佛國政府ハ群島ノ臺灣總督府編入決定ヲ容認シ得ズ右決定ハ群島ニ對スル佛國主權ヲ何等侵害シ得ザル旨確言シ帝國政府ガ右決定ヲ維持スルコトニ依リ新シク對佛關係ヲ規律セントスル限ニ於テ佛國政府ハ極東ニ於テ現在提起サレ居ル各種問題ニ對シ從來執ルベク考慮シ來レル態度ヲ再檢討スルノ要アル旨留保ス

## 入に対する仏国側態度につき報告

パリ 4月9日前發

本省 4月9日後着

## 第二一七號

新南島問題ニ關シテハ佛政府ニ於テ「コントロール」シ居ルモノト見エ其ノ後モ新聞ニハ餘リ書き立テス從テ一般ニハ大体ニ於テ平靜ナルモ政府當局トシテハ直接如何トモ仕様モナキ丈ケ一層深刻ナル打撃ヲ受ケタル模様ニシテ七日印支鐵鑛問題ニテ亞細亞局長ヲ訪ヒ會談ノ際同局長ハ新南島問題ニ言及シ日支事變勃發以來佛ハ日佛間ノ傳統的友好關係ニ鑑ミ好意ヲ以テ事ニ望ミタルニ拘ラス日本ハ曩ニ海南島ヲ占領シ今新ニ新南群島ヲ臺灣ニ編入スル等好意ヲ示サストテ愚痴ヲ零シタルニ付本使ハ今猶印支經由武器輸送ノ情報アル點ニ注意ヲ喚起スルト共ニ今回ノ我方措置ハ將來無用ノ紛爭ヲ避ケ日佛國交ノ障礙ヲ除去セントスル寧口好意的意圖ニ出ツルモノナルコトヲ説キ徒ニ感情乃至理論ニ拘泥スルコトナク良ク我方ノ眞意ヲ了解シテ東亞ノ實情ヲ顧慮シ善處方勸説シ置ケリ

昭和14年4月11日  
在香港田尻総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

# 華北での日独経済提携問題や重慶訪問の目的 などに関するボイドの内話報告

香港 4月11日後発  
本省 4月12日前着

## 第四五五號(極秘)

本官發青島宛電報第一號ニ關シ

「ボイド」夫妻ハ最近重慶ヨリ歸香セルカ八日獨逸總領事  
宴會ニテ落合ヘル際(シユ)モ同席ス左ノ如ク語レリ

一、北支ニ貿易管理實施セラレ青島ノミヲ特殊扱スル事由消  
滅セルニ付今ヤ北支全般ノ貿易取極ヲ希望ス右意見傳達  
旁狀況聽取ノ爲「シユ」ヲ呼寄セタルカ今度ノ管理ハ現  
在程度ノ品目ナラハ大體巧ク行クモノト見透シ居リ平時  
狀態ニ於ケル貿易狀況ヲ主トシ臨時需要品ヲ從トスル基  
礎ノ上ニ北支ヲ通シ二千萬馬克見當ノ取極トシタキ處自  
分ノ案ハ既ニ提出濟ニ付日本側ノ對案ヲ見タル上北上シ  
タキ考ナリ

二、重慶ハハ本國政府ノ命ニ依リ通商取極改訂用務ノ爲赴ケ

ルカ土產品ノ出廻ハ大體滇越鐵道毎日二百噸緬甸公路ノ  
人足數千人(自動車ノ「タイヤ」ヲ用ヒタル手押車ニ依  
ル)及廣西省内輸送力ニ待ツヘク又滇緬鐵道ハ路盤工事  
中ナルモ完成ニハ三年ヲ要スヘキ一方桐油ハ米國ノ獨占  
トナリ「ウルフラム」モ雲南產ノモノハ大體英國ノ一手  
引受トナリ居ルヲ以テ左シテ期待出來ス

三、蘇聯邦ノ對支借款說ハ現行ノ代金支拂方法ノ改善力關ノ  
山ナルヘク獨逸ノ改訂取極同様重慶カ大袈裟ナル宣傳ヲ  
爲シ居ルニ過キス

北京、上海、天津、青島ヘ轉電アリタシ

編 注 德華銀行青島支店支配人の Schöck と思われる。

1069  
昭和14年4月21日  
在上海三浦総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

# 独国と重慶政権とのバーター貿易協定成立の 報道に関するボイドの説明振り報告

上海 4月21日後発  
本省 4月21日夜着

## 第一〇四一號(極秘)

一兩日前來滬セル「ボイド」カ二十一日獨逸商務官室  
 「ウ」ハ二十日歸任セリ」ニ於テ島田ノ質問ニ對シナセル  
 内話左ノ通り(一部ハ香港發大臣宛電報第四五五號ト重  
 復スルモ御參考迄)

一、重慶政府トノ通商協定説ハ新聞紙カ誇大ニ且事實ヲ枉ケ  
 テ報道セルモノナルカ實際ハ舊「バーター」取極ノ改訂  
 ニアリ支那側ニ對スル軍需品ノ供給ハ一年前ヨリ積出禁  
 止セラレ居ル爲現在問題トナラス唯經濟開發資材即チ鐵  
 道材料、織物機械等ハ經濟部及交通部ニテ希望シ居レリ  
 但シ之ニ對シ支那側ヨリ輸出シ得ヘキ產物ハ其ノ高及運  
 輸ノ可能性如何ニ懸リ從テ「バーター」ノ金額ハ全然見  
 當付カサル譯ナリ又曩ニ新聞ニ傳ヘラレタル「ローファ  
 アー」ノ借款交渉説(昆明緬甸鐵道用狹軌「レール」ノ  
 賣込計畫ナリキ)ハ同人カ何等權能ヲ有セス交渉ハ凡テ  
 自分ヲ通シテ行ハレタルモノニテ問題トナラス

二、英國爲替基金ニ關シテハ本計畫カ英國銀行ノ擁護ニアル  
 ハ極メテ明瞭ナルカ最近香上カ上海ニテ合計百萬磅ノ爲  
 替賣ヲナセシ趣ナルモ確カナル筋ノ話ニ依レハ右ノ額ハ

(欄外記入)

既ニ買戻シタリトノコトナリ現在支那内地ニハ「インフ  
 レ」氣配ナク物資ノ動キ縮少シ居レル爲政府銀行ノ紙幣  
 増發ノ必要ハナキモノノ如シ云々

「ボイド」ハ茲數日當地ニ滞在スル豫定ニテ其ノ間更ニ北  
 支貿易管理ニ付テモ意見ノ交換ヲナシタキ旨申シ居タリ  
 尙「ウ」カ別ニ語ル所ニ依レハ右「ボイド」ノ取極ハ獨逸  
 政府ノ承認ヲ得テ始メテ有效トナルモノナル趣ナリ  
 北京、天津、青島、香港へ轉電セリ

1070

昭和14年6月15日

陸軍が省部決定した「事變處理上第三國ノ活  
 動及權益ニ對スル措置要領」

昭和十四年六月十五日  
 省 部 決 定

事變處理上第三國ノ活動及權益ニ對スル措置要領

## 第一 要 旨

一、支那ニ於ケル第三國ノ活動及權益ノ處理ニ關シテハ第三  
 國ヲシテ援蔣態度ヲ放棄シ我事變處理ニ順應同調セシム

ルヲ以テ方針トナス

之カ爲政戰、兩略指導ノ見地ヨリ之ヲ措置シ特ニ其ノ重要ナルモノニ關シテハ第三國操縱ノタメ事變處理大局ノ立場ヨリ運用スルモノトシ局地末節ノ係争ハ之ヲ避ク

## 第二 要 領

二、事變間戦争及作戦遂行上第三國ノ活動及權益ヲ制限スルノ必要アル事項ニ關シテハ其ノ目的並範圍程度ヲ明確ニシ之ヲ行フ而シテ戦争行爲ニ伴フ特異ノ要求ニ關シテハ要スレハ其ノ一時的措置タルコトヲ明ニシ第三國ヲシテ承服セシム

右拘束ハ事變ノ長期ナルニ伴ヒ殊ニ該權益カ敵ヲ利スルニ從ヒ之カ強化ヲ要スルモノトシ其ノ實行及對策ヲ準備シ情勢ニ鑑ミ所要ニ應シ逐次實施ス

三、租界長江等重要ナル問題ニ關シテハ之ヲ大局ノ政略手段ニ取扱ヒ第三國ノ操縱ニ資スルモノトシ對日轉向乃至事變解決等ノ機略ニ運用ス

右目的達成ノタメニハ第三國ヲシテ此等利權一切ノ喪失カ復活カノ豫想乃至現實ニ立タシムルヲ要スルモノトシ機ヲ捉ヘテ之ヲ施策ス

以上ノ爲特ニ政略施策ノ一致ヲ必要トナシ所要ノ準備ヲ整フルト共ニ之カ實行ニ方リテハ其ノ目的限度ヲ明確ニシ之ヲ指導ス

四、租界ニ關シテハ戦争遂行上治安ノ維持、軍隊ノ生存及戦争自給圈ノ確保等ノ見地ヨリ要スレハ封鎖、直接手入等所要ノ措置ヲ講シ又眞ニ已ムヲ得サル場合軍事占領ヲモ行フコトアリ

五、長江、珠江等内河ニ於ケル航權及商權ニ關シテハ戦争遂行上所要ノ期間現封鎖ヲ繼續スルノ外要スレハ更ニ封鎖程度ノ強化乃至封鎖範圍ノ擴大ヲモ行フコトアリ特ニ之カ解放ハ大局ノ政略手段ニ用フルモノトス

六、第三國ノ對日轉向具現セハ戦争遂行上支障無キ限り逐次其ノ活動及權益ノ復活ヲ認ムヘク又事變解決ニ方リテハ我國防及我國家存立上已ムヲ得サルモノノ外一應概ネ之カ舊狀復活ヲ認メ以テ事變處理ヲ容易ナラシムルコトヲ方針トナス

事變中措置セラレタル我既成事實並事變解決ニ伴ヒ日支新關係ニ依リ具現セラルヘキ事實等ト第三國既存權益トノ關係ヲ調整スルニ方リテハ一般ニ今次戦争ノ目的並限

度ニ即シ且事變處理ノ難易等ヲモ考慮シテ措置スルモノ  
トシ北支ニ在リテハ帝國ノ優位ヲ中支ニ在リテハ自他併  
存ヲ又南支ニ在リテハ第三國ヲ拘束セサルノ趣旨ニ則リ  
施策ス

事變中設定セラレタル第三國新權益、第三國へ讓渡ノ形  
式ヲ取りタル偽裝權益、事變ノタメ毀損セラレタル第三  
國權益等ニ對シテハ事ノ性質ニ鑑ミ本措置要領ニ準據シ  
テ處理ス

七、我ニ對スル列國ノ共同動作ヲ避クル如ク施策スルト共ニ  
政略運用ニ資スルタメ我ト同調スルモノニ對シテハ優先  
便宜ヲ許容シ既存權益ヲ認ムルノミナラス新權益ノ附與  
等之力善導ノタメ廣範圍ノ措置ヲ考慮ス

八、現地ニ於ケル具體的措置ハ禍根ヲ究明シ目標ヲ確認限定  
シテ施策スヘク末節ニ係爭スルコトナシ

一般ニ局地的各種懸案事項ニ就テハ著々解決處理スルヲ  
以テ本旨トナス

九、本問題ニ關スル措置ハ其ノ性質ニ應シ成ルヘク支那側ヲ  
内面指導シ表面之ヲシテ第三國ニ當ラシムルモノトス

(欄外記入)

昭和十四、六、二二、陸軍永井中佐ヨリ

~~~~~

1071 昭和14年6月18日 在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

新中央政權樹立問題や天津租界問題に関する
駐華仏国大使の重慶での記者談話について

上海 6月18日後発
本省 6月18日夜着

第一六六六號

十七日重慶發UP電ニ依レハ「コスム」佛大使ハ同社記者
ニ對シ日本側ノ天津租界封鎖ト提出條件ハ一般ノ豫想スル
カ如ク苛酷ナルモノニ非サルカ慎重之ニ處セサレハ將來ニ
惡例ヲ貽シ日本側ニ利用セラルル惧アリ尤モ租界内ニ於ケ
ル「テロ」分子ノ處分ヲ支那側或ハ新政權側ノ何レニ委ヌ
ルモ其ノ裁斷ニ自ラ輕重ノ差アルヘク反日分子取締ノ如キ
ハ彼等ニ對シ嚴罰主義ヲ以テ臨ムコトヲ徹底セシムルニ非
レハ其ノ實效ヲ期待シ得サル次第二モアリ英米佛等ノ第三
國ハ時勢ノ要求ニ基キ正義ヲ確保シ租界ノ中立的地位ヲ充

分保障シ得ルカ如キ妥當ナル使法^(使方)ヲ案出スル要アリ此ノ意味ニ於テ余ハ一種ノ國際的法廷設立ノ要アルヲ認ムルト前提シ現下ノ困難ハ逐次解決シ得ル自信アルモ日本側ハ從來^(欄外記入)自國ニ不利ナル案件ニ對シテハ互讓の精神ヲ以テ討論スルコトヲ好マスト皮肉リ最後ニ日本ノ希望スル所ハ和平ト親善ノ樹立ニ在リテ汪精衛ヲ北支政府ノ首班ニ擔キ舉ケ支那ヲ重慶政府ト北京ノ支配下ニ二分シ其ノ新政府ニハ中支及南支共包括スル模様ナルカ支那人間ノ反日感情濃厚ナル今日日本カ克ク廣東及北支間ノ土地及人民ノ征服ニ成功スルモノトハ信セス汪ニ關スル日本側ノ宣傳ハ專ラ上海ノ銀行金融業者ヲ對象ニ置キ彼等ヲシテ抗戰繼續ノ無意味ナルコトヲ悟ラシメ且支那側資本ヲ占領地區開發ノ爲誘導スルニ在ルモ如何ニ宣傳スルモ支那人間ニ瀾漫セル抗日感情ヲ緩和スルコトハ難事ナリト語りタル趣ナリ

北京、天津、南京、漢口、厦門、香港へ轉電セリ

(欄外記入)

注意ヲ喚起スル要アリ

1072

昭和14年7月17日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

蔣政權内での国共合作深化を英国が歓迎しない
ため国共間の摩擦が激化しているとの情報報告

上海 7月17日後発

本省 7月17日夜着

第一九九九號

十五日J K情報

一、國共ノ摩擦益々甚タシキ處最近ノ諸事實左ノ通り

(一)六月初旬延安附近ニ於テ中央軍ノ一部ハ陝西省保安隊ニ假裝シ第八路軍ノ防地ニ進攻シ五日間ニ亘リ兩者間ニ戰鬪交ヘラレタルコトアリ右ハ毛澤東ヨリ蔣介石ニ電報抗議ノ結果蔣ノ命令ニ依リ戰鬪停止セラレタル經緯アル處共產黨側ニテハ右ハ内實ハ蔣ノ計畫の行動ト見居ル趣ニテ蔣ハ曾テ康澤^{コウザク}ノ別働隊及胡宗南ノ幹部訓練團ニ密命ヲ下シ共產黨ノ統制下ニ在ル邊區ノ周圍ニ政治的緩衝地帶ヲ作り共產黨勢力ノ擴大阻止方ヲ命シ其ノ結果別働隊及幹部訓練團員ニシテ邊區附近ノ郷長又ハ保甲長ニ任命セラレ居ルモノ多數アル由

(二)右ノ外蔣介石軍ノ八路軍ノ傷兵病院襲撃、邊區政府任命ノ縣長及抗日大學生ノ拘禁逮捕新四軍幹部人員ノ暗殺、生活書店、シンチ書店等共產黨關係五書店ノ閉鎖、新華日報繼續出版ノ阻止(本件ハ目下國共間ニ交渉中)等諸事實(其ノ他吳鐵城ノ香港國民日報ニ對シ蔣ヨリ反共產、反蘇聯邦ヲ目標トスヘキ密令アリタル由)モアリ

毛澤東ハ最近周恩來ヲ延安ニ召喚シ七月四、五、六ノ三日ニ亘リ重要祕密會議開催セラレ此ノ種各般情勢ニ對シ共產黨トシテ執ルヘキ態度ニ付討論シタルカ其ノ際毛ヲ始メ王明等何レモ蔣ニ對シ強硬ナル態度ヲ以テ臨ム要アル旨主張シタル趣ナリ

三、此ノ種國共間ノ摩擦ハ最近英國カ蔣政權ノ國共合作ニ深入リスルヲ喜ハザルコトニモ關係アリ即チ英國側ハ「カー」大使前回赴渝蔣ニ會見ノ際「カー」ヲシテ蔣ニ對シ(一)支那側ニハ對日抗戰ヲ此ノ上繼續シ得ル自信アリヤ(二)支那ノ赤化防止問題ニ對シ充分ノ成算アリヤト質問セシメタルカ前者ニ對シ蔣ハ英國側カ援助ヲ強化繼續セラルルニ於テハ勿論可能ナル旨後者ニ對シテハ自信アリト答

ヘタル趣ナルカ(大使ハ其ノ後共產黨ノ重慶代表タル秦邦憲(博古)ト會見國共摩擦ノ存在ノ有無ヲ質問シタルニ對シ秦ハ國共關係ノ現狀ハ極メテ惡シト蔣ノ「カー」ニ對スル答辨ヲ裏書スル如キ返答ヲ爲シタル由ニテ「カー」ハ右ヲ本國政府ニ報告シタル事實アリ)

(3)一方又「カー」ヲシテ新疆盛世才カ蘇聯邦ト勾結シ南疆(元來英國ノ勢力權内)ニ於ケル英國權益壓迫ノ舉ニ出テ居ルニ對シ種々ノ證據ヲ蒐集外交部ニ對シ抗議ヲ提出セシムル等重慶側ノ對共產黨態度ニ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居ル事實アリ自然英國ノ援助ヲ期待スル蔣トシテハ英國ニ對シ赤化防止ノ「デエスチュアー」ヲ示シ居ルモノトモ見ラル

三、尙英國側ニ於テハ前項南疆問題モアリ新疆ニ於ケル左傾政權ノ發展ニハ非常ナル關心ヲ拂ヒ居リ最近「カー」ハ側近ノ祕書唐納ヲ同方面視察ニ派遣シタル外近ク又「エドガースノー」(目下香港ニ在リ)ヲモ特派シ實情ノ視察ヲ爲サシムル豫定アル趣ナルカ此ノ種英國側ノ對重慶態度ハ最近ノ英蘇交渉ニモ機微ナル影響ヲ與ヘ居ルト見ラルル外重慶側ノ英國ニ對スル氣兼ヨリシテ共產黨員ヲ故

意ノ壓迫ノ結果ハ近來莫斯科トノ關係ニ惡影響ヲ與ヘ居ルモノニ付曩ニ交替ヲ理由ニ召還セル多數蘇聯邦軍事顧問ノ後任モ其ノ後來任セルモノ極メテ少ク(岩井執筆「重慶抗日政權ノ現狀ニ付テ」ノハ御參照)飛行機武器ノ供給亦非常ニ減少シ居ル事實アリ

香港ヘ轉電セリ

1073

昭和14年7月18日
在独国外務大臣宛(電報)

独国の対中武器輸出に関する情報につき十分

注意あるよう在欧各公館へ要請について

ベルリン 7月18日後発
本省 7月19日前着

第(脱)號

本使發英佛其ノ他宛電報

合第一號

獨逸ノ經濟省其ノ他實業界方面カ對支輸出貿易ニ未練ヲ有シトモスレハ戰前ノ對支貿易ト現在ノ夫レトヲ比較シテ不滿ノ意ヲ表シ又獨逸トシテ從來重要ナル原料ヲ支那ヨリ輸

入シ居リタル關係モアリ最近ニ於テモ種々妄動スルモノアル模様ニテ當大使館トシテハ政治上殊ニ軍事上支那援助トナルカ如キ性質ノ取引ニ付テハ嚴ニ外務省及黨首腦部等ニ注意ヲ促シ來リタル次第ナリ之ニ對シ獨逸側ハ客年對支武器輸出ノ禁止ヲ確約シタル外本年三月以降ハ舊致國領ニテ製造セラルル武器ノ對支輸出禁止ヲ勵行シツツアル旨ヲ言明スルト共ニ第三國名義其ノ他ニ依ル獨逸武器ノ支那流入ニ關スル情報入手ノ場合ハ通知アリタキ旨ヲ申入レ同次官ヨリ斯ル場合ハ當大使館ヲ通シ通報スヘキ旨ヲ回答アリタル次第ナリ

本件ニ關シテハ日獨間阻害ノ目的ヲ以テスル宣傳ノ情報モ鮮カラサル様認メラルルモ第三國經由ノ輸出等ニ付テハ充分注意ノ要アリ當方ニ於テモ獨逸側ト密接ニ聯絡シツツアルニ付各種情報入手ノ場合ハ可成具體的ニ詳細御電報相成度シ

本電宛先 英、佛、伊、白、蘭、瑞西、瑞典、米大臣ヘ轉電セリ

編 注 本電報は電報番号不明。

1074

昭和14年9月2日

在上海三浦総領事より
阿部外務大臣宛(電報)

欧州戦争勃発の場合における交戦国軍隊の撤

退・武装解除に関し具体的処理方針を現地三

省首脳者会議で決定について

上海 9月2日後発

本省 9月2日夜着

第二四八七號(大至急、極秘)

往電第二四八六號現地三省首脳者會議ニ於テ交戦國警備軍

ノ撤退及武装解除ニ關スル具體的處理ニ關シ海軍側ノ提案

ニ基キ左ノ通り決定ヲ見タリ

一、交戦國ニ對スル申入

(イ)陸海軍最高指揮官ノ名ヲ以テ警備軍指揮官ニ對シ夫々

其ノ警備軍ノ撤退又ハ武装解除ニ關スル申入ヲ行ヒ之

ニ應セサレハ武力ヲ以テ強要スルコトアルヲ仄カスモ

ノトス右ト竝行シテ外交機關ヲ通シテ同趣旨ノ通報ヲ

爲スモノトス而シテ右ニ依ル警備軍ノ撤退後ノ警備ハ

日本側ニ於テ之ヲ行フコトヲ附言ス

(ロ)米國外交機關及警備軍ニ對シテハ本件ニ關シ通報スル

モノトス此ノ場合警備軍撤退後ノ警備ノ交渉ニ關シテ
ハ要スレハ共同防備計畫變更ノ要領ニ依リ協議ノ形式
ヲ執ルコトアリ

二、外國警備軍撤退後ノ陸海軍警備分擔

(イ)上海

海軍

伊軍警備區域

英軍共同租界警備區域

陸軍

滬西英軍警備區域

佛國租界

(ロ)漢口

海軍

佛國租界

三、⁽²⁾交戦國軍隊カ素直ニ撤退セサル場合

武装解除ノ方法

(A)上海

(一)分擔

陸軍ハ滬西地區ノ英軍及佛國租界ノ佛軍ノ武装解除

竝ニ佛租界義勇軍ノ解散ヲ分擔ス

海軍ハ伊軍及共同租界ノ英軍ノ武裝解除ヲ分擔ス

(二)準備工作

(イ)英佛軍警備區域周圍及工場ニ兵力ヲ集中増加シ脅迫ス

(ロ)伊軍警備區域内ニ海軍陸戰隊員ヲ増員ス

(ハ)英軍滬西地區内ニ補助憲兵ノ名ヲ以テ兵力ヲ増員

シ伊軍内ノ我兵力ト相俟テ英軍ヲ更ニ壓迫ス

(三)實施要領

(イ)交戰國軍隊ハ各々其ノ武裝ヲ提出セシメ我軍ハ之

ヲ保管ス

(ロ)人員ハ兵舎ニ居住セシメ外出ハ一定ノ制限ノ下ニ

許可ス

(ハ)此ノ際交渉ニ應セサルトキハ「中立國ノ義務遂

行」ヲ名トシ脅威的ニ交渉ヲ進ムルト共ニ兵力ヲ

更ニ集中脅威シ最後ハ兵力行使ヲ考慮シ置クモノ

トス

(ニ)共同租界ノ英軍警備區域及佛租界ノ警備ヲ米軍カ

繼承セサル如ク特別ノ注意ヲ拂フヲ要ス

(ホ)共同租界及佛租界各工部局警察竝ニ共同租界義勇

軍ハ我軍ニ密接ニ聯絡シ中立ヲ堅持セシメ且其ノ

編成、配備、武器武裝等ノ狀態ヲ明瞭ニセシム

(B)漢口

海軍主トシテ右ニ準シ行ヒ要スレハ陸軍之ニ協力ス

北京、天津、南京、漢口、厦門、廣東、香港へ轉電セリ



1075
昭和14年9月5日

在中国英国軍隊撤退を勧告するわが方覚書

付記 昭和十四年九月八日

阿部外務大臣・在本邦クレギー英国大使会

談録

覺

今次歐洲ニ於ケル戰爭ノ勃發ニ際シ帝國政府ハ之ニ介入セ
ス支那事變ノ處理ニ邁進センコトヲ期スルモノナリ仍テ列
國ノ支那事變ニ對スル態度乃至動向ニ付重大ナル關心ヲ有
スル帝國政府トシテハ英國政府ニ於テ右帝國政府ノ意圖ヲ
了解シ支那事變ニ關シ帝國ノ立場ヲ不利ナラシムルカ如キ

一切ノ措置ヲ執ラレサランコトヲ要請スルモノナリ

更ニ支那ニ於ケル帝國軍ノ勢力下ニ在ル地方ニ於テ歐洲戰
争ニ關與セル交戰國ノ軍隊及艦艇カ存在スルコトハ不慮ノ
事端ヲ誘發シテ帝國ノ意圖スル不介入方針ト反スルノ事態
ヲ惹起スルノ虞アルニ依リ帝國政府ハ前記地方ニ於ケル交
戰國ノ軍隊及艦艇カ自發的ニ撤退ヲ行ハレンコトヲ友誼的
ニ勸告スルノ必要ヲ認ムルモノナリ尙右ニ關シ交戰國ノ軍
隊及艦艇ノ撤退ヲ見タル上ハ交戰國ノ在留民及其ノ財産ノ
保護ニ付テハ帝國軍ニ於テ最善ノ努力ヲ拂フノ用意アルモ
ノナルコトヲ附言ス

編注一 本文書は、昭和十四年九月五日、沢田外務次官より在

本邦クレーギー英國大使へ通告された。

二 本文書は、東京大学近代日本法政史料センター原資料

部所蔵「阿部信行関係文書」より採録。

(付記)

阿部大臣在京英國大使接見會談

昭十四、九、八、午前六〇〇
同 九、五〇
於 外 務 大 臣 官 邸

先ツ大臣ヨリ就任ノ挨拶ヲ述ヘラレ之ニ付型ノ如キ應酬ア
リ「クレーギー」大使ヨリ別紙^(付録)「ハリファックス」外相ヨ
リノ傳言ヲ傳ヘ之ニ對シ大臣ヨリ謝意轉達アリ度旨述ヘラ
ル

次テ「クレーギー」大使ヨリ此ノ歴史上ノ重大時期ニ當リ
新内閣ヲ率ヒ國政ヲ變理セラルルニハ種々ノ御困難アルヘ
シト恐察ス英國トシテハ今次歐洲戰爭ニ當リ自己ノ正シキ
ヲ信ス且其ノ兵力カ勝利ヲ收ムヘキコトヲ確信スルモノナ
リ此ノ時期ニ當リ日本トノ親善増進ヲ圖ランコトヲ特ニ希
望スト述フ

仍テ大臣ヨリ政府ハ何レノ國タルヲ問ハスソレトノ國交親
善ヲ希望スルモノナリ但シソレニハ東亞ニ於ケル日本ノ地
位ヲ諒解セラルルコトヲ要スル旨ヲ以テ應酬セラル^(中略)

英國大使

先日澤田次官ヨリ戴キタル通報ニ對シテハ失望ヲ感シ且
關心ヲ持タサルヲ得ス

右通報ノ第一段ニ付テハ大体異議ナシ何トナレハ英國トシテハ去ル七月二十二日天津問題ニ關スル一般原則ノ承認ニ依リ思切ツタ所迄行キタルヲ以テナリ然レトモ第二段即チ軍隊及軍艦ノ撤退ハ「テンタティブ」ニ友誼的ノ勸告ヲセラルル形トナリ居ルモ事重大ナリ極メテ卒直ニ申上クレハ右通報ヲ受ケタル本使ノ印象ハ日本カ歐洲戰爭ノ爲一時的困難ヲ感シ居ル英國ニ附込ミタリ而シテ日本ノ言フ所ハ不當(unjustifiable)ナリト云フニアリ本國政府ヨリハ未タ何等申越シ居ラサルモ恐ラク同様ノ印象ヲ受ケタルナルヘシ

阿部大臣

政府ハ歐洲戰爭勃發ニ際シ不介入ノ方針ヲ定メ過般ノ聲明ヲ以テ之ヲ國民ニ明ニシタル次第ナルカ政府ハ歐洲ニ於テ交戦スル何レノ國ノ味方トナリ何レノ國ノ敵トナルカ如キコトヲ欲セス

右方針ハ之ヲ擴充シテ支那ニ於テモ維持シ度本件申入モ歐洲交戦國トノ間ニ無用ノ摩擦トナルヘキ一切ノ原因ヲ除去スル趣旨ニ出テタルモノナリ貴大使乃至貴國政府カ仰セノ如キ印象ヲ受ケタリトセハ遺憾ナリ今回ノ措置ハ

凡テ前記不介入ノ根本的觀念ヨリ發足スルモノニシテ一切ノ無用ノ摩擦トナルヘキ原因ヲ除去スル以外他意ナク英國側ノ立場モ考ヘ友誼的ニ勸告シタルモノナリ

英國大使

本使ハ日英國交ノ改善ニ當リテハ最初ヨリ餘リ欲張ラス著實ニ行フコト肝要ナリト存ス轉バヌ前キノ杖ト云フコトアリ日英間ニ横ハル困難ニ付テハ其ノ一ツ一ツヲ片付ケ行クコト途ヲ開ク爲ノ方法ナルヘク丈夫ナ建物ヲ造ルニハ急クヘカラサルコトヲ信スルモノナリ

阿部大臣

御同感ナリ唯兩國ノ國交ヲ調整スル爲ニハ我國ノ東亞ニ於ケル地位ヲ十分認識セラルル要アルヘシ之ヲ前提トスル限り本大臣ハ兩國々交調整ヲ十二分ニ考慮スル用意アリ

編 注 本會談録中の天津英租界問題に関する部分は、昭和十

四年九月八日發阿部外務大臣ヨリ在天津田代總領事宛電報第三四〇号(本書第1603文書)と内容が重複するため

中略とした。

~~~~~

1076

昭和14年9月5日  
在北京堀内大使館參事官より  
阿部外務大臣宛(電報)

欧州戦争交戦国への軍隊撤退勧告は慎重に行  
うべきとの観点で軍側を誘導し北京三省関係

者間に対応方針案作成について

別電 昭和十四年九月五日発在北京堀内大使館參事

官より阿部外務大臣宛第一〇〇九号

右方針案

北京 9月5日後発

本省 9月5日後着

第一〇〇八號

<sup>(1)</sup>上海發貴大臣宛電報第二四八四號ニ關シ

四日當地軍司令部ニ於テ陸、海、外關係官(當館ヨリ門脇  
出席)集合上海發閣下宛電報第二四八五號ノ(一)ニ付討議セ  
ル處其ノ際當方トシテハ交戰國軍隊等ノ撤退ヲ要求スルコ  
ト自體ニハ反對スル譯ニアラサルモ(イ)支那カ中立國タル場  
合(交戰國軍艦ノ撤退要求ハ別トシ)條約上駐兵權ヲ有スル  
英佛等ニ對シ中立法規ヲ理由ニ軍隊ノ撤退又ハ武裝解除ヲ  
要求スルノ權利アリヤ多少疑問アリ右ハ肯定的ニ理論付ケ

ルコト勿論可能ナルヘキモ一應此ノ點理論竝ニ先例ニ就キ  
研究ノ要アルコト(日本軍占領地域ハ支那ノ中立關係ト離  
レ日本ノ支配下ノ地域トシテ日本カ中立ヲ守ル建前ヨリ日  
本ノ名ニ於テ中立義務ノ履行上軍隊ノ撤退ヲ要求スル權利  
アリトノ解釋モアルヘケンモ其ノ際ト雖モ直ニ第三國ノ駐  
兵權ヲ否定シ得ルヤ否ヤ)

(ロ)交戰國軍隊ノ撤退等ヲ要求スル權利アリトスルモ其ノ時  
期ニ關シテハ慎重考慮ノ要アリ歐洲戦争ノ長期繼續ヲ希望  
スル日本トシテハ歐洲ノ事態ノ推移如何ニ依リ殊ニ伊太利  
ノ態度及米國ノ動向、獨蘇軍事協定ノ内容等今暫ク見極メ  
タル上諸方策ヲ決定スル要アリ今直ニ英佛軍隊及軍艦ノ撤  
退乃至武裝解除ヲ要求スルハ時期尙早ト思考スルコト且別  
電ノ二ノ如キ勸告ハ中立宣言ト關係ナク行ヒ得ル筋合ナル  
カ其ノ時期ニ關シテモ充分考慮ヲ要スルコト(ハ)假ニ交戰國  
軍隊カ撤退セリトスルモ其ノ後ノ交戰國殊ニ英佛ノ租界其  
ノ他ノ權益處理ニ關シテハ飽迄慎重ニ特ニ其ノ處置振ノ米  
國ニ及ホス影響ヲ考慮シテ實行ノ要アリ過激ナル措置ニハ  
俄ニ贊成シ難キコト等ヲ主張シ置キタルカ結局軍側ニテ上  
海ノ現地案ヨリハ餘程餘裕ヲ取リ一應別電第一〇〇九號ノ

「歐洲戰爭勃發ニ即應スル交戰國軍處理要綱」ヲ作成セリ  
本案ハ上海案ニ比シ穩和ナルモ右ニ對シテモ當方トシテハ  
前記(イ)(ロ)ノ諸點ヲ留保シ置ケリ尙前記(イ)ニ關スル本省ノ  
見解折返シ御回電相成度シ

(本件陸海軍ヨリモ夫々中央ニ進達ノ筈ナリシカ陸軍側ニ  
テハ其ノ後中央ニテ何等決定ヲ見タル趣ヲ以テ本件進達ヲ  
取止メタル由ナリ)

本電別電ト共ニ上海、天津、南京、漢口、廣東、厦門へ轉  
電セリ

### (別電)

北京 9月5日後発  
本省 9月5日後着

### 第一〇〇九號(極秘)

方針

歐洲戰爭勃發ニ即應シ支那事變處理ヲ促進スル爲交戰國警  
備軍竝ニ軍艦ハ之ヲ撤退スル如ク誘導シ要アレハ之カ武裝  
ヲ解除セシム

一、帝國政府中立ヲ宣言シタル場合ハ現地軍ハ其ノ旨布告シ

且臨時政府ヲシテ中立ヲ宣言セシム

帝國政府中立ヲ宣言セサル場合ト雖各國軍隊ノ存在スル  
北支ノ現狀ニ鑑ミ現地軍ハ治安維持ノ必要上中立態度ヲ  
執ルヘキ旨闡明スルト共ニ臨時政府ヲシテ所要ノ措置ヲ  
執ラシム

二、現地軍ニ於テ交戰國軍隊ニ對シ左ノ勸告ヲ行フ

(イ) 現地ノ治安維持ノ必要上右中立法規ニ基キ各交戰國軍  
隊ハ速ニ適當ナル處置ヲ執ルヘキコト

(ロ) 之カ爲先ツ各交戰國軍隊ハ不測ノ事變ヲ惹起セサル如  
ク措置スルト共ニ山海關、秦皇島及塘沽等ニ在ル部隊  
ハ自國領土又ハ差當リ天津租界等ニ引揚クルコト

三、現地交戰國軍隊間ニ武力衝突ヲ惹起セル場合乃至其ノ間  
ノ形勢逼迫セル場合ハ直ニ交戰國軍隊ヲ退散セシメ又ハ  
武裝解除ヲ行フ

右ノ他狀況ニ依リ實力ヲ行使シテ交戰國軍隊ヲ撤退セシメ  
又ハ武裝解除ヲ行フ

但シ此ノ場合ハ中央ノ指令ニ依リ發動ス

1077

昭和14年9月5日  
在上海三浦総領事より  
阿部外務大臣宛(電報)

欧州戦争交戦国への軍隊撤退勧告は英仏両国の動向にも鑑み迅速かつ効果的に行うべきとの現地三省會議の意見について

上海 9月5日後発  
本省 9月5日夜着

第二五一九號(極秘)

貴電合第二一二二號ニ關シ(歐洲戦争勃發ニ際シ帝國ノ執ルヘキ態度竝ニ在支交戦國軍隊艦艇ニ關スル措置)

五日午前現地外、陸、海首脳部會議ヲ開催シ貴電合第二一二四號閣議決定ニ關シ研究シタル結果現地三省會議決定トシテ左ノ通り各中央ニ意見ヲ具申スルコトセリ

一、英佛軍ハ租界ノ警備ヲ米軍ニ譲リ又佛ハ佛租界ヲ米國ニ移讓セントスルノ企圖アルカ如キ情報アリ故ニ英佛軍ニ對スル撤退要求ハ成ルヘク速ニ之ヲ實現シ英米佛ノ間ニ於ケル既成事實ノ發生ヲ妨クルノ要アリ

二、交戦國軍隊ノ撤退又ハ武装解除ノ要求ハ單ナル申入ノミニテハ效果ナカルヘク其ノ申入後成ルヘク速ニ日本軍ヲ

1078

昭和14年9月7日  
在上海三浦総領事より  
阿部外務大臣宛(電報)

欧州戦争交戦國軍隊の中国撤退に關し現地における勧告実施および列國の反應振りについて

付記一 昭和十四年九月七日發電

「交戦國軍隊撤退問題ニ關スル訓令」

二 昭和十四年九月九日付在本邦英國大使館より

外務省宛口上書

進入セシメ其ノ警備ヲ繼承スル如ク措置セサレハ目的ヲ實現スルコト困難ナリト認ム但シ右進入ニ當リテハ英佛軍トノ衝突ヲ避クル如ク萬全ノ策ヲ講スルモノトス  
三、租界ヲ我管制下ニ置クコトハ當地ニ於ケル重慶政府ノ策動ヲ封シ事變ノ解決促進上效果甚大ナリト認メラルルニ付右見地ヨリスルモ此ノ際成ルヘク速ニ英佛軍ノ租界撤退ヲ要求スルヲ可ナリトス  
北京、天津、青島、南京、漢口、厦門、廣東、香港へ轉電セリ  
英、米、獨、佛、伊へ轉電アリタシ

中国各地でのわが方撤退勧告に対する注意喚起

上海 9月7日前発  
本省 9月7日夜着

第二五四二號(至急、極秘)

貴電合第二一三七號ニ關シ(歐洲戰爭勃發ニ際シ帝國ノ執  
ルヘキ態度竝ニ在支交戰國軍隊艦艇ニ關スル措置)

六日午後本官ニ於テ御訓令ノ執行ヲ了シタリ先方ノ應待振  
左ノ通り

一、英國總領事「フイリツプス」ハ我方ヨリ本件申入ハ極メ  
テ友誼的精神ヨリ爲サレタルモノナルコトヲ附言セルニ  
對シ之ヲ首肯シ右ハ本申入ノ書振ヨリ見テモ充分之ヲ認  
識シ得ル所ナルモ何分重大ナル問題ナルニ付早速上司ニ  
報告スヘシト申上タル以外此ノ場ニテ何等ノ「コメン  
ト」ヲ加ヘ得サルニ付此ノ點ハ了解アリタシト述ヘタリ  
二、佛國總領事「ボーデーズ」ハ前記同様ノ本官ノ附言ニ對  
シ充分之ヲ首肯スルノ態度ヲ示シ且早速上司ニ報告スヘ  
シト述ヘタル後本件日本側申入ニハ時間的制限アリヤト  
質問シタルニ付本官ヨリ右ハ友好的精神ヨリ爲サレタル

モノナルニ付佛國側ニ於テ自發的ニ善處セラレンコトヲ  
希望スルモノナリト説明シ置ケリ

三、獨逸總領事「フイツシャー」ハ本官ノ説明ヲ聞キ終リタ

ル<sup>(三字不明)</sup>獨逸側ニ大ナル利益(ビネフイット)ナリトテ

左ノ通り語レリ

獨逸ハ支那ニ於テ治外法權ヲ有セサル關係上英國ノ如ク  
〔四字不明〕律及法廷ニ依リ自國民ヲ保護シ得サル點ニ於テ

大ナル不利益ナル地位ニ在ル次第ニシテ差當リ獨逸トシ  
テハ英國ノ如ク對敵通商禁止令ヲ發布シ得サルノミナラ

ス

係爭事件ニ關シテハ到底信賴シ得サル特區法院ニ救済ヲ  
求ムルノ外ナキモノナリ然ルニ日本側申出ノ末段交戰國  
ノ在留民及其ノ財産ノ保護ニ關スル日本軍ノ保障ニ付テ  
ハ獨逸側ニモ當然適用セラルルモノト認メラレ且又一九  
一四年ノ當時ト事情ヲ異ニシ英國力共同租界ノ主人公タ  
ルカ如キ地位ヲ取り得サルモノナル點ニ於テ獨逸側ノ不  
利益ハ著シク輕減セラルヘシ(交戰國ノ在留民及其ノ財  
産ノ保護ハ如何ナル方法ニテ實施セラルルヤト尋ネタル  
ニ付本官ヨリ本件申入ハ友誼的精神ヨリ爲サレタルモノ

ナルニ付差當リ英佛兩國ノ出方ヲ見ル必要アル旨答ヘ置キタリ)

四、米國總領事「ゴース」ハ本件申出寫ヲ讀ミ終リタル後日本ハ既ニ中立ノ宣言ヲ爲シタリヤト尋ネタルニ付本官ヨリ中立の態度ヲ執ルヘキヲ明カニシタルモ國際法上ノ嚴正ナル意味ニ於ケル中立ノ宣言ハ未タ發出シ居ラサルモノト了解スル處貴總領事ハ日本トシテ之ヲ必要トストノ意見ナリヤト推問シタルニ「ゴース」ハ之ニ對シ必スシモ必要ナリト言フ次第ニアラスト語ヲ濁シタル後一九一四年世界大戰勃發當時ハ上海ニ各國ノ駐屯軍ナク又日英佛軍艦ハ支那ノ中立宣言ト同時ニ支那領水ヨリ退去シ又米國軍艦モ參戰ト同時ニ退去シタル處(支那ノ參戰後ハ然ラサルコト勿論ナリ)

目下日支兩國ハ紛爭(「コントロバシー」)中ノ次第ニモアリ問題ハ非常ニ「コンプリケート」シ居レリト獨語シ最後ニ英佛兩總領事共本件申入ニ對シ何等「コンメント」セサリシナルヘシト自問自答シテ話題ヲ他ニ轉シタリ

五、伊太利總領事代理「ブリジデー」(漢口領事ニシテ「ネ

ロウネ」ノ不在中代理ス)ハ本件申入ハ誠ニ結構ナルカ日本トシテハ今次戰爭ニ依リ日支事變解決ヲ促進スルコトヲ得大ナル利益ヲ受クヘシト語り尙全然個人ノ意見ナリト前置シテ伊太利トシテハ西班牙ノ内亂ニ於テ二萬五千ノ戰死者ヲ出シテ後間モナク再ヒ大戰爭ニ參加スルコトハ相當困難アルノミナラス西班牙ニ於テ仇敵トシタル蘇聯ト味方トナリテ戰フハ國民的感情上極メテ困難ナリ又伊太利ハ獨逸ヨリ豫メ獨蘇不可侵條約締結ニ關シ内報ヲ受ケサルニハアラサリシモ蓋ヲ開キ見レハ單純ナル不可侵條約タルニ止マラス之ヨリモ一層進ミタル軍事同盟ニ近キモノタルヲ發見シタル時伊太利ノ獨逸ニ對スル從來ノ義理合ハ終了シタルモノト思考セラルル旨内話セリ北京、天津、青島、漢口、南京、厦門、廣東、香港ニ轉電セリ

(付記一)

交戰國軍隊撤退問題ニ關スル訓令

往電合第二一四六號ニ關シ

「今次本件閣議決定ノ重點ハ現地ニ於ケル措置ヲ段階的ニ

行フ點ニアリ而シテ目下ノ所ハ懇談の交渉ノ段階ニアルモノニシテ其ノ目的トスル所ハ交戰國軍隊ノ撤退ヲ懇談の折衝ニ依リ自發的措置トシテ實現セシメ之ト共ニ我軍ノ進駐ニ付テモ等シク彼我納得付クニテ實行ヲ期セントスルニアリ政府ニ於テハ右目的ヲ出來得ル限り交渉段階ニ於テ達成セシメ度キ希望ヲ有スルモノニシテ之カ達成ノ方法ハ何處迄モ正々堂々タル主張ニ基キ火事泥の態度ニ墮スルコトナク公平ナル第三者ヲシテ十分同感ヲ表スルヲ得ルカ如キ理由ヲ示シテ先方ヲ説得シ所期ノ結果ニ到達致度キ所存ナリ

二、而シテ右撤退勸告ノ理由トシテ先方ニ對シ主張シ得ヘキ點ハ大体左ノ如キ筋ニ據リ得ヘシト思考ス

(甲)帝國ハ在支帝國軍ト交戰國軍トノ間ニ不慮ノ事端ヲ誘發スルノ實際上ノ危險ヲ除去シ以テ帝國ノ意圖スル歐洲戰爭不介入ノ方針ト反スルカ如キ事態ノ發生ヲ防止スルノ必要ヲ認ムルコト

(イ)在支帝國軍ノ勢力下ニ在ル地方ニ於テ歐洲戰爭勃發ニ依リ興奮セル交戰國軍力對支戰爭ニ緊張セル帝國軍ト共。在スルコトハ其レ自体不測ノ事端ヲ惹起スル

ノ原因ヲ爲スモノナルコト

(ロ)歐洲戰爭勃發前ニアリテハ假令在支帝國軍ト第三國軍トノ間ニ衝突ヲ惹起スルコトアルモ之ヲ「ローカライズ」スルノ可能性大ナリシモ歐洲戰爭勃發後ノ今日ニ至リテハ僅シ萬一右ノ如キ衝突カ帝國軍ト交戰國軍トノ間ニ發生スルカ如キコトアラハ問題ハ重大化シテ帝國ノ不介入方針ト反スルカ如キ事態ニ迄移行スルノ危險性大ナルコト

(ハ)歐洲戰爭勃發ニ依リ益々困惑ノ境ニ立ツニ至レル重慶側ハ窮餘ノ策トシテ種々ノ陰謀ヲ廻ラシ殊ニ在支帝國軍ト交戰國軍トノ間ニ事端ヲ誘發セシメ戰火ヲ點セントスルノ處アルコト

(乙)帝國ハ在支帝國軍ノ勢力下ニ在ル地方ヲ歐洲戰爭ニ對スル關係ニ於テ事實上中立の地域タラシメ以テ帝國ノ不介入の立場ヲ保持セント欲スルコト尤モ右ハ必シモ中立ノ權利義務ヲ主張シ法理論ヲ以テ對抗セントスルモノニハアササルコト

(イ)在支帝國軍ノ勢力下ニ在ル地方ハ之ヲ歐洲戰爭ニ對スル關係ニ於テハ事實上中立の地域タラシムルコト

カ歐洲戰爭不介入ノ立場ニ在ル帝國ノ責務ニモ實際  
上適合スルモノナルコト

(ロ) 在支帝國軍ノ勢力下ニ在ル地方カ一方交戰國ノ他方  
交戰國ニ對スル戰爭遂行ノ利用基地トナルカ如キヲ  
看過スルコトハ前記帝國ノ責務ニ悖ルノ嫌アルノミ  
ナラス其ノ結果帝國ノ不介入方針ニモ動搖ヲ與フル  
ノ惧アルコト

(丙) 在支帝國軍ノ勢力下ニ在ル地方ニ交戰國軍隊ノ存スル  
コトハ現地治安維持ノ必要上ヨリスルモノ之ヲ看過スル  
ヲ得サルコト即チ右地方ニ交戰國ノ軍隊力存在スルコ  
トハ交戰國軍隊間ノ武力衝突ノ危險アルノミナラス一  
方交戰國ノ軍隊ト之ト敵對的關係ニ在ル他方交戰國ノ  
人民トノ間ニ於テモ種々ノ「トラブル」ヲ惹起スルノ  
虞アリテ我方トシテハ治安維持上之ヲ認<sup>○</sup>。恕スルヲ得サ  
ルコト

(丁) 在支帝國軍ノ勢力下ニ在ル地方ニ於テ交戰國軍隊撤退  
ノ場合之ニ代リ警備ニ當ルヘキ者ハ廣大ナル占據地域  
ノ全般ニ亘リ治安維持ニ當リ居ル帝國軍力最適<sup>○</sup>格者ナ  
ルコト(貴電第二五一九號ニ依レハ米國軍ニ於テ英佛

軍ニ代リ兩租界ノ警備ニ當ルノ企圖アルヤノ情報アル  
趣ナルモ歐洲戰爭ノ推移如何ニ依リ米國カ參戰ニ態度  
ヲ決スルノ可能性必スシモ薄シトセス仍テ米軍ニ警備  
ヲ委スル場合愈々同國カ參戰スルニ至ラハ現在英佛軍  
ニ對スルト同様ノ事態ヲ惹起スルコトトナルヘク寧ロ  
當初ヨリ貴地方面治安警備ノ適格者タル日本軍ニ警備  
ヲ委スルコト租界自体ノ利害ヨリ見ルモ適當ナリト主  
張シ得ヘシ尤モ當方ニ於テハ米軍ニ於テ英佛軍ニ代リ  
兩租界ノ警備ニ當ル決意付カサルモノト觀測シ居リ又  
防備協定ノ改訂ヲ經スシテ勝手ニ米軍力共同租界警備  
區域ノ擴張ヲ爲シ得サルモノト解シ居レリ)

三、我方ノ懇談の説得奏功シ英佛軍ノ撤退ヲ見ル場合ハ共同  
租界ニ付テハ列國軍共同防備計畫ノ改訂ヲ爲スコト當然  
ノ順序ニシテ右手續ヲ經スシテ直チニ我軍ノ租界進駐ノ  
實現トハナラス右趣旨ハ六日夕中央海軍ヨリ現地ニ指示  
シタル次第アル處當方ニ於テハ固ヨリ前記「ノ通り懇談  
ニ依リ交戰國軍隊ノ撤退トナリ更ニ我軍之ニ代リテ進駐  
スル如ク結着ヲ見ルコトヲ期待スル所ナルモ懇談ノ結果  
右帝國軍ノ進駐ノ點力不調トナル場合ニハ米國軍ノ現在

警備區域ヲ現狀ノ儘維持スルコトヲ條件トシ兩租界内ニ將來治安維持上軍力ノ存在ヲ必要トスルカ如キ事態發生セサル限り共同租界ノ英軍受持區域及佛租界ノ軍ニ依ル警備ヲ廢シ（日本軍進駐セス）其ノ間警察力ヲ以テ治安ノ維持ニ當ラシムルコトトシ差支ナキ意向ナリ（以上陸海軍ト打合濟ミ）

四、敍上政府ノ意向乃至腹案篤ト御含ミノ上前記ハ、ノ方針ニ依リ本件圓滿解決ニ至ル様現地陸海軍側トモ連絡シ此ノ上トモ御努力相成様致度

編 注 本付記は、東京大学近代日本法政史料センター原資料部所藏「阿部信行関係文書」より採録。

## （付記二）

在支交戰國軍隊艦艇撤退勧告ニ關スル件

九月九日在京英國大使館「ドツヅ」參事官カ栗原局長ニ手交シタル口上書要譯文

（昭和四、九、九 亞一）

在京英國大使館ハ在廣東英國總領事代理ヨリ日本總領事ハ

九月七日東京ヨリノ訓令ニ基キ交戰國砲艦カ廣東ヲ撤去スル様翌日公式ニ要求スヘキ旨通報シタリトノ情報ヲ受領セリ日本總領事ハ英國總領事代理ニ對シ英國砲艦（「シーミュー」號）カ廣東ヲ撤退シタル後ハ日本官憲ハ沙面ニ於ケル英國租界及英國人ノ生命財産ノ保護ニ關シ凡テノ責任ヲ執ル旨保證セリ同總領事ハ更ニ交戰國砲艦及武裝軍隊ノ撤退要求カ拒否セラレタル場合ニハ例ヘハ天津ニ於ケル日本軍隊ハ同所ニ於ケル英國軍隊ヲ武裝解除スルヲ必要ト認ムルニ至ルヘク斯ル事件ハ日英間ノ關係ヲ非常ニ緊張セシムルノ結果アルノミニシテ殊ニ香港ニ影響スヘキ旨申添ヘタリ同總領事ハ尙日本側要求ノ受諾ヲ拒否スルコトニ依リ生スルコトアルヘキ結果ヲ暗示シ且砲艦ノ撤退ヲ強ク主張セリ日本官憲ニ依リ既ニ承諾セラレ居リタル英國軍艦「シカラ」號カ香港ヨリ廣東ニ移動スルコトハ今ヤ拒否セラレタリ

九月八日在漢口及南京ノ英國總領事館官憲ハ同所ヨリ英國砲艦ヲ自發的ニ撤退スヘシトスル要求ヲ受領セルカ同日東京ニ於テ九月五日日本政府ヨリ英國大使館ニ通達セラレタル口上書ノ寫カ北京英國大使館ニ通報セラレタリ總理大臣

閣下ノ英國大使ニ對スル説明及九月五日日本政府覺ニ敷衍シアル問題ハ英國及日本政府間ニ尙論議セラレツツアリタリトノ事實ニ鑑ミ在京英國大使館ハ廣東漢口及南京ニ於ケル日本總領事館官憲及支那ニ於ケル日本海軍官憲ニ對シ發セラレタリト認メラルルスル訓令カ何故ニ本件カ尙商議中ナルニ拘ラス發出サレタルカラ諒解スル能ハサルモノナリ故ニ日本政府力支那ニ於ケル其ノ代表ニ對シ訓令ヲ發シ本件ニ對シ日英兩國政府間ニ商議カ續ケラレ居ル限り如何ナル措置モ執ラサル様又英國砲艦及武裝軍隊ハ干涉セラルルコトナキ様及既ニ規定セラレ居ル豫定ニ依リ移動スルヲ妨ケサル様訓令發出セラルルコトヲ望ムモノナリ

編 注 本文書の原文(英文)は省略。

1079

昭和14年9月12日

阿部外務大臣より  
在米国堀内大使宛(電報)

欧州戦争交戦国軍隊の中国撤退問題に関しわ  
が方立場を米国政府に十分説明方訓令

本省 9月12日発

第三八五號(至急)<sup>☆</sup>

往電第三八四號ニ關シ

在支米國權益空爆事件以來米國側ハ兎角我方ノ支那ニ於ケル行動ニ關聯シ對日態度ヲ決定スルノ底意ヲ有スル次第ハ屢次貴電ニ依リテモ明ナル所ナルカ本件我方措置ノ根據ハ冒頭往電ニ詳記シタルカ如ク我方トシテハ十分理由ノ存スル所ナルヲ確信シ居ル次第ナルカ貴電第一二〇五號末段國務長官ニ於テモ貴大使ニ對シ米國側ニ誤解ノ存センコトヲ惧レ更ニ説明ヲ求メ居ル次第第二モアリ貴大使ハ冒頭往電ノ我方主張ヲ徹底セシメラルル際左記我方ノ方針ヲ十分体シ我方態度ノ公正ニシテ且之ニ從フコトカ東洋平和ノ維持ニ合致スル所以ナルコトヲ強調先方ニ徹底セシメラルル様此ノ上トモ御努力相成度

一、往電合第二一二五號閣議決定ノ重點ハ現地ニ於ケル措置ヲ段階の二行フニアリ而シテ目下ノ所ハ懇談の外交交渉ノ段階ニ在ルモノニシテ(閣議決定第四ノ一ノ第一項尤モ艦艇ニ付テハ其ノ特殊性質ニ鑑ミ五日夜海軍中央ヨリ第二項ノ指示ヲ爲セリ)其ノ目的トスル所ハ交戦國軍隊ノ撤退ヲ懇談の折衝ニ依リ自發的措施トシテ實現セシメ

之ト共ニ我軍ノ進駐ニ付テモ等シク雙方納得付クニテ實行ヲ期セントスルニアリ政府ニ於テハ右目的ヲ出來得ル限リ交渉段階ニ於テ達成セシメ度キ強キ希望ヲ有スルモノニシテ之カ達成ノ方法ハ何處迄モ正々堂々タル主張ニ基キ公平ナル第三者ヲシテ十分同感ヲ表スルモノナルカ如キ理由(冒頭往電)ヲ示シテ先方ヲ説得シ所期ノ結末ニ到達致度キ所存ナリ

而シテ本件閣議決定第四ノ一ノ第二項ノ措置ハ中央ノ指示スル時期ニ之ヲ實行スルモノニシテ之カ決定ニ付テハ中央ニ於テ十分考慮ヲ盡シタル上ノコトト致度キ所存ニテ此ノ點ハ現地軍側ニモ徹底シ居ル所ナルカ況シテ右措置ノ結果事態進展ヲ見サル場合考慮スヘキ五ノ點ノ實行ニ付テハ未タ中央ニ於テ決意ヲナシ居ラス問題ノ紛糾シ他ノ方策盡キタル場合之等實力行爲ヲ考慮スルコトアルヘシトスルニ過キス要スルニ政府トシテハ前記ノ如ク何處迄モ懇談的交渉ノ手段ニ依リ結末ヲ付ケ度キ熱意ヲ有スル次第ナリ

三、本問題ヲ更ニ一般國際政治ノ角度ヨリ觀ルニ我方ニ於テハ歐洲戰爭勃發ノ事情ヲ繞リ英佛側ニ於テハ我方勸告ヲ

膠ナク拒絕スルノ結果支那方面ニ於テ不測ノ緊急事態ノ生スルカ如キヲ避ケントスルノ考慮表ハレ居ルモノト觀測シ居ルモノニシテ現ニ本大臣就任挨拶ニ先立チ「クレーギー」大使ヨリ澤田次官ニ對シ英國側ニ於テハ天津交渉ノ再開ヲ熱望シ居ル旨申出テ居リ又本大臣トノ會見ニ於テモ同様ノ熱意ヲ表明シ居ル次第ニシテ佛國側ニ至ツテハ從來長日月未決ノ儘ナリシ諸懸案ヲ一括我方ノ主張通り解決シ來リタルカ如キ形勢ニシテ斯カル雰圍氣ノ下ニ萬一本件勸告ノ相手方ノ立場ニ非サル米國側ヨリ依然トシテ我方及英佛側ノ關係ニ水ヲ注スカ如キ行動ヲ執リ來ルニ於テハ其ノ結果東洋ノ平和ヲ亂シ日米ハ固ヨリ英佛ニ於テ希望セサルカ如キ事態(日本ノ不介入態度ノ變更)ノ發生ヲ見ルコトナキヲ保セス斯カル實狀ニ對シテハ米國側ニ於テ篤ト考慮ヲ加フルノ必要アリト信ス

三、國務長官ハ貴大使トノ會談中上海共同租界ノ問題ヲ專ラ取上ケ居ルモ本問題ニ關スル我方ノ懇談的説得成功シ差當リ英佛軍上海租界ヨリ撤退ノ場合ニ於テハ其ノ結果トシテ當然米國ヲ含ム列國軍共同防備協定ノ改訂(本會議ノ議長ハ日本陸戰隊指揮官ナリ)ヲナスヘキ順序ニシテ

右手續ヲ經スシテ直チニ我軍兩租界進駐ノ實現トハナラス即チ交戰國軍撤退ノ後始末ニ付テモ勿論關係國軍間圓滿交渉ノ結果結束ニ到達スル筋途ニシテ我方トシテハ斯カル結束ヲ期待スルモノナリ而シテ此ノ交渉ノ結果帝國軍ノ進駐ノ點カ容易ニ解決付カサル場合ニハ米國軍ノ現在警備區域ヲ現狀ノ儘維持スルコトヲ條件トシ兩租界内ニ將來治安維持上軍力ノ存在ヲ必要トスルカ如キ事態發生セサル限り共同租界ノ英軍受持區域及佛租界全体ノ軍ニ依ル警備ヲ廢止シ其ノ間固有ノ警察力ヲ以テ治安ノ維持ニ當ラシムルコトトスルモ差支ナキ腹案ヲ有シ居ル次第ニテ(從テ貴電第一〇五四號之等地域ニ米國兵ヲ入レテ警備ニ協力スルコトハ考ヘ居ラサル次第ナリ)右ノ點ハ中央陸海軍トモ打合ノ上既ニ現地ニ指示済ミナリ四、之ヲ要スルニ政府ノ意圖スル所ハ冒頭往電申進ノ通り極メテ合理的且穩健ナルモノナルニ付米國側ニ於テ我方ノ眞意ニ付何等誤解ヲ懷クコトナク進テ之カ實現方ニ協力シ來ルヤウ此ノ上ノ御盡力ヲ期待スルコト切ナリ

貴電第一〇五四號ニ對スル當方意向ハ本電ニ盡サレ居ルモノト御承知アリタシ

英ヘ轉電セリ

英ヨリ獨、佛、伊ニ轉電アリタシ

~~~~~

1080

昭和14年9月12日

在本邦英國大使館より
外務省宛

わが方の在中國英國軍隊撤退勧告に対する英

国政府回答

歐洲戰爭勃發ニ際シ帝國ノ執ルヘキ態度竝ニ在支

交戰國軍隊艦艇ニ對スル措置ニ關スル件

九月十二日附在京英國大使館口上書第一六七號

要譯文

(昭和十四、九、三 亞一)

在京英國大使館ハ帝國外務省ニ對シ歐洲戰爭ニ關スル九月五日附帝國外務省口上書ニ關シ英國外務大臣ノ訓令ニ基キ英國政府ハ前記口上書第一節ノ申入ハ日本政府力戰爭ニ對シ中立ノ態度ヲ執ル意向ナルコトヲ意味スルモノト了解スル旨通報スルノ光榮ヲ有ス

然レトモ英國政府ハ何故ニ歐洲ニ於ケル敵對行動ノ發生カ在支日英官憲間ノ困難ヲ増加スルモノナリヤ了解スル能ハ

サルモノナリ英國政府ハ右ニモ拘ハラス日本政府カ突發事件ヲ回避シ且懸案ヲ友好的商議ニ依リ解決スル手續ヲ繼續セント希望シ居ルコトヲ諒解スルモノナリ其ノ間日本側口上書ノ他ノ點ハ了承セラレ且考慮中ナリ

編注 本文書の原文(英文)は省略。



1081

昭和14年9月15日
在ベルギー來栖大使より
阿部外務大臣宛(電報)

欧州戦争の先行きや米国の動向に鑑み交戦国軍隊
の中国撤退には拘泥すべきでない旨意見具申

ブリュッセル 9月15日発
本省 着

第二三〇號

一、在支外國兵力撤退問題ニ關スル米宛貴電第三八四號御訓令ノ根本趣旨及從來累積シ來レル現地諸般ノ事情ハ充分了解且ツ拜察ニ難カラサルモ本件ノ背後ニハ先ツ之ガ前提トシテ處理ヲ要スベキ更ニ重大ナル案件存スルヤニ觀測セラルルヲ以テ既ニ閣議御決定(上海宛貴電合第二一

二四號)ノ次第ハアルモ歐洲其他ノ事態ガ漸時長期戰ノ態勢ヲトリ來ルト共ニ波蘇國境方面ニ於ケル蘇聯邦最近ノ動キカ我國トシテモ特ニ留意ヲ要スベキ發展ヲ示シツツアルニ鑑ミ何ノ途皇軍ノ威力ノ前ニハ物ノ數ナラサルベキ兵力ノ如キハ此際追及シテ問題トセズ萬事時局對策ノ全局ニ立脚シ再應御詮議切望ニ堪ヘズ

二、本件急速措置ノ御決定ハ主トシテ上海發往電第二五一九號ノ事情ニ出デ居ル次第ナルベキ處同電(一)ニ所謂情報ノ出所果シテ如何殊ニ米國ハ曾テ支那各地ノ租界ヲ返還シタル經緯アルコト御承知ノ通りナルト同時ニ米西戰爭直後「フイリッピン」領有カ議會ノ大問題トナリ僅少ナル表決ノ差ニテ決定ヲ見タルガ如キ同國ノ傳統ニモ鑑ミ租界移讓ノ如キ問題カ爾ク急速ニ實現シ得ベキヤ將又米國議會ノ承認ヲ得スシテ移讓ヲ承認スル事同國憲法上可能ナリヤ等ノ諸點ヲ考カヘ右情報ニハ種々疑問ノ節アリ旁寧口卒直ニ米國ニ對シ右情報ノ眞偽ヲ質スヲ以テ第一着手トスベキニアラスヤト思考ス

三、英國カ既ニ對獨戰爭狀態ニ入り支那ヲ顧ミルノ遑ナク米ヲシテ我國牽制ニ當ラシメツツアルハ推測ニ難カラサル

モ米國カ英佛ニ代リテ果シテ何所迄支那問題ニ踏込ミ來ルベキヤハ有田「クレীগー」協定成立後ニ至リ始メテ日米通商條約ヲ廢棄シタルカ如キ米國從來ノ態度ニ鑑ミ甚タ疑問ニシテ殊ニ今後歐洲ノ戰局益々進展シ米國ニ於ケル英佛援助論愈強化シ來リ（最近ノGallup民論調査御參照）其結果米國ノ日米關係ニ關スル關心増大スルト共ニ他方日支關係調整及第三國權益問題ニ對スル我方ノ公正ナル態度一層鮮明トナルニ於テハ米國現在ノ對日態度モ次第二變轉シ來ルベキ可能性ナキヲ保セズト思考セラレ少クトモ今直ニ我國ヨリ進ンデ本件ニ關シ米國ト喧嘩別レヲ敢テスル迄ノ必要無之ヤニ觀測ス

四、歐洲戰局擴大ニ伴ヒ之カ太平洋方面波及ヲ防止スルハ此際トシテ日米兩國ノ分擔スベキ重責ニシテ此點ニ關シテハ米國政府筋ト雖トモ恐ラク異存ナカルヘク又現ニ最近巴奈馬運河ノ警備ヲ嚴重ニシ且ツ來ルベキ巴奈馬汎米會議及加奈陀參戰ニ關聯シ改メテ「モンロー」主義ヲ云々シ居ル米國政府トシテハ同時ニ比律賓ニ關シテモ種々ノ問題ヲ考慮シ居ル次第ト觀測セラルルニツキ此際我國トシテハ支那中央政權ノ確立、歐洲時局ノ推移及米國々論

ノ動向等諸般ノ情勢ヲ考查シ適當ノ時機ニ於テ堂々本項冒頭ノ問題ヲ提議シ日米協力ニ依リ戰局ノ太平洋方面波及ヲ防止スルコトニ努メ此間ニ兩國關係打開ノ途ヲ講セラルルコト最モ可然ヤニ思考ス

英米佛獨伊ヘ轉電セリ

編 注 本文書は、国立国会図書館憲政資料室所蔵「憲政資

料」中の「来栖三郎關係文書」より採録。

1082

昭和14年10月17日

在上海三浦総領事より
野村外務大臣宛（電報）

日本は汪兆銘による新政府を樹立するか蔣介石との和議を結ぶか二途何れかを選ぶべきなど伊国代理大使の内話要領報告

上海 10月17日後発
本省 10月17日夜着

第二九三五號

來滬⁽¹⁾途中同船セル伊太利代理大使（大使「タニアニ」來滬シ居ルモ信任狀未捧呈ノ爲大使トシテ取扱ハレ居ラス）

「アレツサンドリーニ」(最近一年半重慶ニ滞在シ目下歸國ノ途ニ在リ)カ岡崎總領事ニ内話セル所左ノ通りナル趣ナリ

一、重慶ハ從來屢伊太利大使ノ信任狀捧呈ヲ迫リシカ最近王外交部長孔祥熙ヨリ特ニ右ニ付督促アリ之ニ對シ自分ハ伊太利政府ニ要求スヘキコトハ駐伊支那大使ヨリ政府ニ申入ルルヲ常道トストテ明答ヲ與ヘス

二、重慶ハ物資缺乏シ武器等モ最近充分手ニ入ラス困リ居レリ銀行家實業家其ノ他政府要人中ニモ和平ヲ望ム空氣大ナルカ依然公然ト之ヲ唱フル者ナシ

三、孔ト宋トノ確執甚タシク自分ハ孔ノ宴會ヲ受クレハ同日又ハ直ク翌日宋ノ宴會ヲ受ケサルヲ得サル狀態ナリ

四、「ジヨン」ハ支那ニ同情シ種々助言ヲ與ヘ居ル模様ナルモ「リツプサービス」ノミニテ實質上ノ援助ナシ英國モ最近援助ヲ爲シ得サル狀態ナリ露ヨリノ武器等ノ輸送モ最近杜絶勝ニテ重慶ハ大イニ焦リ居ル模様ナリ

五、自分ノ見ル所ニテハ日本側ハ既ニズツト以前ヨリ中央政府ヲ樹立スヘカリシナリ斯クスルコトニ依リテノミ重慶ニ對抗スルヲ得ヘク汪精衛ハ種々ノ評ハアルモ矢張り蔣

ト對抗スル唯一ノ人間ナリト見ラル

六、日本トシテハ汪ヲ中心トスル中央政府樹立ニ專念スルカ又ハ重慶ト和ヲ講スルカニ途其ノ一ヲ擇フ立場ニ在リ自分トシテハ何レヲ良シトハ言ヒ得サルモ唯一ツ確實ナルコトハ蔣介石ハ汪ト共ニ事ヲセサルコトナリ自分ノ出發直前ニモ蔣ハコト茲ニ至リテハ汪ト提携スルコト不可能ナリト言ヘリ

七、重慶ノ狀態ヲ見ルニ蔣ノ獨裁始ト完全ニテ蔣ヲ除キテハ他ニ問題トスヘキ人物ナシ(但シ宋子文ハ他ノ要人ニ比スレハ一頭地ヲ拔キ居リ實力モ相當アルモ)從テ蔣ヲ除キタル重慶ト和ヲ講スルカ如キハ意味ナキ様認メラル

八、露大使館ニハ百名以上ノ露國人居ル模様ニテ何ヲシ居ルヤ判ラサルモ相當數ノ「パイロット」居ルコト確實ニテ漢口空襲モ彼等ノ所業ナラン

九、重慶其ノ他ノ爆撃ニ付テハ個々ノ軍事施設ヲ爆破スルヨリモ連日一箇所(例ハハ重慶)ノ爆撃ニ集中シ電燈水道ヲ破壊シ都市ノ生命ヲ奪フコト人心ニ與フル威力大ナリ(自分ノ滞在中モ數箇月前(四、五月頃)一回連續猛爆アリ其ノ時丈ハ人心兢々トシテ何モ手ニ付カス其ノ際ハ伊

1083

大使館附近ニモ旺ニ爆彈落下シ硝子等悉ク破レタリ）此ノ方法ニ依リ重慶ヲ混亂セシメ政府ノ機能ヲ停止セシムルコト最良法ニテ市外ノ特定軍事施設爆破ノ如キハ餘リニ上品ナル方法ニテ威力充分ナラサル様感セラレタリ

七、歸途昆明ヨリ汽車ニテ河内ニ赴キタル途中ニ二箇所鐵道破損シ徒歩聯絡ニ依レリ右ハ一般人民ニハ祕シ居リ許可アル者ノ外鐵道ヲ利用シ得ス而モ破損箇所ヲ夜間通行セシメ居レリ破損ハ相當甚タシク修理ニ二箇月ヲ要スル由ナリ從テ貨物ノ輸送ハ全ク不可能ナリ破損ハ出水ニ依ル様見受ケラレタルモ或ハ何等カ日本側ノ謀略ニ基クモノナルヤモ知レス緬甸ニ至ル道路モ目下破損シ使用セラレス爲ニ貨物輸送跡絶ヘ居レリ

北京、天津、南京、漢口ヘ轉電シ香港ヘ暗送セリ

昭和14年10月24日

在スペイン矢野(真)公使より
野村外務大臣宛(電報)

蔣政權は一地方政權に過ぎず中国に新中央政府樹立の暁には率先して承認すべきとスペイン外相へ説示について

第一七四號

マドリード 10月24日後発
本省 10月25日夜着

支那ハ蘇聯邦墨西哥等ト共ニ未タ「フランク」政府ト國交ナク赤政府時代ノ代表者今尙「サンデアン・ド・リューズ」ニ滞在シ居ル處右ニ付テハ本官ヨリ屢次當國政府ニ對シ蔣政權ハ共產主義ニ基ク一地方政權ニ過キサルヲ以テ之ト交渉スルノ有害無益ナルヲ強調シ政府モ良ク之ヲ了解シ來リタル次第ナルカ二十四日新外相ト面談ノ折再ヒ本件ニ言及セル處大臣ハ貴見ノ如ク蔣政權ノ支那ナルモノハ今日既ニ存在セス從テ之ト國交ノ如キハ問題トナラス恰モ波蘭消滅セル今日吾人ハ在巴里同政府ト交渉ノ意ナキト同様ナリト言ヘルニ付本官ハ支那ニハ近ク確固タル新中央政府樹立スル筈ニ付其ノ際ニハ日本カ率先「フランク」政府ヲ承認セル如ク西國モ速ニ之ヲ承認セラルル様致度シト附言シ置ケリ

在歐米各大使ヘ暗送セリ

昭和14年10月27日

在北京門脇大使館二等書記官より
野村外務大臣宛(電報)

華北での日独経済提携に関するボイド提案に

対し実現性の乏しい点を指摘について

北京 10月27日後発

本省 10月27日夜着

第一一三一號

往電第七一五號ニ關シ

目下來燕中ノ「ウオイド」當地獨逸大使館「ノルテ」書記官ト共ニ當館ヲ來訪シ曩ニ計畫シ居タル獨逸北支間「バーター」交渉ハ歐洲戰爭勃發ノ爲一時挫折ノ已ムナキニ至リタル處自分ノ考ニテハ獨逸側トシテハ北支ノ必要トスル機械類等ニ關シ尙輸出餘力アリ(獨逸ハ豫テ生産擴充ニ全力ヲ注ギ外國ヨリノ輸入原料品ハ國內ノ工業生産品ヲ以テ支拂フ要アリト述フ)ト信スルヲ以テ西比利亞鐵道ヲ利用スル北支產品ト獨逸製品トノ「バーター」制度ニ付日本側ノ贊成ヲ得度ク右ハ運送可能數量ニモ制限ヲ受クヘク取引夫レ自體トシテハ左迄重要ナラサルヘキモ將來平和回復後ノコトモ考慮シ取引關係ヲ維持スルコト希望ニ堪ヘスト述ヘ

且右ハ必スシモ北支ノミニ限ラス日滿北支ヲ一體トスル一貿易統制組織ヲ作り之ニ對應シ獨逸ニテモ統制組織ヲ作り其ノ間ニ取引ヲ爲スモ可ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ右「バーター」制度ノ思想其ノモノニハ別段異議ナキモ具體的問題トシテ北支產品ノ輸出、西比利亞鐵道利用ノ可能性竝ニ獨逸側ノ輸出能力等ニ付相當檢討スヘキモノアリ當方トシテハ充分考慮ノ必要アルヲ以テ俄ニ贊意ヲ表シ難キ旨ヲ述ヘ置ケリ

尙同人ハ興亞院側ニ對シテモ同様ノ意見ヲ述ヘ興亞院側ニ於テモ當方ト同趣旨ニテ答ヘ置キタル趣ナリ

上海、青島、天津へ轉電セリ



1085

昭和14年11月13日

在本邦クレギー英國大使より
野村外務大臣宛

華北駐屯の英國軍隊一部撤退に関する英國政府通告

府通告

北支英國駐屯兵一部撤退ニ關シ在京英國大使ヨリ
申入ノ件

昭和十四年十一月十三日在京英國大使カ野村大

臣ニ提出シタル口頭申入覺要譯文

(昭一四、一一、一三 亞一)

英國政府ハ歐洲情勢ノ必要ニ鑑ミ義和團事件議定書ノ英國權利ニ基キ天津及北京ニ維持セラレ居ル駐屯兵ノ構成ヲ一時的ニ變更スル意思ヲ有ス

其ノ結果在天津北京英國兵ノ一部ハ撤退セラルヘク但シ必要ナル行政的特科機關ヲ含ム一中隊ハ天津ニ及其ノ一小隊ハ北京ニ駐屯セラルヘシ

同様ノ通報ハ他ノ關係國政府ニモ爲サレタリ

編注 本文書の原文(英文)は省略。

1086 昭和14年11月13日 在本邦仏国大使館より
外務省宛

華北駐屯の仏国軍隊一部撤退に関する仏国政府通告

府通告

北支佛國駐屯兵一部撤退ニ關スル件

昭和十四年十一月十三日附在京佛國大使館口上

書要譯文

口上書

(昭一四、一一、一三 亞一)

佛國カ參加シ居ル戰爭ニ依リ佛國政府ハ歐羅巴ニ有スル兵力ノミナラス全世界殊ニ極東ニ有スル兵力ヲ再組織スルコトトナレリ

其ノ結果同政府ハ一時佛國カ支那ニ於テ一九〇一年ノ議定書ノ諸規定ニ基キ保持セル兵力ヲ變更スルコトニ決セリ在京佛國大使館ハ帝國政府ニ對シ右駐屯兵ハ極ク最近相當減少セラルヘキ旨通報スルノ訓令ヲ受ケタリ

同大使館ハ更ニ同様ノ通告カ支那ニ於テ駐屯軍ヲ維持シ居ル一九〇一年ノ議定書ノ他ノ締約國即チ米國、英國及伊國ニ對シテモ爲サレタルコトヲ通報スルノ光榮ヲ有ス

編注 本文書の原文は見当らない。

1087 昭和14年11月20日

外交情勢に関する野村外務大臣内奏資料中の

「鼓浪嶼租界問題」および「在支交戰國軍隊

艦艇撤退問題

付記 昭和十四年五月二十三日付

有田外務大臣内奏資料中の「厦門鼓浪嶼租界

問題」

昭和十四年十一月二十日

外交情勢ニ關スル野村外務大臣内奏資料

○^(前略)支那ニ於ケル第三國トノ交渉案件

鼓浪嶼租界問題

本年五月初、厦門鼓浪嶼租界ニ於キマシテ親日支那人ニ對スル抗日分子ノ「テロ」行爲防遏ノ緊急措置トシテ我海軍陸戰隊カ上陸シ、之ニ對抗シテ英米佛三國ノ陸戰隊モ上陸シマシタコトニ依テ惹起セラレマシタ所謂鼓浪嶼租界問題ハ、幾多ノ紆餘曲折ヲ經マシタカ、去ル十月中旬無事解決ヲ見ルニ至リマシタ。

問題發生當時我現地當局ニ於キマシテハ、租界當局ニ對シ抗日排日ノ徹底的取締、日本人職員ノ増強、臺灣人ノ參政權ノ承認、支那人參事會員ノ任命ヲ含ム五ヶ條ノ要求ヲ提出致シマシタカ、當初ハ英米佛三國領事ノ態度カ强硬テアリマシテ仲々我要求ニ贊同スル態度ヲ示サス、

一方我海軍ニ於キマシテハ抗日分子取締ノ爲鼓浪嶼島ト外界トノ交通ニ付嚴重ナル制限ノ措置ヲ持續致シマシタ爲、事態ハ對立膠着ノ狀態ニ入ツタノテコサイマス。

外務當局ト致シマシテハ現地及東京ニ於キマシテ局面打開ノ爲引續キ努力致シテ居リマシタ處、九月二入り歐洲政情ノ變化モ影響シマシテ、英佛側ハ先ツ其ノ陸戰隊ヲ撤退シ、本問題ニ對スル態度ヲ著シク緩和シテ參リマシタ。此ノ情勢ニ乗シテ我方ハ主トシテ米國側ヲ相手ト致シ折衝ヲ重ネマシタ結果、十月十七日大要左ノ通りノ解決ニ到達シ、同時ニ日米兩國陸戰隊モ同日同時ニ撤退シ、茲ニ問題ハ全部解決ヲ見ルニ至リマシタ。

一、工部局當局ハ抗日分子取締ニ付嚴重ナル措置ヲ執ルト
共ニ日本總領事館警察ト緊密ニ協力スルコト(此ノ爲工部局當局ハ日本總領事ト細目ニ付協議ヲ遂ケマシタ)

二、工部局ハ警察副局長及巡查部長トシテ日本人職員各一名ヲ採用任命スルコト、更ニ將來其ノ財政狀態ニ應ジ臺灣人警察官ヲ増強スルコト

三、臺灣人ノ參政權及支那人參事會員(三名)ノ任命ニ關ス

ル問題ハ將來適當ノ時期迄之ヲ延期スルコト

四、日本官憲ハ鼓浪嶼島ト外界トノ交通ヲ事件發生以前ノ

原狀ニ復歸スルコト

惟フニ渺タル鼓浪嶼租界ノ問題力不當ニ世界ノ視聽ヲ集メマシタ所以ハ、此ノ租界カ上海ノ共同租界ト略々同一ノ國際的地位ヲ有スルト云フ特殊ノ事情ニ基クモノト考ヘラルルノテコサイマスカ、我方ノ要求ヲ大体貫徹シツツ交讓妥協ニ依リ問題ノ解決ニ到達シマシタコトハ、各方面ニ對シ良好ナル影響ヲ與ヘタモノト認メラルルノテコサイマス。

^(中略)
在支交戰國軍隊艦艇撤退問題

歐洲戰爭勃發ニ際シ政府ト致シマシテハ支那ニ於ケル帝國軍勢力下ノ地方ヲ中立の地域タラシムル見地ヨリ、關係交戰國ヲシテ其ノ軍隊及艦艇ヲ自發的ニ撤退セシムル様勸告致シマシタ經緯ハ御承知ノ通りデ御座イマスルガ、其ノ後在京英國大使及佛國大使ヨリ帝國ノ今次歐洲戰爭ニ對スル態度ヲ了承スルト共ニ、軍隊艦艇ノ撤退ニ關シテハ本國政府ニ於テ考慮中ナル旨回答シ參ツタノテ御座

イマス。其ノ後十月二日在京英國大使ハ野村ニ對シ英國

政府ハ軍事上ノ必要ニ基キ一時揚子江上ヨリ同國砲艦五隻ヲ撤退スルコトニ決シタル旨通報シ參リマシタカ、本月十三日更ニ同大使ハ野村ヲ來訪致シマシテ、本國政府ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ現下ノ歐洲情勢ノ必要ニ基キ在京津英國駐屯軍ノ一部ヲ一時撤退スルコトニナリタル旨通報シ參リ、同日在京佛國大使館ヨリモ同様ノ通報ニ接シタ次第テ御座イマス。^(後略)

(付記)

^(前略)
廈門鼓浪嶼租界問題

廈門鼓浪嶼ハ恰モ上海ノ共同租界ト同シク列國共同ノ租界トシテ、客年帝國陸海軍ノ廈門攻略後モ大体戰前ト變リナク其ノ存立ヲ續ケテ來タモノデアリマスカ、大陸トノ交通カ割合自由ニナツテ居リマシタ爲抗日分子ノ潛入スルコト絶エス、之ニ付テハ帝國總領事ヨリ隨時租界當局ノ注意ヲ喚起シテ參ツタ次第デアリマス。

然ルニ本月八日臺灣籍民二名ニ對スル暴行事件發生ヲ見マシタルニ續キ、同十一日廈門市商會會長カ抗日分子ノ爲暗

殺セラルル事件發生致シマシタカ、時恰モ第五艦隊司令長官カ同租界訪問視察ノ際テアリマシタ爲、海軍側ニ於テハ陸戰隊百餘名ヲ上陸セシメ租界内ノ手入ヲ行ヒ、十數名ノ抗日分子嫌疑者ヲ逮捕致シマシタ。

之二引續キ我總領事(内田)ハ十四日工部局參事會長ニ對シ抗日排日ノ徹底の取締、日本人職員ノ増強及臺灣人ノ參政權ノ擴大ヲ含ム五箇條ノ要求ヲ提出致シマシタ。

一方海軍陸戰隊ハ大体抗日分子鎮壓ノ當初ノ目的ヲ達シマシタノテ我總領事館護衛ノ爲少數(四十數名)ノ者ヲ除キ十五日ニ至リ撤收セラルルニ至リマシタ。

然ルニ二十七日ニ至リ英米佛ノ三國領事ハ我總領事ノ反對ノ說得ニ拘ラズ、「日本陸戰隊ガ租界内ニ留ル以上三國側ニ於テモ同數ノ陸戰隊ヲ上陸セシムル必要アリ三國側ノ陸戰隊ハ日本陸戰隊ノ減少ニ比例シテ減員セラルベク日本陸戰隊ニ於テ速ニ撤退セラレンコトヲ望ム」旨ヲ通報越シ、之ト同時ニ三國陸戰隊ノ上陸ヲ見ルニ至リマシタ。

一方東京ニ於キマシテハ五月十六日在京英國大使ヨリ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ「日本側ガ鼓浪嶼ノ國際共同行政ニ對シ強力ヲ以テ干涉スルコトニ嚴重抗議スル旨、英國

政府ハ何等法律の根據ナキ此ノ種ノ行爲ヲ重大視スル旨及陸戰隊ヲ出來得ル限り早日ニ撤退セラレ度キ旨」申入ガアリ、在京佛國大使ヨリモ十八日全然同一内容ノ申入ニ接シマシタ。又同日在京米國大使館ヨリモ「米國政府ハ廈門ニ於ケル事態ノ發展ニ關心ヲ有シ且租界ニ權益ヲ有スルヲ以テ日本政府ガ如何ナル意圖ニ依リ陸戰隊ヲ上陸セシメタリヤ承知シ度キ」旨申出ガゴザイマシタ。

之二對シマシテハ今回ノ我陸戰隊上陸ハ抗日分子鎮壓ノ爲執ラレタル緊急ノ措置ニ過ギズ此ノ種行爲ヲ全然法律の根據無シトスル英國政府ノ見解ノ如キハ承服シ得ザルコト、尙陸戰隊ハ漸次撤收シツツアルコトヲ回答致シタノデゴザイマス。

鼓浪嶼ノ租界ハ其ノ法律の性質ニ於キマシテハ上海共同租界ト極メテ類似シタル地位ヲ有シテ居リマスル關係上、外國側ニ於キマシテハ鼓浪嶼ノ小ナル問題モ他ノ重大ナル問題ニ影響スル所カ多イトノ懸念ヲ有スルモノノ如ク、新聞紙等ニ於キマシテモ目立ツタ取扱ヲシテ相當ノ關心ヲ示シテ居ル次第ゴザイマスガ政府ト致シマシテハ我陸戰隊ガ外國側ノ實力ノ示威ニ依リ撤收シタリトノ印象ヲ與フルコ

トガ極メテ好マシカラザル點ニモ留意シツツ、成ルベク本事件ヲ此ノ上錯綜セシメルコトナク落着セシメ度キ方針デゴザイマス。(後略)

1088 昭和14年11月28日

外務省が作成した「支那問題ニ關スル當面ノ對英米施策要領」

(昭和十四、十一、二八)

支那問題ニ關スル當面ノ對英米施策要領

第一 目標

支那問題ニ關スル帝國現下ノ對英米外交ハ英米ヲシテ帝國ノ事變處理方針ニ同調セシメ帝國ノ企圖スル東亞新秩序建設ニ協力セシムルコトヲ基本目標トシ差當リ英米カ支那新中央政府樹立工作ニ對シ妨害の乃至反對的態度ヲ執ラス且同政府成立ノ曉ハ少クトモ實質上同政府ノ立場ヲ認メ之ト協調的態度ヲ執ル如ク誘導スルコトニ主タル重點ヲ置キ施策スルモノトス

第二 措置

一、排外運動ノ禁遏

排外運動(排英ノミヲ目的トスルモノタルト否トニ拘ラス)ハ之ヲ禁遏スルモノトシ之カ爲右禁遏方針ヲ支那側關係筋ニ對シテモ徹底セシムルノ措置ヲ執リ且排外運動ヲ目的トスル團體ハ之ヲ解散セシムルモノトス

二、權益毀損ニ對スル補整及防止

軍事行動等ノ結果生シタル權益毀損事件ニ關シテハ成ルヘク速ニ合理的補整ヲ圖リ又急速解決ヲ期シ難キモノニ付テハ其ノ理由ヲ明カニスルモノトス

將來ニ於ケル權益毀損事件ノ發生ヲ防止スル爲必要ナル措置ヲ執リ殊ニ空爆實施ニ付特別ノ注意ヲ加ヘ適當ナル具體的措置ヲ講スルモノトス

三、通商制限ノ緩和除去

(イ) 桐油、葉煙草、毛皮等土產品ノ買付輸送、石油重油ノ販賣其ノ他ノ通商の活動ニ對スル制限ヲ成ルヘク緩和除去シテ門戸閉鎖主義ヲ採ルモノニアラサル實證ヲ示スモノトス

(ロ) 長江及珠江ノ條件付開放ヲ實施スルモノトシ而シテ其ノ條件トシテハ航行區域、寄港場所及船舶隻數ニ對ス

ル制限、兵器、彈藥等ノ一定載貨ノ輸送及抗日分子、共產分子等ノ一定船客ノ輸送ノ禁止、通匪行爲ノ禁止、占領地區内通貨金融攪亂行爲ノ禁止等ニ關スルモノヲ考慮スルモノトス

右開放ノ實施ニ當リテハ舥舟利用、碼頭使用、土產品買付其ノ他ノ通商の活動ニ付第三國人ニ對シ特ニ差別待遇ヲ與フルコトナルカ如キ一切ノ原因ヲ除去スルモノトス

(ハ) 現地官憲ニ於テ第三國人ノ通商の活動ニ對シ新ニ制限ヲ課スル場合ニハ事前ニ中央又ハ出先最高官憲ニ經伺スルモノトス

四、租界問題調整

上海共同租界北部地域問題、滬西問題、天津租界問題等ノ解決ヲ促進スルモノトス

五、新秩序ノ闡明

支那新中央政府ノ樹立方針、同政府ノ政綱政策、日支新關係調整原則等ヲ適當ノ時機及方法ニ於テ英米等第三國側ニ對シ明瞭ニシ東亞新秩序建設方策ノ具體の内容ヲ認識セシムル様努ムルモノトス

六、第三國側ノ經濟的及文化的活動ニ對スル取扱

日支新關係調整乃至東亞新秩序建設上第三國側ノ在支權益及活動ニ對シ加フヘキ制限ノ範圍程度ヲ成ルヘク具體的ニ明示シ第三國側ノ疑惧ノ念ヲ緩和スルニ努ムルモノトシ而シテ右ニ關シテハ概ネ左ノ方針ニ據ルモノトス

(イ) 政治的色彩ヲ清算セル經濟的及文化的權益及活動ハ一般ニ之ヲ尊重ス

(ロ) 帝國ハ日支間交易ニ關シ支那側ニ對シ妥當ナル關稅ノ採用ヲ要請スルモノナルモ一般第三國ニ比シ特ニ有利ナル關稅上ノ待遇ヲ要請シ又ハ第三國ニ對スル關稅上ノ差別待遇ヲ要請スルモノニアラス

支那側ニ於テ已ムヲ得ス爲替管理貿易管理等ヲ實施スルノ必要生シタル場合帝國トシテハ右管理制度ニ依リ特ニ第三國ニ對シ差別待遇ヲ與フルコトヲ要請スルモノニアラス

(ハ) 第三國側ノ既存企業ハ之ヲ尊重ス尤モ既存企業中航空、交通、通信事業等ノ如キ國防上特ニ重要ナル企業ニ關シテハ支那側ニ於テ適宜合理的基礎ニ於テ調整ヲ加フルコトヲ期待ス

特ニ北支及蒙疆ニ於ケル國防資源ノ開發利用ニ關シテハ帝國ハ特別ノ需要ヲ有スルヲ以テ第三國側ヲシテ右國防資源獲得ニ付帝國ノ立場ヲ認メシムルヲ要スルモ（此ノ場合ニ於テモ第三國側ノ純經濟的投資ハ之ヲ歡迎スルコト後記（二）ノ通り）右以外ノ分野ニ於テハ帝國ハ一般ニ第三國側ノ平和の企業ノ新設ニ干涉スルモノニアラス尤モ航空、交通、通信事業等ノ如キ國防上特ニ重要ナル企業ノ新設ニ關シテハ第三國側カ日本側ノ諒解ナクシテ之ニ關與スルコトニ對シテハ反對セサルヲ得ス

（二）帝國トシテハ支那再建設ニ關スル第三國側ノ投資ハ之ヲ認ムルノミナラス寧ロ之ヲ歡迎ス但シ「ビズネス・ベース」ニ基クモノタルヲ要シ政治的特權ヲ伴ハサルモノタルヲ條件トス

支那新政府ニ對スル借款竝ニ航空、交通、通信事業等ノ如キ國防上特ニ重要ナル企業ニ對スル投資ニ付テハ第三國側カ日本側ノ諒解ヲ經タル上之ヲ爲スコトヲ要望ス

北支那開發會社及關係子會社竝ニ中支那振興會社及關

係子會社（國防資源開發事業ヲ營ムモノヲ含ム）ニ對スル第三國側ノ協調的投資ヲ認メ之カ誘致ニ努ム

七、平衡資金設定及爲替貿易管理實施

（甲）帝國軍ノ占領地乃至支那新政權下地域ニ於ケル一般民衆ノ生活脅威ノ緩和、經濟混亂ノ防止、帝國ノ占領地經營ノ必要、新政權ノ民心把握力ノ増大等各般ノ見地ヨリ占領地乃至新政權下地域ニ於ケル通貨價值ノ安定ヲ計ルコトハ目下ノ急務ナルニ付其ノ一方法トシテ新政權ヲシテ平衡資金ヲ設定セシメ而シテ右ハ英米等ノ在支經濟的權益ノ保護ノ爲ニモ必要ナルニ鑑ミ右平衡資金設定ニ付キ英米等ヲ協力セシムル爲所要ノ外交措置ヲ講スルモノトス而シテ本件外交措置ニ付テハ我方トシテハ英米等ノ我方乃至新政權側ニ對スル實質的協力カ蔣政權側ニ及ボスヘキ政治的效果ヲ併セテ重視スルモノトス

（イ）本件平衡資金調達ニ付テハ新政權側ニ日英米等ニ於テ共同負擔スルモノトシ之カ管理運用ニ付テハ新政權側ノ主動的立場ヲ認ムル如クスルモノトス

（ロ）本件外交折衝ハ天津問題交渉ノ成行等ヲ睨ミ機ヲ見

テ先ツ英國トノ間ニ開始スルモノトス

(ハ) 本件外交折衝ニ當リテハ支那通貨價值ノ安定ハ支那國民ノ生存保持延ヒテハ其ノ經濟ノ復興發達ニ不可缺ノ要件ニシテ若シ英米側ニ於テ本平衡資金設定ニ對シ協力ヲ肯セサルトキハ中南支等ニ於テモ爲替貿易管理ヲ實施スルノ已ムヲ得サル次第ヲ明示スルモノトス

(ニ) 尤モ本件平衡資金設定ニ關シテハ少クトモ左ノ諸點ニ留意スルヲ要ス

(1) 英米ノ協力ニ依リ平衡資金ヲ設定スル場合其ノ運用管理ニ英米側ヲ參加セシムルコトハ止ムヲ得サルヘキモ強力ナル發言權ヲ有セシメサルコトヲ絕對ノ條件トス

(2) 安定スヘキ通貨ヲ法幣トスル時ハ非占領地區ニ於ケル法幣モ強化スヘク結局蔣政權ヲモ強ムル結果トナル虞アリ仍テ新政權ノ下ニ新中央銀行ヲ設立シ新通貨ヲ發行セシメ法幣ハ一定ノ制限ノ下ニ(發行銀行ニ依リ又ハ發行地ニ依リ區別スルコト必スシモ不可能ニ非ス)一定率ヲ以テ交換セシム

ルヲ可トス

(3) 圓系通貨(軍票、圓紙幣及聯銀券)殊ニ軍票ニ付テハ英米側カ平衡資金ヲ設定シテマテモ其ノ安定ニ協力シ來ルコトハ期待シ難キヲ以テ其ノ安定策ハ第二段ノ處置トシテ別ニ考慮スル要アリ尤モ右ハ頗ル困難ナル問題ニテ英米等ノ協力ニ依ル本件平衡資金設定案ノ難點モ前記(1)及(2)ト共ニ此ノ點ニアルコトハ覺悟スルヲ要ス

(4) 本件ハ新中央政府ノ執ルヘキ幣制計畫乃至通貨政策ノ根本方針ト不可分ノ關係ニアリ右根本方針ノ樹立ヲ先決問題トス

(乙) 平衡資金設定ニ付英米等カ協力ヲ肯セサルトキハ前記必要ニ鑑ミ新政權ヲ指導シテ新政權下ノ全地域ニ於テ爲替貿易管理ヲ實施セシムルモノトシ而シテ右ニ對シ英米等カ同調的態度ヲ採ル如ク所要ノ措置ヲ講スルモノトス

(イ) 本件爲替貿易管理ノ實施ニ付テハ豫メ英米等ニ對スル外交折衝ノ手段ヲ盡スノ外右管理ノ實行方法ニ付テモ其ノ本旨ヲ沒却セサル限り成ルヘク英米等第三

1089

國側トノ摩擦ヲ少クスル如ク努ムルモノトス
 (ロ)英米等ヲシテ本件通貨價值ノ安定策ノ實施竝ニ新中
 央政府ノ樹立工作其ノ他一般ニ我事變處理方策ニ對
 シ同調的態度ヲ採ラシムル爲前記ニ乃至六ニ掲ケタ
 ルカ如キ諸措置ヲ逐次實行ニ移シ行クモノトス

昭和15年2月24日 在独國來栖大使より
 有田外務大臣宛(電報)

現下の國際情勢判斷に基づく時局收拾策につ

き意見具申

ベルリン 2月24日後発
 本省 2月25日後着

第一七九號(極秘、館長符號扱)

一、事變ヲ中心トスル我對英米關係最近ノ經緯ニ關シテハ本
 省英米何レヨリモ何等轉電等ニ接シ居ラス從テ其ノ機微
 (例ヘハ最近米國大使重慶訪問ノ理由)ニ通シ居ラサルモ
 大体米國ハ通商條約ヲ廢棄ノ儘トシ今後モ我國ヲ獨蘇側
 ニ迫込マサル程度ニ於テ引續キ壓迫シ行クモノト認メラ
 レ蔣政權カ右米國ノ態度ヲ頼リ且「ベルサイユ」會議ニ

引續キ華府會議ノ行ハレタル前例ヲ目當トシ依然抗日ノ
 態度ヲ執ラントシツツアル次第ハ既ニ歐洲外交通ノ通念
 トナリツツアリ

二、米國現在ノ對日態度ハ民衆ノ對日感情又ハ大統領選舉戰
 ノ關係等一時的考慮ニ出テ居ル點勿論アリ得ヘキモ少ク
 トモ滿洲事變以來國務省部内ニ於テ我國ノ強大化乃至日
 支ノ提携ヲ阻止セントスル實際政治的考慮モ動キ居ルヤ
 ニ思考セラレ(「スチムソン」ノ「極東ノ危機」ノ如キ單
 純ナル條約尊重論ノミニアラサルハ御承知ノ通りナリ)
 大統領選舉終了後ニ於テモ形勢必スシモ好轉ヲ期スヘカ
 ラサルヘシ

三、從來我國ノ一部ニ於テハ日獨(又ハ日蘇)接近ノ掛聲ノミ
 ヲ以テ英米ノ反省ヲ促シ得ルヤニ考ヘ居リタルモノト觀
 測セラルルモ此ノ際我國トシテハ獨蘇協定以來ノ日獨關
 係冷却力單ニ英米ニ安心ヲ與ヘタルニ止リ對英米關係殊
 ニ日米關係好轉ニハ何等資スル所ナカリシ現實及米國カ
 日蘇ノ接近ヲ氣ニ病ミツツ重慶政權ト蘇聯トノ關係ニハ
 風馬牛ナル矛盾等ニ付充分詭味スルノ要アルヘシ

四、今次歐洲戰爭ノ前途ハ輕々ニ豫斷ヲ許ササルモ假ニ我國

一部ノ希望シ且豫想スルカ如ク戰爭長期ニ亘リ英獨共ニ傷ツキタリトスルモ米國蘇聯ハ恐ラク無傷ニ殘ルヘク又戰爭ノ結果英佛ノ勝利ニ歸スルモ或ハ英獨ノ妥協ニ終ルトスルモ孰レニスルモ日本ノ爲有利ナリト斷スヘカラサル次第ナルヲ以テ我國トシテモ慢然長期戰ヲ豫想シ又ハ之ヲ「神風」視シ晏如タルヲ許ササルモノアリト思考ス、如上ノ諸點ヲ考ヘ此ノ際我國トシテハ(イ)汪ノ新中央政權モ成立セントシ居ルト同時ニ事態茲ニ到リ英米ニ讓歩スルカ如キ印象ヲ與ヘ禍根ヲ將來ヘ貽サンヨリ寧口大乘の見地ヨリ蘇ト聯繫シテ堂々蔣二呼ヒ掛ケ新政權ニ合流ヲ迫リ蔣力拒絶シタル場合ニハ改メテ戰爭狀態繼續ノ責任ハ蔣政權及之ヲ援助スル諸國ニ在ルコトヲ明カニシ右戰爭狀態存續スル限り事態ニ依リテハ歐洲交戰國カ行使シツツアルト同様程度ニ交戰權ヲ行使スルノ決意ヲ表明セラルルコト(ロ)此ノ際帝國ノ國策再檢討ノ建前ヲ以テ内外ニ聲望高キ首相級ノ人物ヲシテ蘇獨伊英米ヲ歴訪セシメラルルコト等モ局面打解ノ一策ナラスヤト思考ス

時局收拾ニ關シテハ既ニ充分御研究ノコトト存スルモ歐洲ノ一角ヨリ見テ事態ハ可ナリ差迫リ居ルヤニ感セラレ

僭越乍ラ卑見稟申ス

米、伊、蘇へ轉電セリ

伊ヨリ英へ轉電アリタシ

~~~~~

1090

昭和15年3月13日

在上海三浦大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

### 重慶政權支援に關する英米仏三国大使の密談

#### 内容につき諜報報告

上海 3月13日後発  
本省 3月14日前着

第一一二號

XY情報(出所往電第三三號ノ通り)

十一日在重慶英米佛大使ハ王外交部長ノ招宴ニ臨ミ辭去後三者ハ佛大使館ニ赴キ會談セルカ米大使ヨリ米政府ハ極力支那援助スルコトニ決定シ隨時信用借款ヲ許可スルコトトナリタルカ對日「エンバーゴ」ハ米商人ノ熾烈ナル反對アルヲ以テ其ノ實行極メテ困難ナリ然レトモ日本ノ經濟力ハ漸次衰微シ其ノ歸趨ハ推シテ知ルヘク米政府カ目下其ノ對日「エンバーゴ」ヲ實施セサル所以モ茲ニ在リト述ヘ

次テ佛大使ハ佛政府トシテハ極東問題ニ關シテハ從來中立の態度ヲ採ルコトトナリ居リタル處最近ニ至リ右態度ヲ變更シ支那ヲ援助スルコトニ決定シ滇越鐵道ニ依ル兵器軍用品等ノ運輸制限ヲ撤廢シ鐵道ヲ擧ケテ重慶側抗戰資材ノ運輸ニ供スルコトトナリタリト述ヘ英大使ハ英トシテハ日支戰爭ノ急速停止ヲ希望シ何等カ方法ヲ講シテ停戰竝ニ講和方兩國政府ニ極力勸告スル心組ナルカ双方共妥協ヲ欲セスシヨ已ムヲ得ス從來ノ英ノ援支態度ヲ持續シ居ルニ過キス但シ援支ト言フモ僅ニ便宜ヲ許與シ居ルニ過キサル狀態ニシテ歐洲戰爭ノ關係上物的援助ヲ與フルコト困難ニシテ此ノ苦境ハ支那側ニ對シ注意シ居ル次第ナリト述ヘタル趣ナリ

1091

昭和15年6月7日

在独国来栖大使より  
有田外務大臣宛(電報)

独国が対中貿易増進の観点から重慶政権への  
接近を試み日本と同政権との和平仲介に関心  
を示している旨報告

第六五八號(極秘、館長符號扱)

ベルリン 6月7日前発  
本省 6月7日夜着

歐洲戦局ノ發展ニ伴ヒ重慶側カ對獨接近ヲ計リ來ル傾向アルハ當地ニ於テモ思ヒ當ル節ニ、三アリ注意中ナル處獨側トシテモ主トシテ重要物資入手等ノ關係ヨリ獨支貿易ニ相當ノ未練ヲ有シ殊ニ漢堡實業界ニ於テ然ルモノアルト共ニ獨側一部ハ今尙支那ニ於テ相手トスルニ足ルハ蔣ノミナリトノ考ヘ強ク(往電第三三二號參照)見込タニアラハ何トカ我方ト蔣トノ間ニ仲介シタキ氣持ヲ有スル樣認メラル去ル一日米内總理參内日支交渉ニ必要ナル條件ニ關シ上奏セラレタル趣ニ關聯シ蔣介石ハ或ハ汪政府ト妥協スルニナルヤモ知レスト報シタル東京U、Pノ如キハ可成是等分子ノ間ニ注意ヲ惹キタルニ相違無ク(數日前或席上ニテ在獨大使陳介モ本使呢懇ノ友人ニ對シ特ニ是ヲ話題トシ居リタル趣ナリ)就テハ最近ニ於ケル新政府トノ御交渉ノ經過大要電報相煩度シ尙蔣介石側近來ノ動向ト是ニ付テノ御考察本使含ミ迄御電示仰度シ

1092

昭和15年7月16日

在上海三浦総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

### 欧州戦局がもたらした重慶政権の親独傾向に

#### 関する情報報告

上海 7月16日前発

本省 7月16日前着

第一四五二號

最近歐洲戰ニ於ケル英佛ノ敗北ト米國ノ消極的態度等ハ重慶ノ英米佛依存ニ重大ナル動搖ヲ與ヘツツアルモノノ如ク現ニ六月七日獨支文化協會第五次年會ニ於テ會長朱家驊ハ親獨演說ヲ爲スト共ニ其ノ宣言ニ於テ獨支關係ノ増進ニ努カスヘキ旨明示シ(八日神州日報重慶通信)又十四日當地神州日報ハ獨蘇ヨリ獨支ヘト題スル社説ヲ掲ケテ獨蘇米支四國ノ集團安全保障運動ヲ提唱シ英國ノ頼ムヘカラサルヲ痛撃シ獨逸トノ提携ヲ極力主張スルアリ更ニ重慶各紙力舉ツテ米國ノ「モンロー」主義聲明ヲ攻撃セル十三日「ユーピー」電(往電第一四三四號參照)等ハ此ノ間ノ事情ヲ察知スルニ足ルヘク特ニ日本カ獨逸トノ積極的ナル提携ヲ躊躇シ又親米態度ヲ清算シ得サル間隙ニ乘シスル親獨的氣運ト米

1890

國ニ對スル懷疑的感情ノ助成ヲ見ツツアルハ重慶側今後ノ外交政策決定ノ一種ノ推進力ヲ爲スモノトシテ之ヲ重視スル向アリ御參考迄

北京、天津、南大、漢口、香港へ轉電セリ

~~~~~

1093

昭和15年8月9日

中国各地駐屯の英国軍隊撤退に関する情報部

長談話

駐支英國駐屯軍撤去方英國側通報ニ關スル須磨

情報部長談(八月九日午後六時四十五分)

八月九日午後六時在本邦英國大使館「ヘンダーソン」一等書記官西歐亞局長ヲ來訪本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ左記趣旨ノ公文ヲ手交ノ上同十五分辭去シタ。

記

英國政府ハ上海、北京及天津等支那各地駐屯ノ英國守備隊ヲ他ノ地方ニ服務セシムル爲撤退スルニ決定セリ尙北支ヨリノ軍隊引揚ニ關シテハ英國政府ハ一九〇一年九月七日附北京議定書カ關係諸國間ノ協定ニヨリ改訂又ハ廢棄セラル

ル迄右議定書ニヨリ一切ノ條約上ノ權利ヲ留保スルモノナ
リ。

編 注 本文書は、昭和十五年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第五號)」から抜粋。

1094

昭和15年8月18日 在仏国沢田大使より
松岡外務大臣宛(電報)

仏国が国際情勢の変化に応じ東亞政策を根本
的に改め日本と全面的に協調する方針へと転
換したとの観測報告

ヴィシー 8月18日後発

本 省 8月19日前着

第六九一號

在支佛國大使館一等書記官ニ新任セラレタル「ボウデ」
(Baudet)至急上海ニ赴クヘキ要アル趣ヲ以テ依頼アリタ
ルニ依リ當館ニ於テ斡旋ノ結果九月上旬里斯本出帆ノ諏訪
丸ニテ赴任ノコトトナレルカ館員カ同人ノ談話ヨリ得タル
印象ニ依レハ佛側ハ國際情勢ノ變化ニ應シ東亞政策ヲ根本

的に改メ全面的ニ日本側ト協調ノ建前ヲ採リ他面佛印問題
ニ關スル佛ノ對日讓歩政策ヲ理由附ケルト共ニ東亞ニ於ケ
ル佛國權益ヲ保持スル爲進ンテ汪政權承認方ヲ考慮シ始メ
居ルモノノ如ク同人ハ以前支那在勤時代ニ汪精衛ト面識アリ
汪ノ人物才幹ヲ稱讃シ居リタル趣ナリ右何等御參考迄

1095

昭和15年9月27日 松岡外務大臣より
在英國重光大使、在米國堀内大使他宛
(電報)

三国同盟發表に際し中国での対英米關係にお
いて特に何らかの措置に出て事を構えること
がないよう關係方面に訓令した旨通報

付 記 昭和十五年九月二十七日發柳川興重學院總務長

官より森岡(皇)華北連絡部長官、津田華中連
絡部長官他宛電報第四四七一号

右訓令

本 省 9月27日發

合第三一八六號(極祕、館長符號抜)
往電合第二一二七二號ニ關シ

本件發表ニ伴ヒ支那ニ於テ租界其ノ他第三國ノ權益ニ對シ特ニ何等カノ措置ニ出テ又ハ排英排米運動ヲ起ス等我方ヨリ事ヲ構フルカ如キコトハ嚴ニ差控フヘキ旨當方及陸海軍ヨリ夫々其ノ出先ニ訓令セリ右貴官極祕御含迄

編 注 本電報の宛先は、在英米独伊の各大使。

(付記)

昭和十五年九月二十七日午後發信

總務長官

華北、華中、蒙疆、厦門各長官

青島出張所長、廣東事務所長 沼書記官 宛

南京日高隨員

政府ノ外交方針ニ關スル件

東京發電第四四七一號

二十七日夜重要外交案件ニ付政府ヨリ發表アルベキ處、本件ニ關シ政府ノ外交方針ハ今後米英等ニ對シ彼等ガ我國策ノ遂行ヲ飽ク迄モ妨害セントスル場合ニ付テハ重大ナル決意ト準備トヲ以テ之ニ對スベキモ差當リハ彼等ヲシテ我國

策ヲ諒解シ之ニ協力セシムル如ク施策セントスルニ在ル次第ナリ、從テ支那ニ於ケル彼等ノ諸權益等ニ就テモ徒ラニ之ヲ排斥スルコトナク慎重ナル態度ヲ以テ之ニ對セントスルモノナルヲ以テ此點充分御含ミノ上「靜ナルコト林ノ如キ」態度ヲ持スル様各方面ヲ指導相成度シ尙陸海外各省ヨリモ夫々出先ニ對シ以上ノ趣旨ヲ電報濟ミナリ
本電宛先 華北、華中、蒙疆、厦門各長官、青島出張所長、
廣東事務所書記官
通報先 南京日高隨員

1096

昭和15年11月23日

在伊國天羽大使より
松岡外務大臣宛(電報)

事変処理および日ソ国交調整に関するムツソ
リーニ伊國首相との意見交換について

第一一八三號(極祕)

⁽¹⁾ 二十三日朝「ムツソリーニ」ヲ訪問「チアノ」臨席ス
「ム」先ツ本使ノ離任ニ對シテ極メテ懇切ナル挨拶アリタ

ローマ 11月23日後發
本省 11月24日夜着

ルニ付本使モ暇乞ノ挨拶ヲ爲シタルカ「ム」ハ次イテ日伊間ハ三國條約締結以前ヨリ事實同様ノ關係ニアリタリト日伊友好關係ヲ強調シタル後日本カ速ニ支那事變ニ對シテ成功センコトヲ祈ルト言ヘルニ付本使ハ之ニ和シタル後伊太利カ常ニ日本ノ政策ヲ支持セル次第ヲ謝シタルニ「ム」ハ自分ノ考ニテハ日本ハ此ノ際出來得ルタケ蘇聯及支那ニ對スル關係ヲ緩和シ先ツ英國次イテ米國ニ當ルヲ至當トスルカト思フト述ヘタルニ付本使ハ多分御聞込ノコトト思ハルルカ目下我國ト蘇聯トノ關係ヲ改善スル爲ニ交渉ヲ爲シ居リ又支那ニ對シテハ汪政權トハ條約ヲ調印スル運トナリ居ルモ蔣介石政權内ニ動搖アリテ和平ノ氣運モアル様子ナルヲ以テ若シ出來得レハ蔣政權ヲモ抱込ム積リニテ進ミ居リ他方獨伊トノ關係ヲ出來得ル限リ強化シ英國ニ當ラントスル方針ニテ動キツアルヤニ思ハルト述ヘシニ「ム」ハ蘇聯邦トノ話合ハ成功スルヤト聞ケルニ付本使ハ詳細ハ知ラサルモ我方ニ於テハ成功スル積リナルカ如シ唯自分ノ蘇聯邦ニ對スル經驗ニ依レハ蘇聯相手ノ仕事ハ仲々六ヶ敷ク殊ニ蘇聯ノ考方ハ可ナリ複雑ナルヤニ認メラルト答ヘシニ「ム」ハ自分ノ考ハ此ノ際日本ハ蘇聯ト大キナ根本問題ヲ

極メルヨリモ兎モ角先ツ少シテモ「デタント」シ得ル問題ヲ極メル方賢策ナルヤニ思フト述ヘ

次テ蔣政權ハ妥協スヘキヤト問ヒタルニ對シ本使ハ蔣政權ハ大分弱リ居ル様子ナルモ自分限リノ印象ニテハ蔣介石ハ仲々抗爭ヲ止メサルヘク之ヲ抱込ムモ簡單ニハ行カサルヘシト思フト答ヘタルニ「ム」ハ右ハ外國ノ援助アル爲カ何國カ援助シ居ルヤト問ヘルニ付右ハ支那特異ノ狀態ニ依ルモノナルモ尙蔣政權ハ英米蘇聯邦等ノ有形無形ノ援助ヲ頼ミトシ居ルナルヘシト答ヘタル後蘇聯邦及支那ノ日本ニ對スル關係ハ鮮カラス歐洲戰爭ノ情勢ニ支配セラルヘシト述ヘタルニ「ム」ハ寔ニ同感ナリト言ヘルニ付本使ハ戰爭ハ永長キ且益々深刻トナリツツアルニアラスヤト言ヘルニ「ム」ハ自分モ全然同様ニ考ヘ居レリト強ク述ヘタリ

三次テ本使ハ過日貴總理ノ演說中ニ獨伊ハ佛國ニ對スル要求ヲ貫徹ストノ意味アリシカ佛國ハ之ヲ容ルルニ難色アリヤ又佛蘭西ノ阿弗利加及亞細亞ニ於ケル植民地ハ如何ト問ヒシニ「ム」ハ伊太利ノ要求ハ平時ノ場合ト同様ニテ正當且合理的ノモノナリ獨逸モ亦然リ併シ亞細亞ニ於ケル佛領植民地ニハ觸レ居ラス尤モ「蘭印ノ立場ハ」ト言ヒ掛ケテ

「日蘭交渉ハ如何ニナレルヤ」ト問ヒシニ付目下尙交渉中ナルモ三國條約ノ結果英米ノ壓迫益々加リ來リタルヤニ聞キ及ヘリト答ヘタル上伊太利ノ蘭印ニ對スル態度ハ明カナルモ獨逸ハ如何ト反問セシニ「ム」ハ判然シタルコトヲ聞カスト答ヘタリ

右話中ニハ伊太利及「フアシズム」ニ關スル雜談等アリタル爲最早ヤ三〇分近ク經過シタルカ此ノ時隣室ニテ待チ居ル閣員等ノ「ム」接見時間ニ大分喰込ミタル爲爾餘ノ問題ハ近日「チアノ」トノ會見ニ譲リテ辭去シタリ

獨、蘇ヘ轉電セリ

蘇ヨリ英ヘ轉電アリタシ

往電第一一八一號獨、蘇ニ轉電シ蘇ヨリ英ニ轉電セシメタリ



1097

昭和16年2月9日
在中国日高臨時代理大使より
松岡外務大臣宛(電報)

重慶訪問から帰還したコスム仏国大使が語つた重慶の状況や事変をめぐる仏国の立場に関する内話要領について

第八七號

七日佛國大使ヲ上海ニ往訪ス内話要領左ノ通り

南京 2月9日後発
本省 2月9日夜着

一、昨年十月上海ヨリ河内經由國境迄汽車、夫ヨリ約六十軒徒步聯絡ノ上汽車ニ乗り繼ギ昆明ニ到着爾來主トシテ重慶ニ在リ成都ニモ往復シ今回ハ空路香港着ノ上政府ノ命ニ依リ佛印(主トシテ西貢)ニ行キ總督ト共ニ滯貨問題其ノ他日支關係諸問題處理ニ當リタル後歸滬セリ數日中ニ北京ニ行キ暫ク滯留ノ筈主トシテ財政上ノ見地ヨリ上海大使館事務所ハ閉鎖セルモ時々上海ニ來ルコトトナルヘシ重慶ニハ「プロ」書記官ヲ留メアリ(空爆ニ依リ壁ニ大穴ヲ開ケラレ居ル重慶佛大使館ノ寫眞ヲ示セリ)

二、重慶市街ハ空爆ニ依リ破壊サルルモ翌日ハ同シ場所ニ何カ建テラレ市民ノ日常生活ハ餘リ亂サレス一般ニ落着キ居ルニハ感心セリ共產軍ハ支那ニ取り將來ノ大問題ナルコトハ自分モ同感ニシテ蔣政府ト共產黨トハ相容レサルモ重慶ニテハ兩者ノ軋轢餘リ表面ニ現ハレ居ラス蘇聯大使ハ極メテ觸リ善キ人物ナルカ大使館トシテハ活動シ居

ラス何ト云ツテモ米國大使館カ重キヲナシ大ニ活躍シ居レリ但シ傳ヘラルル米國ノ對支援助ハ支那ノ爲ニ氣勢ヲ添フルカ主ニシテ實質的ニハ現實ニ對價ヲ要求スル物資ノ供給ニ止ルモノト思フ夫レトテモ「タイヤ」「ガソリン」等カ主ニシテ傳ヘラルル程ノコトニ非ス(佛國ノ鐵道借款モ現實對價ヲ受クル程度ニ應シ材料ヲ供給スルモノニシテ所謂借款ニ非ス)

三、佛國トシテハ極メテ困難ナル立場ニ在リ

自分ノ重慶行モ日本軍ノ佛印進駐ニ關シ重慶政府ニ説明スルコトカ主眼タリシカ自分ハ重慶ト日本トノ間ニ立チテ現實ニ即シタル態度ヲ持續スヘク苦心シ居レリ上海周邊カ日本軍ニ占據セラレ南京政府ノ治下ニ在ルハ事實ナレハ法院問題等ニ付テモ自分トシテハ右ノ事態ニ即シ解決ニ骨折リタル次第ナリ(自分ハ蔣ニ對シ法官ノ二重鑑札ヲ認ムヘシト說ケルモ蔣ハ建前上之ヲ容レス結局大部分ノ法官力寢返リタル事實ヲ暴露シタルコトナリ却テ彼ノ面目ヲ潰シタル様ニ感シ居レリ)佛印ニ於テ澄田少將ハ評判良ク諸事大體圓滑ニ處理セラレ居リオ互ニ些細ノ事ニテ感情ノ疎隔ヲ來スコトヲ避ケ大局ヲ見打開法ヲ

纏メ行ク様致度シ

四、伊太利ノ汪政權承認ハ近ク實現スルコト可能ト思フモ獨逸ハ重慶方面ニ大ナル「インタレスト」ヲ有スル故中々承認セサルヘシト思フ

右ニ對シ本官ヨリ事變處理ニ對スル政府ノ決意及國民政府ノ環境竝ニ汪主席以下ノ心境ヲ説明シ此ノ上共現實ニ即シタル態度ニ出ツルノ要ヲ說キ佛租界官憲及住民ニ對シ今一層大使、總領事等ノ現實政策ヲ徹底セシムルコトヲ要望シ置ケリ

北京、上海へ轉電セリ

~~~~~

1098

昭和16年2月28日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛

カリ―米国特使の使命や対重慶援助問題など  
に関するUP通信極東支配人の通信および談

話要旨報告

普通第五八九號

昭和十六年二月二十八日

在上海

(3月3日接受)

總領事 堀内 干城〔印〕

外務大臣 松岡 洋右殿

「モーリス」ノ通信及談話要旨報告ノ件

「ユーピー」極東總支配人「モーリス」ハ最近重慶ヲ視察シ歸滬ノ途香港ヨリ米國宛通信ヲ發シタルカ右通信ノ要旨竝ニ之ニ關聯シテ「モ」カ館員ニ對シテ爲セル談話ノ要旨〔括弧内〕左ノ通

支那カ決定の勝利ヲ獲得スル爲ニハ米國ヨリ尙多大ノ援助ヲ受クルコト必要ニシテ支那側ハ米國ノ援助ノ強化ヲ當テニシテ將來ニ對スル自信ヲ保持シ居レリ米國側消息通ハ「カリ」カ齋スヘキ情報ニ依リ米國ノ對支援助ヲ最有效ナラシムヘキ基礎ト方法カ案出セラレンコトヲ希望シ居リ一般外人筋ニ於テモ重慶政府ハ米國ノ援助ノミナラス「クレヂット」及物資ノ使用ニ關シ米國側ノ「アドヴァイス」ヲモ受クル用意有ルモノト考ヘ居レリ米國側提係ノ「クレヂット」及物資ノ御蔭ニテ蔣介石ハ重大ナル内部の危機ヲ脱スルコトヲ得タルカ最近ノ事態ヲ見ルニ單ナル「クレヂット」及物資以上ノ援助カ必要ナルヤノ感有リ現在迄蔣介石ハ米國ノ物質的援助ニ力ヲ得テ和平派ノ策動ヲ封シ「イ

ンフレーション」及商品ノ退藏ヨリ生セル重大ナル問題ヲ解決シ又内亂勃發ノ虞スラ有リタル共產黨ノ反抗ヲモ彈壓スルヲ得タリ

〔「カリ」〕派遣ノ「イニシアチヴ」及同人ノ使命ニ關シテハ諸説有ルモ自分ハ「カ」ハ元來米國大統領カ派遣セルニ非スシテ重慶側ヨリ招請セルモノト考ヘ居リ又同人ハ米國側ノ「アドヴァイス」ヲ押付ケントスルモノニ非スト聞キ居レリ從來米國ヨリ提供セル物資ノ使用法ハ技術的ニ頗ル拙劣ニシテ充分ノ能率ヲ上ケ居ラス單ナル「クレヂット」或ハ物質上ノ援助ヲ與フルノミニテ其使用法ヲ支那側ニ任セ置キテハ充分ナラス各方面ニ専門的「アドヴァイス」ヲ必要トスヘク現ニ道路建設ニ付テハ米人技師ヲ招聘シタルコト有リ一部米人中ニハ飛行士ヲモ提供スヘシト言フ者モ有リ但シ米支間ニ技術的「アドヴァイス」ニ關スル正式協定有リヤ否ヤハ聞知セス恐ラク「カリ」モ右ノ如キ實情ヲ報告スヘシ蔣介石カ米國ノ援助ノ御蔭ニテ内紛ヲ解決シ得タリト言フハ米國ノ援蔣物資カ直接右目的ノタメ使用セラレタリトノ意味ニ非スシテ間接ニ抗戰意識ヲ強化シ蔣ノ地位ヲ有利ナラシメ

タリトノ意味ナリ政治上經濟上ノ種々ノ内紛或ハ高級官吏ノ瀆職事件等ノ諸問題中最重大ナリシハ勿論國共ノ衝突ナリシカ之モ尠クトモ一時的ニハ鎮靜ニ歸シタルモノノ如ク又和平派ノ策動モ昨年十二月以來封セラレ居ルモノノ如シ從來和平派ノ首腦ハ孔祥熙等ナリシ趣ナリ「ジョンソン」ノ交送理由ニ付テハ種々ノ臆説有ルモ私見ニ依レハ「ジ」ハ寧ロ「フィロソフィカル」ナル人間ニテ「エナージエティック」ナラサリシ故ニ非スヤト考ヘラル

昨年下半年期ニ於テ蘇聯ノ對蔣援助ハ稍減少セルモ右ハ歐洲情勢ニ基ク蘇聯自身ノ必要ニ依リタルモノニシテ蘇支關係ノ變化ヲ示スモノニ非ス蘇聯ハ航空其他ノ技術家ヲ支那ヨリ引上ケ支那ヲシテ其有難味ヲ悟ラシメントシタルヤモ知レス但支那側ニ於テハ現在程度ノ援助ヲ以テ満足シ居リ又將來ハ一層大ナル援助ヲ受ケヘキコトヲ確信シ居レリ日蘇和解ハ蘇聯ノ對蔣援助ヲ妨ケヘキモ支那側ニ於テハ此ノ和解ノ可能性無シト考ヘ居リ重慶ニ於ケル蘇聯大使ノ言モ右見解ヲ裏書スルモノノ如シ

(最近蔣ハ新四軍ニ大彈壓ヲ加ヘタルカ右ハ勿論蘇支關

係ニ一時的の影響ハ及ホシタルヘキモ蘇聯ト新四軍トノ關係ハ蘇聯ト八路軍トノ間ノ如ク密接ニ非ス國共ハ抗日ノ目的ノ爲ニハ一應ノ妥協ニ達スルコト可能ニシテ然ル後ハ蘇支關係ハ却テ好轉シ從テ蘇聯ノ對蔣援助ハ一層強化セラルル可能性有リ蘇聯大使ノ言云々ハ自分カ「インターヴュー」セル譯ニハ非スシテ大使カ出席セル宴會ニ自分モ出席シ居リタル次第ナルカ大使ハ上機嫌ニテ蘇支カ友好關係ヲ維持スヘキ旨語リタリ英米蘇支間ノ軍事協定說ハ聞知シ居ラサルモ日米開戰ノ曉ニハ締結セラルルモノト思考ス)

滇緬公路ヲ經テ自動車ニテ來渝セル外國人(米國軍人)ノ言ニ依レハ日本軍ノ爆撃ニテ鐵橋破壞セラレタルニ依リ「メコン」河ノ兩側ニ多數ノ「トラツク」停滯シ居リ目下渡舟ニテ渡河シ居ル處外人筋ニテハ同公路ニ依ル現在ノ輸送方法及橋梁ノ防禦施設ハ多大ノ改良ノ餘地有ルコトヲ認メ居リ本件モ「カリー」ノ注意ヲ惹クヘキ一問題ナルヘシ

(英或ハ米ノ援助ニテ同公路及橋梁ノ防禦法ヲ講スルコト例ヘハ高射砲ノ配備等ヲ行フヤノ噂ハ承知シ居ラサルモ英支或ハ米支間ニ軍事同盟締結セラルレハ當然行ハル

ヘキコトナルヘク米國カ對蔣援助ヲ強化セントスレハ同  
公路ノ改良ハ絕對ニ必要ナルヘク又昆明ヨリ「カルカッ  
タ」ニ至ル公路ノ建設計劃有ル趣ナルモ之ハ數年ヲ要ス  
ヘシ西北「ルート」ノ改良乃至新設ニ付テハ何等聞知セ  
ス

「ユーピー」及「エーピー」ノ當地支局カ閉鎖セラルル  
ヤノ噂ハ事實無根ナルカ唯「ユーピー」ハ從來上海ヲ極  
東ノ中心トシ一切ノ電報ハ上海ヲ經由スルコトナリ居  
リタルモ最近ハ電報料高額ナルニモ拘ラス「マニラ」ヲ  
通スルコトトナリ居リ實際上ノ極東總支局ハ「マニラ」  
ニ移リタル形ナリ云々

右通信寫何等御參考迄別添送付ス

見当ラズ

1099

昭和16年3月15日 在北京土田大使館參事官より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

對重慶和平工作や南京政府承認問題などに關  
する独国代理大使の内話について

北京 3月15日後発  
本省 3月15日夜着

第一六五號(極秘)

十四日獨逸代理大使「アルテンブルグ」ハ川崎ニ對シ要旨  
左ノ通り内話セル趣ナリ

「在重慶「ノルテ」書記官ヨリノ報告ニ依レハ

(イ)「カリー」特使ハ經濟金融方面ノ調査ヲ主タル目的ト  
シテ赴渝セルモノト認メラルル處重慶側ヨリ充分ナル  
資料ノ提供ナカリシ爲失望セル模様ナリ

(ロ)「カ」カ抗日戰強化ノ爲國交關係調整ニ關シ重慶側ニ  
對シ或種ノ政治的壓迫ヲ加ヘタリトノ報道各方面ニ傳  
ヘラレタル處「カ」カ斯カル工作ヲ試ミタル形跡ナシ  
(ハ)「ジョンソン」大使ハ「カ」ノ渡支ニ關シ事前ニ華府  
ヨリ何等ノ通報ヲ受ケ居ラス「カ」ノ派遣ハ全ク大統  
領ノ獨斷ニ依ルモノノ如シ

ニ、日本ノ對重慶和平工作ニ關シ重慶側ハ數ヶ月前迄ハ全面  
和平ニ對シ一縷ノ望ヲ懷キ居リタル模様ナルモ右ハ日本  
ノ汪政權承認ニ依リ消滅セリ  
右ニ關シ自分(ア)ノ納得シ得サルハ在東京獨大使ハ松  
岡大臣カ蔣介石ト直接交渉ヲ試ミ居リ成功見込アル旨ヲ  
報告セル處前記「ノルテ」書記官ノ報告ニ依レハ右交渉

ハ蔣ノ所迄達シ居ラサル由ナリ

三、獨ノ汪政權承認ニ關シ日本側ニ於テ重慶ヲ相手トセス汪政權ヲ支那唯一政府トシテ獨ノ承認ヲ慫慂セラルルニ於テハ之カ現實方取連ハルルモノト思考スル處日本側ニ於テ今尙對重慶工作ニ望ヲ囑シ居ラルルカ如キ模様ナルノミナラス獨ノ英本土攻撃ニ依リ歐戰大勢ハ遠カラス決定ヲ見ルヘク其ノ結果重慶ハ全面的ニ英米依存政策ノ放棄ヲ餘儀ナクセラレ日本ト妥協シ和平ヲ現實化セシムルコト豫想セラルルヲ以テ獨トシテハ事實ノ推移ヲ見送り日支關係ニ見極メヲ付ケタル上ニテ本件承認問題ヲ最後のニ決定スルモノト認メラル

南大、上海、天津へ轉電セリ

香港へ轉電アリタシ

1100

昭和16年3月18日

在中国本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

對重慶和平工作や日ソ国交調整などに関する  
伊国大使の内話について

第一五六號(極秘)

南京 3月18日後発  
本省 3月18日後着

十五日上海ニ於テ伊国大使ハ日高參事官ト會合ノ際松岡大臣ハ重慶トノ和平工作ヲ考ヘ居ラルル模様ナルカ最近ノ重慶ノ情勢ハ右工作ニ好都合ノ方向ニ動キツツアル様ニモ見受けラルル何レニスルモ日本カ國民政府ヲ助ケ善政ヲ布ク爲手腕ヲ振ハシムルコトカ第一義ナリトテ從來ノ如クニハ伊國ノ急速南京承認論ヲ高調セス又松岡大臣ノ歐洲行ニ關シ日蘇關係ノ調整カ事變處理上重要ナリト述ヘ(同席ノ獨逸總領事「フイツシヤ」ハ右ハ相當困難ナラント云フカ如キ面持ヲナセリ)「カリー」ノ重慶行ハ調査ニ止マリ何等具體的ノ成果ヲ舉ケサルヘシト云ヒ獨逸總領事モ同感ヲ表シタリ

北大、上海へ轉電セリ

1101

昭和16年4月8日

在仏国原田(健)臨時代理大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

仏国が新たに任命した駐華大使が重慶に赴任

すれば日本の対仏世論を刺激すべき旨仏国外  
務当局へ注意喚起について

ヴィシー 4月8日後発

本 省 4月9日前着

第一九九號(至急)

往電第一九八號ニ關シ

八日青木亞細亞局長ヲ往訪駐支佛國大使ヲ新ニ任命セラレタル趣ナルカ右任命ニ關シテハ日本政府ニモ通報濟ナリヤ同大使ハ重慶ヘ「アクレヂット」セラレ居リ同地ヘ赴カルル豫定ナリヤト質シタル處同局長ハ自分ノ知ル限りニ於テハ任命ニ關シ日本政府ノ了解ヲ求メタルコトナク又同大使ハ日本經由先ツ北京ヘ赴任其ノ上ニテ重慶ヘ赴任スヘシト答ヘタルヲ以テ青木ヨリ客年十月「コスム」大使ノ重慶行ニ對シ日本政府ヨリ右カ非友誼的行爲ナル旨申入レタル經緯アリ又九月末前外相「ボードワン」氏ハ澤田大使ニ對シ汪兆銘政府ニ對シ友好的態度ヲ考慮スヘキ旨言明セラレタル様承知シ居ル處日本政府力汪政府ヲ既ニ承認シタル今日佛國力又々大使ヲ重慶ヘ派遣セラルルコトハ必スヤ日本ノ輿論ヲ刺戟スヘク客年八月ノ松岡「アンリ」協定ニ照ス

モ面白カラスト思考セラルル點ハ注意アリタク自分ハ本日ノ會議ヲ直ニ東京ヘ報告スヘク原田代理大使モ明日ハ歸任セラルル豫定ナレハ何レ其ノ上ニテ何分ノ儀御話スルコトトナルヘキ旨申入レ置キタル趣ナリ



1102

昭和16年6月5日 在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

スタンダード石油に対し灯油の中国奥地搬出  
許可を条件として高オクタン価ガソリンの入  
手方工作について

別 電 昭和十六年六月五日發在上海堀内総領事より

松岡外務大臣宛第九一六号

右工作要領

上 海 6月5日後発

本 省 6月5日夜着

第九一五號

貴電第一五三號及第一五四號ニ關シ(中支石油買付ニ關スル件)

一、本件外貨五百萬圓ニ依ル外油工作ニ關シテハ適々客年十

一月頃興亞院華中連絡部及陸軍渉外部ニ於テ「スタンダード」ニ對シ燈油ノ奧地搬出ヲ條件トシ高度「オクタン」價「ガソリン」ノ入手方工作シ其ノ結果不取敢八十六「オクタン」航空用「ガソリン」五萬「ドラム」發註スルコトトナリ居リタルカ東京方面ノ反對ニテ實現スルニ至ラサリシ經緯アリタル趣ヲ以テ爾來右工作ト本案トノ關係及其ノ他技術的問題等ニ關シ華中連絡部ト本院トノ間ニ數次聯絡打合行ハレ居リタルカ最近大體意見ノ一致ヲ見タルヲ以テ愈々大要別電第九一六號ノ「ライン」ニテ外油側ト交渉ヲ開始スルコトニ當地關係官廳間ノ話合成レリ

二、右ニ關シ我方交渉ノ擔當者タル陸軍渉外部ニ於テハ客年末交渉ノ經驗ニ鑑ミ且最近ノ國內情勢力更ニ惡化シ居ルヲ以テ興亞院及軍方面ノ希望シ居ル高度「オクタン」價「ガソリン」ノ入手ハ至難ナル旨竝ニ燈油ノ無條件奧地搬出及華人代理店ノ販賣等ノ點ニ付更ニ總軍經理部方面ノ同意ヲ取付クル要アル旨申シ述ヘ居レリ

三、當方トシテ(イ)最近奧地ニ於ケル燈油缺乏シ民生上惡影響アルコト(ロ)此ノ機會ヲ失シテハ將來我方ニ於テ全占領地

域ノ燈油供給ノ全責任ヲ負ハサルヘカラサルコト及(ハ)假ニ高度「オクタン」價「ガソリン」ノ入手方成功ヲ見サルモ我方ニハ何等實損ナキコト等ノ理由ヲ擧ケテ此ノ際餘リ無理ナル條件ヲ出サス本件即時實施方關係方面ヲ説得シ居レリ

別電ト共ニ南大ヘ轉電セリ

(別電)

上海 6月5日後發  
本省 6月5日夜着

第九一六號

外貨五百萬圓ニ依ル外油工作要領大要左ノ通り

一、我方ニ於テ必要トスル石油類ノ輸入ヲ條件トシテ外油ノ燈油奧地搬出ヲ許可スルコト(右ニ關シ陸軍渉外部ニ於テハ先ツ石油ノ奧地搬出ヲ許可シ然ル後高度「オクタン」價「ガソリン」ノ供給方交渉ノ外ナシト主張シ居ルニ對シ興亞院等ニテハ無條件搬出許可ハ面白カラサル旨申シ居レリ)

二、差當リ「スタンダード」ノミニ對シ工作シ「アジア」及

「テキサス」ニ對スル工作ハ「ス」ニ對スル工作ノ成否ヲ見テ着手スルコト

三、「ス」トノ交渉ハ陸軍渉外部ニ一任シ民間側其ノ他ノ工作ハ當分ニテ嚴禁スルコト

四、航空用揮發油等ノ購入方法

(イ) 外貨五百萬圓ヲ充當スルコト (ロ) 右ハ正金上海支店ニ外貨ヲ以テ送金シ置クコト (ハ) 上海 A I F カ又ハ上海外油「タンク」ニ於テ引取ルコト (ニ) 三井上海支店ヲ引取人トスルコト (ホ) 購入ニ關スル統制ハ華中連絡部之ニ當ルコト

五、購入揮發油等ノ配分ハ企畫院ノ査定ヲ受クヘキコト

六、外油ニ依ル燈油奧地搬出方法  
(イ) 搬出者ハ「ス」ノ支那人代理店トスルコト (ロ) 運搬船ハ日本船トスルコト (ハ) 貯油所ハ「ス」ノ「タンク」又ハ倉庫ヲ利用スルコト

七、燈油ノ奧地販賣ハ日本軍ノ監督ノ下ニ行ハシムルコト  
八、燈油搬出地迄ハ差當リ我軍ニ於テ充分ナル統制ヲ實施シ居ル南京及蘇州地區トスルコト

1103

昭和16年7月16日 在香港矢野總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 英米中ソ四國軍事同盟說に關する情報報告

香港 7月16日後発

本省 7月16日夜着

#### 第三四三號

<sup>(1)</sup> 最近ノ英米蘇支關係左ノ通り

一、十五日 P A ハ館員ニ對シ最近郭泰祺カ英米蘇各大使ト會談セル關係モアリ四國軍事同盟說盛ニ流布セラレツツアル處重慶側ト關係深キ自分(P A)ノ友人ハ何レモ之ヲ否定シ居リ自分モ亦未タ斯ル時機ニ立至リ居ラサルモノト考ヘ居レリ即チ四國關係ノ現狀ヲ觀ルニ(イ)蘇聯ハ獨蘇開戰後ハ勿論開戰前ニ於テモ三四ヶ月ニ亘リ重慶側ニ何等物資ヲ供給シ居ラス又英米ハ懸案ノ平準基金五百萬磅及同額ノ對支輸出借款ヲ實行セルノミニテ援助ノ見ルヘキモノナク(重慶側ノ最モ必要トスル飛行機ハ最近米國ヨリ供給ヲ受クル迄ハ英米蘇獨伊等諸國ノ製作ニ係ル極メテ舊式ノモノ二百機ニ過キサリシ事實ハ之カ一證左タリ)(ロ)重慶側ハ英米トノ間ニ部分的の空軍合作ヲ企圖シ居

ルモ之亦話合シカラサル一方(ハ)曩ニ「カリー」赴渝ノ際重慶側最モ訓練アル部隊ヲ英國ニ融通方申入レタルカ本件ハ今猶纏マラス又(ニ)米國ヨリ萬一日本カ南進セル場合ハ海岸線ニ近キ重慶側飛行場ヲ基地トシテ借用方申入レタルニ對シ重慶側ハ欣シテ同意セルモ地點サヘ未タ決定ヲ見サル有様ナリ尤モ米ノ援助ハ最近相當積極化セルカ元來米ノ對支援助ハ政治經濟方面ハ別トシ軍事的ニハ重慶側ノ抗戰ニ對シ「カンフル」注射ノ役目ヲ果サシムルト共ニ自國ノ軍人ヲシテ實戰ノ經驗ヲ得セシメ更ニ最惡ノ場合ニハ支那ニ對日作戰ノ足場ヲ得ントノ底意ヲ有スルモノナルカ目下ノ處其ノ援助ノ内容ハ政治的ノモノヲ除キ

(イ)緬甸路線ノ改善ニ依ル輸送能力ノ増進(ロ)飛行機「トラツク」ヲ主トスル軍需品ノ供給、操縱士其ノ他技術員ヲ派遣シ重慶側空軍ノ指導訓練ニ任シ且一部ハ實戰ニ協力スル範圍ヲ出テ居ラサル旨内話セリ(情甲)

二、馮志忠カ陳公甫ヨリ得タル所ニ依レハ最近郭泰祺カ英米蘇各大使ト會談セル際(イ)米大使ハ私見ナリト斷ハリタル上米ノ政策ハ獨蘇開戰前ノ蘇聯ノ夫レト一脈相通スルモ

ノアリ勿論民主國家ニ對シテ銳意積極的ニ援助スルモ出來得ル限り自國ノ參戰ヲ避ケントスルモノナリト稱シ極東問題ニ關シテモ目下ノ處軍事同盟乃至其ノ行動上極度ノ制限ヲ受クヘキ條約ノ締結ヲ欲セス萬一日本カ獨蘇戰ニ參加スルコトアルモ米ハ中立的立場ニ於テ蘇聯ヲ援助スヘキ旨仄カシ(ロ)蘇聯大使ハ目下蘇聯ハ大軍ヲ出動セシメ居ルモ食糧其ノ他軍需品ニ事缺キ居ラス從テ重慶側ニ對シテハ尠クトモ從來ノ關係ヲ持シ得ルモノト確信シ居ル處萬一日本カ參戰スルコトアラハ重慶側ハ全線ニ亘リ反攻シ以テ日本ヲ牽制セラレ度シト述ヘ又(ハ)英大使トノ間ニ於テハ香港ニ最惡ノ事態發生セル場合ハ英支聯絡地トシテ甲谷陀ヲ利用シ且香港ニ重慶側總領事館開設(初代總領事ニハ余<sup>北</sup>。祺。内定シ居ル由)ニ關シ協議セルノミニテ軍事問題ニ付テハ突込ミタル話合ナカリシ趣ナリ(情乙)

三、當方面識者ハ四國軍事同盟ハ機未タ熟サス日米關係カ現在以上惡化セサル限り實現ノ可能性ナシト觀ル向多キ處姚<sup>蘇</sup>。鳳。(且テ宋子文ノ知遇ヲ受ケタルカ宋渡米後孔祥熙ニ見込マレ同人經營ノ先報總編輯ニ起用セラル財政部委

員ニシテ孔ノ情報ニモ關係シ又米國留學出身ナルヲ以テ外人トハ交際極メテ廣シノ齋ス所ニ據レハ重慶側ハ日米兩國カ互ニ衝突ヲ避ケントシツツアル一方猜疑嫉視シ居ル事情ヲ知悉シ兩國關係ヲ惡化セシメントノ魂膽ヨリ故意ニ根モ無キ四國同盟說ヲ流布シツツアリトノコトナル處外交部辦事處側ヨリ得タル情報ニ依レハ最近重慶側ハ胡適及宋子文ニ對シ米ノ對支援助ノ積極化竝ニ日米妥協阻止方訓令セル趣ニモアリ本件ハ考慮ニ値スルモノアリト思料セラル尙最近ノ米ノ對支援助狀況左ノ通り(P A)

(イ)「トラツク」ハ約半數到着セリ(往電第三一八號御參照)

(ロ)飛行機ハ約百臺到着セリ第一回分トシテ八十機供給ノコトニ話合成リ居タルカ其ノ後三百臺ニ増加セラレ(華僑獻納ノ分約百機ヲ含ミ且二十機ハ「ボーイング」B一七型ナリ)大體十月迄ニ輸送ヲ了スル筈

(ハ)操縦士、技術員ハ百名餘到着セルカ内操縦士ハ四十名ニシテ目下重慶側人員ノ訓練ニ任シ居レリ尙香港ヨリモ時折米國高級將校赴渝シツツアルカ彼等ハ身分ヲ隱

シ極祕ニ行動シ居レリ其ノ數多カラス今次米ヨリ供給ノ飛行機ハ相當優秀ナルモノニシテ未タ支那人ニハ操縦出來サル一方既着ノ米國飛行士ハ少數ナルヲ以テ日本機ノ空襲ニ當リ尙沈黙ヲ守リ居レリ(情甲)

南大、漢口、北大、天津、上海、廣東、滿大へ轉電アリタシ



1104

昭和16年7月22日 在北京土田大使館參事官より  
豊田外務大臣宛(電報)

華北・蒙疆地方におけるわが方特殊地位に重大な影響を及ぼすような通商条約の締結を中獨間に認めるべきではない旨意見具申

北京 7月22日後発

本省 7月22日夜着

第四六五號

南大宛貴電第三〇〇號ノ一後段ニ關シ(國府承認後ニ於ケル獨支通商條約及治外法權ニ關スル件)

獨逸側ニ於テ是非共支那トノ間ニ通商條約締結ノ希望アルニ於テハ原則トシテノ最惠國待遇ヲ規定スル簡單ナル暫定

協定ヲ締結セシムルモ可ナリトノ御意見ト察セラルル處御承知ノ通り北支蒙疆ハ日支高度合作地帶トシテ特殊ノ地位ヲ有シ居リ苟且ニモ右特殊地位ニ重大ナル影響ヲ及ホスカ如キコトハ絕對ニ避クルヲ要スル儀ト思考スルニ付既ニ御氣附ノコトト存スルモ右御含ノ上御措置相成様致度シ南大、上海ニ轉電セリ

1105

昭和16年7月23日

豊田外務大臣より  
在英国上村臨時代理大使宛(電報)

重慶政權が英ソ協定を極東に適用して日英衝突の機会を作らんと策動中との情報通報

本省 7月23日後9時5分発

第二二九號(館長符號拔)

左記貴官限リノ御含迄

確實ナル情報ニ依レバ支那側ハ英「ソ」協定ヲ極東ニ適用シ日英衝突ノ機會ヲ作ラント焦慮シ顧大使ハ各方面ニ盛ニ働キカケ居レリ

1106

昭和16年8月4日

在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

重慶における經濟建設は英米人の掌握下にあるとの情報報告

第一四四六號

二日W、A情報

上海 8月4日後発  
本省 8月4日夜着

最近重慶ヨリ來滬セル關係者ノ談ニ依レハ現在同地ノ經濟建設ハ完全ニ英米人ノ掌握下ニアリ所謂生産合作社ハ英人及宋美齡ニ領導セラレ實業部ハ之ニ干與セス主要職員ハ「ニュージーランド」或ハ濠洲方面ヨリ來レル英人竝ニ英米留學生又ハ上海英米協會系學校出身者ニ占メラレ是等ハ傍ラ貿易ヲ内職トシ上海ニ同校用品トシテ差入レル貨物ノ八割ハ其ノ商品ニシテ之ニ依リ産ヲナス者多キモ宋美齡ノ勢威ニ恐レテ暴露スル者ナシ

交通機關ノ技術者モ總テ英米留學生ニシテ白耳義其ノ他ノ各國留學生ハ既ニ休職或ハ他轉セリ又外交權ハ宋美齡、孔祥熙、トーケンコー之ヲ牛耳リ一切ノ外交事項ハ彼等ト英

米外交官ニ於テ協議決定スル有様ナル由委細郵報  
參考迄ニ南大ハ轉報セリ

1107

昭和16年8月8日  
在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

仏国をしてわが方の事変処理に協力せしめる  
ための根本方針設定方意見具申

上海 8月8日後発  
本省 8月8日後着

第一四七九號

貴電第七九五號竝ニ八月五日附拙信外機密第二一四二號ニ  
關シ

一、支那各地ニ於ケル佛租界及駐屯軍其ノ他佛權益ヲ繞ル諸  
問題ニ關シ佛側ヲシテ事變處理ニ一層協力セシムル要ア  
ルコト勿論ナルカ從來在支日佛間案件ノ處理ニ當リ彼我  
双方ニ明確ナル共通ノ態度方針ナキ爲各種問題發生毎ニ  
其ノ場限りノ解決ヲ圖リ之カ爲或ハ今次漢口佛租界問題  
ノ如ク一足飛ヒニ警察權ノ接收迄要求シ無理押ノ形ニ出  
ツル如キ意見モ出テタル事例アリ一方當地佛租界内國民

政府外交部文書接收ノ如キ比較的簡單ナル問題ニ手古摺  
ル反面モアル次第ナリ

二、右ノ如ク明確ナル方針ノ缺如ハ我方トシテモ時トシテ各  
地各様ノ工作ニ走り乃至我方出先機關ノ不一致ヲ生スル  
素因トナリ一方佛側ニ對シテハ案件發生毎ニ現地佛官憲  
及居留民ニ強キ不満ヲ與ヘ又支那側及第三國側ニ對シテ  
モ弱イ者虐メノ感ヲ與フル結果トナリ面白カラサルノミ  
ナラス右ノ如キ實情ノ下ニ於テハ兎角問題ノ解決ヲ拗ラ  
セ又假令解決スルモ彼我共ニ割切レサル氣持ヲ後ニ遺シ  
結局一般情勢ノ積極的轉回ニハ何等寄與セサル次第ナリ  
之ヲ當地ニ於テ見ルモ對共同租界施策ノ前提トシテノ佛  
租界ニ對スル諸要求ノ具現ヲ阻害スル大原因ハ右ニ存ス  
ルモノト認メラル

三、就テハ佛國ヲシテ佛印共同防衛ヲ受諾セシメタル今日ニ  
テモアリ此ノ際更メテ佛側ヲシテ明確ニ我事變處理ニ協  
力スルノ根本方針(一昨年ノ有田「アンリー」協定ヲ一  
層押進メタルモノ)ヲ採用セシメ之カ要領トシテ(一)國民  
政府ヲ承認セシムルコト必要ト存ス之ニ依リ佛出先官憲  
ノ立場ヲ明確且容易ナラシメ前記外交文書返還問題ノ如

キハ素ヨリ佛租界ニ於ケル新法幣ノ採用重慶側機關乃至抗日分子ノ彈壓等租界關係諸問題ノ解決ニモ資スル所アルヘキカ(二)更ニ直接佛租界問題ノ解決又ハ調整(租界返還迄行カストモ警備治安、物資統制、通貨ノ問題等事變處理ニ必要ナル事項ニ關スル協力ノ約束竝ニ右ニ伴フ我方ノ管理權又ハ國民政府ノ發言權ノ設定等)竝ニ(三)駐屯軍問題ノ處理(引揚若クハ日佛共同防衛ノ原則承認等)ヲモ此ノ際正面ヨリ堂々ト要求シ佛側ト協定スルハ事變處理ニ實質的ニ寄與スル所少カラサルヘシト認メラル

四、冒頭貴電佛側申入ニ對スル當地陸海軍側ノ意嚮ハ結局中央一任ニアリタルカ當方ノ意見ハ前陳ノ如クニシテ此ノ種事項ニ關シ一々嫌カラセの態度ニ出ツルハ不可ナルカ左リトテ佛印ニ對シ壓力的ニ出テタル代リニ支那ニ於テ軟カニセントスルカ如キハ現實ノ事態ニ反シ一貫性ナキ政策ニ終ル危險アリ面白カラサルヘキヲ以テ此ノ際縷述ノ如ク合理的要求ヲ正面ヨリ切出スコト緊要ト認ム

右卓見中國政府承認問題ニ關シテハ既ニ御考慮或ハ御手配中カト存スルモ爲念申進ス

在支各總領事、香港へ轉電セリ

1108

昭和16年8月20日

在広東高津総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

援蔣物資取締等に関するマカオ当局への申入  
れ案を三省関係者で協議決定について

別電

昭和十六年八月二十日發在広東高津総領事より  
り豊田外務大臣宛第三一九号

右申入れ案

広東 8月20日後發

本省 8月20日後着

第三一八號(至急、極秘、館長符號扱)

貴電第一一一號及第一二六號ニ關シ(澳門ニ於ケル援蔣物資取締ニ關スル件)

十九日軍司令部ニ本官陸海軍參謀長各關係官(福井領事代理ヲ含ム)參集別電第三一九號ノ通り澳門ニ對スル敵性排除ニ關スル申入事項ヲ協議決定右ニ依リ申入案文ヲ確定ノ上來週更ニ在澳門福井領事代理ニ於テ交渉開始ノ豫定ナルカ若シ我方申入ヲ拒否スルニ於テハ陸海軍ニ於テ澳門封鎖ヲ強化スル趣ナリ委細別電ニ付御了悉ノ上何等御意見モアラハ至急御電訓相成度シ尙陸海軍モ夫々中央へ連絡済ミ

(別電)

広東 8月20日後発  
本省 8月20日夜着

第三一九號(至急、館長符號扱)

一、未占領地向ケ軍需品及利敵物資ノ輸送禁止取締

(イ) 澳門ヲ中繼トシテ未占領地ノ支那沿岸及緬甸佛印廣州  
灣等ヲ經由シテ敵地ヘ流入スル軍需品ノ禁止及其ノ他  
利敵物資トナルヘキ總ヘテノ物資ノ輸送ノ嚴重取締ニ  
任スルコト

(ロ) 特ニ敵地流入ノ利敵物資ハ澳門ヨリ日本軍ノ對支封鎖  
侵犯ヲ企圖スル密航船ニ依リ多ク輸送セラレツアル  
現状ナルヲ以テ常ニ澳門港内ノ船舶ヲ調査シ此等密航  
ヲ停止セシムルコト

(ハ) 澳門政廳ノ實施スル右二項ノ禁止及取締ニ對シ日本側  
ハ之ニ協力スルモノトス

之カ爲澳門領内ニ於テ日本側機關ニ屬スル人員及使用  
船ニ對シ協力ニ必要ナル便宜ヲ供與シ且之カ保護ニ當  
ルコト

ニ、我方ノ指定スル重慶側機關ノ閉鎖或ハ敵性人物ノ追放

(イ) 重慶側諜報謀略機關アリテ我方占領地内ノ攪亂ヲ計リ  
ツツアリ我方ノ指定ニ依リ之カ閉鎖ヲナスコト

(ロ) 敵性ヲ有スル運輸公司竝ニ運輸業者ノ組織スル秘密結  
社アリ之カ徹底の取締竝ニ處分ヲナスコト

三、反日宣傳「デマ」及言論竝ニ結社ノ徹底の取締

(イ) 支那紙外字紙ヲ問ハス反日的及反國民政府の言論放送  
映畫政治運動等ノ取締

(ロ) 「テロ」行爲ノ取締竝ニ此ノ種人員ノ侵入防止



1109 昭和16年9月1日 在広東高津総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

援蔣物資取締等に関するわが方申入れをマカ  
オ当局受諾について

広東 9月1日後発  
本省 9月1日夜着

第三三四號(館長符號扱)

往電第三二九號ニ關シ八月三十日歸任シタル工藤ノ報告左  
ノ通り

一、二十七日福井、朝比奈帶同澳門總督ヲ往訪往電第三一八號決定案ニ基ク總督宛公文ヲ手交交渉ヲ開始更ニ二日間續行ス此ノ間總督ハ專ラ純理論ヲ以テ我方公文ヲ檢討シ主權侵害ノ嫌アリ一存ニテ諾否決定シ難シト爲セルニ對シ福井ハ專ラ密輸其ノ他援蔣の事實ヲ擧ケ事實論ヲ以テ應酬今次提案ノ實質的意義ヲ闡明シ飽迄モ現實的問題トシテ考慮方要望ス一方二回ニ亘リ經濟局長「ロボ」ト私的會談ヲ爲シ本件申入ニ對スル軍部ノ強キ決意(徹底封鎖)(中山縣貿易再開ノ用意)アル旨ヲ其レトナク句ハシ交渉ノ側面的誘導ニ努力セリ其ノ結果二十九日ノ交渉ニ於テ終ニ總督モ我方ノ真意ヲ諒解シニ、三公文字句ハ兎毛角トシテ全面的ニ本件申入ヲ受諾スルニ至レリ

二、總督ノ問題トシタル字句ハ往電第三一九號ノ「ハ」(ハ)「日本側協力」ニ、ノ「我方指定」ニ、ノ「徹底的取締」ニシテ右ハ澳門統治權ニ抵觸シ或ハ事實上不能ヲ強フルト云フニアリタルカ我方ノ説明ニ依リ納得セリ

三、二十九日ノ會談ニ於テ經濟局長ハ我方申入ノ眼目タル密輸取締ノ徹底ヲ期スル爲(イ)爾今一切ノ戈克貿易及戈克ノ澳門港出入ヲ禁止ス(ロ)廣州灣及佛印向貨物ニ付テハ日本

側ノ指定スルモノ以外ノ輸出ヲ許可セス積荷目録ハ日本側ノ閱覽ニ供スト約束シ又總督ハ平服軍憲數名カ隨時澳門領内及領海ヲ巡廻シ疑ハシキ船及人ヲ點檢スルモ差支ナキコト及之カ爲必要ナル護身用「ピストル」ノ携帯ヲ許可スヘシト確約セルヲ以テ福井ハ我方申入受諾ノ回答文ヲ早日ニ受ケタキ旨申入レ本件交渉ヲ一應終結セシム

四、右ノ通り我方申入ハ事實上全面的ニ受諾セラレタル次第ナルカ右ハ福井ノ交渉カ用意周到ナリシト平生ヨリ總督ノ同官ニ對スル信賴深カリシニ依ルト見ラル

尙本一日軍司令部ニ關係機關ノ聯絡會議開催前記ニ乃至三、二付説明シタル處右ニテ異議ナキ旨ノ決定ヲ得タルヲ以テ協力實施ニ關スル軍側具體案ヲ協議決定早速實行ニ移スコトナレリ

追テ往電第三一八號及第三一九號ト共ニ北大、南大、上海ヘ轉電シ香港ヘ暗送セリ



1110

昭和16年11月29日

在ニューヨーク森島総領事より  
東郷外務大臣宛(電報)

ドイツの対重慶和平提案に関する報道報告

付記 昭和十七年一月十四日發在上海堀内総領事より

東郷外務大臣宛電報第七九号

ドイツの日中全面和平工作に関する情報

ニューヨーク 發

本 省 11月29日着

### 特情紐育第四三三號

#### 日支調停のドイツ案

マニラ情報―ドイツは最近重慶側に對し日支紛争解決案を示唆し、日本の南支及び北支よりの撤退に對する代償として支那に對して次の條件を提示した、支那側一部は支那が戰に倦んでゐる所であり日本が支那より撤退すれば何ても承認すると云ふ立場に在る

一、日本軍は印度支那に止まる

一、日本に對シタイ國及び支那に於ける經濟上の特權を賦與する

一、滿洲國が日本の下に自治領の地位を有するを認める

一、ドイツを通し日支間に經濟取極を行ひ、日本に對し支那に於ける通商上の特權を與える

蔣介石は現下の危局に當り援蔣民主諸國より少しでも見離

されは到底右ドイツの壓迫を却け得ぬ實情を看取し、米國政府へ對して對支援助強化の強硬要求を行つた結果、ハル長官の對日覺書手交となつたものである。

日本側はドイツ新公使フリントツ・ウイーデマンの南京到着以來、極東に於けるドイツ側の行動に疑惑の念を懷くに至つた、支那被占領地域に於けるナチの新政策は日本が全支經濟を併吞するを阻止して、ドイツもその分前に有りつく日に備へんとするものの如く、ウイーデマン公使は汪精衛に對し南京政府が今少しく權利を確保するやう説いたと傳へられる

#### (付記)

上海 昭和17年1月14日後發

本省 昭和17年1月14日夜着

第七九號

十三日JK情報

「タス」方面ヨリ得タル消息ニ依レハ「スターマー」ハ目下日支全面和平工作ニ没頭シ居り最近中國人ニ對シ南京政府カ現狀ヲ以テ推移セハ將來全然出路ナシ唯蔣介石トノ和

平合作ニ依リテノミ政治のニ立脚地アルヘシ目前蔣ハ和平  
の表示ナキモ部下ノ親獨分子ハ和平翼求<sup>(翼)</sup>ノ念久シク日本軍  
部ニ於テ誠意ヲ以テ和平提議ヲ爲サハ全面和平ハ充分成立  
ノ見込アリト述ヘタル趣ナリ又「ブイドマン」ハ南京ニ於  
テ同地政府一要人ニ對シ赴<sup>(去)</sup>ノ上蔣ト和平交渉ヲ試ムヘシ  
必要アラハ飛行機ヲ準備シ交渉ノ申出ヲ送り届クヘシト勸  
メタル旨ヲ當地某洋行買<sup>(辨)</sup>ニ語リタル由

「ロゴフ」ノ推算ニ依レハ獨逸ハ且下日本及支那ニ五百餘  
名ノ工作員ヲ有シ専ラ日支全面和平工作ヲ行ハシメ居ルカ  
特ニ日本軍部ニ對スル活動積極的ナル由尙右ハ獨逸側力戰  
後支那ニ於ケル分前ニ與ラン魂膽ニ出ツルモノニシテ又右  
獨側ノ動向ニ對シテハ蘇聯邦側ニテ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居  
ル旨丁Kハ附言シ居タリ

南大、北大へ轉電セリ